

## 第2章 高齢者を取り巻く状況

### 1 各種統計データからみる吹田市の現状

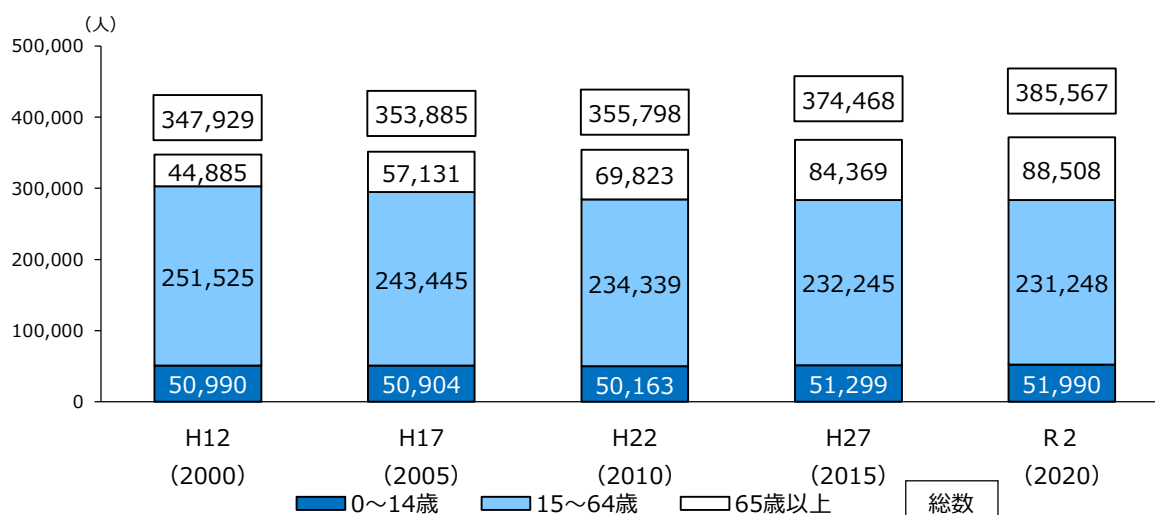
#### (1) 20年間における人口の推移(国勢調査)

##### ①年齢3区分別人口の推移

全国的に人口が減少に転じている中、本市の総人口は年々増加しており、2020年で385,567人と、この20年間で1.1倍となっています。

年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口は横ばい、15～64歳の生産年齢人口は減少している中、65歳以上人口は大きく増加しており、2020年で88,508人と、この20年間で2倍近くまで増加しています。

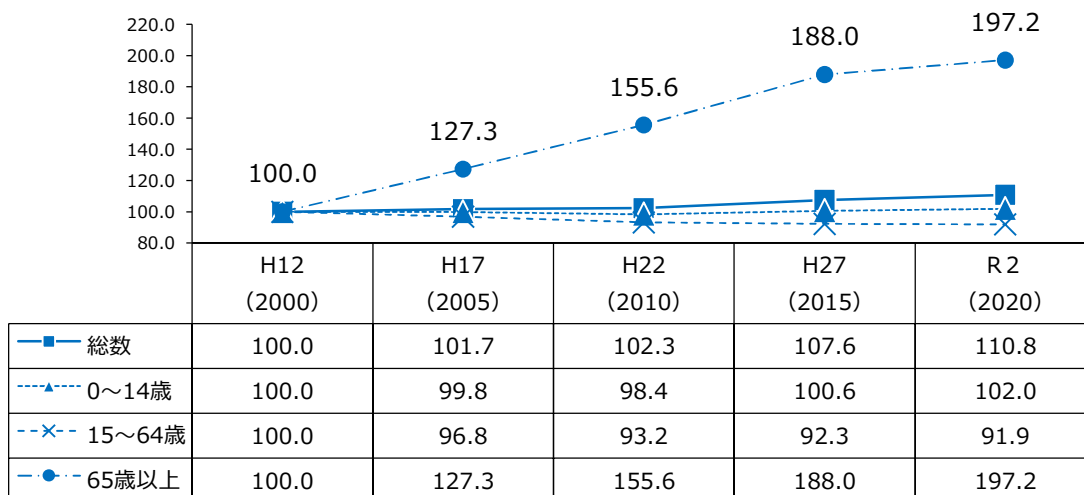
【年齢3区分別人口の推移】



※資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

※年齢不詳人口は少数のため、表記していません。総人口は年齢不詳人口を含んでいます。

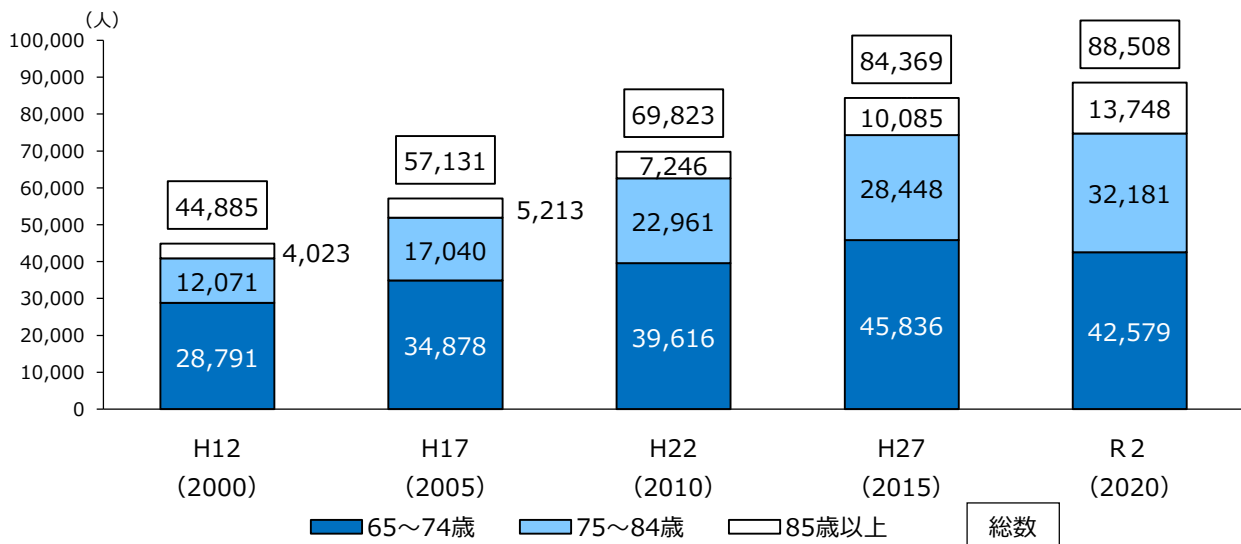
【2000年を100.0とした人口指数】



※資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

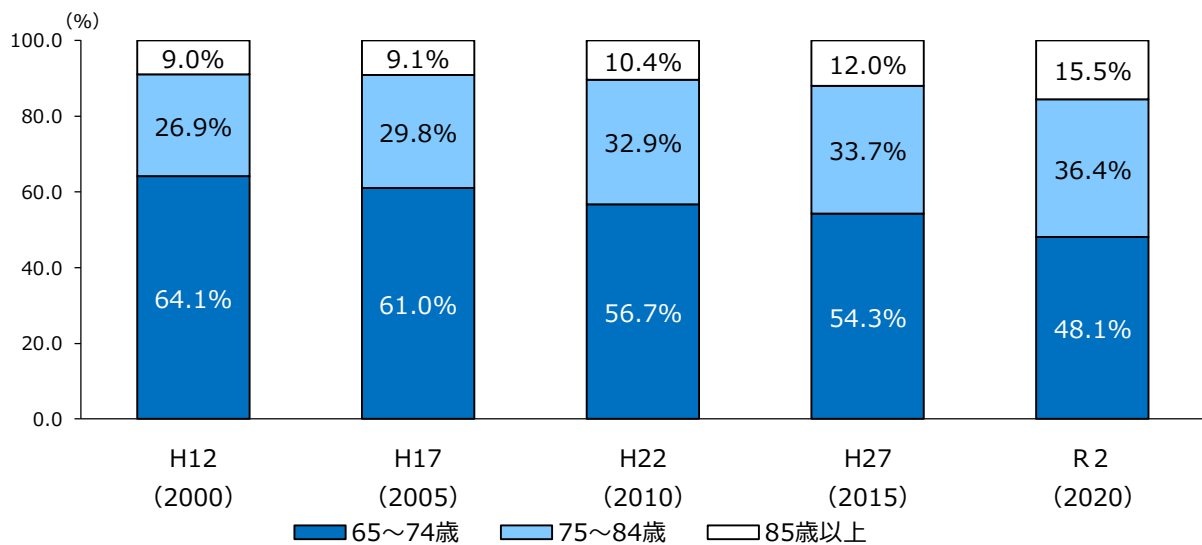
65歳以上人口の構成をみると、2000年は全体の64.1%を65～74歳が占めていましたが、2020年には75歳以上が全体の51.9%を占めており、うち15.5%が85歳以上となっています。

【65歳以上人口の推移】



※資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）

【65歳以上人口の構成割合の推移】

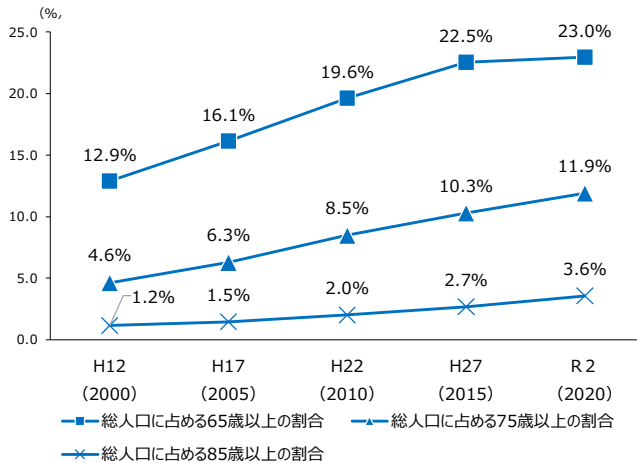


※資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）

総人口に占める 65 歳以上割合は 2000 年で 12.9%、2020 年で 23.0%と、この 20 年で 10.1 ポイント上昇していますが、2015 年から 2020 年にかけては 0.5 ポイントの上昇にとどまっています。

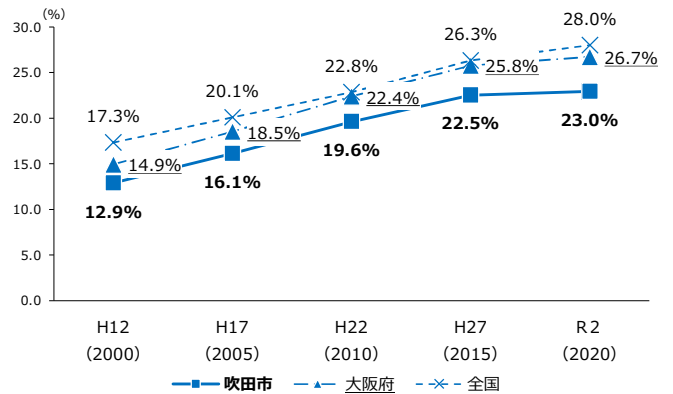
吹田市の総人口に占める 65 歳以上割合・75 歳以上割合は全国・大阪府より低くなっています。

【総人口に占める 65 歳以上割合・75 歳以上割合・85 歳以上割合の推移】



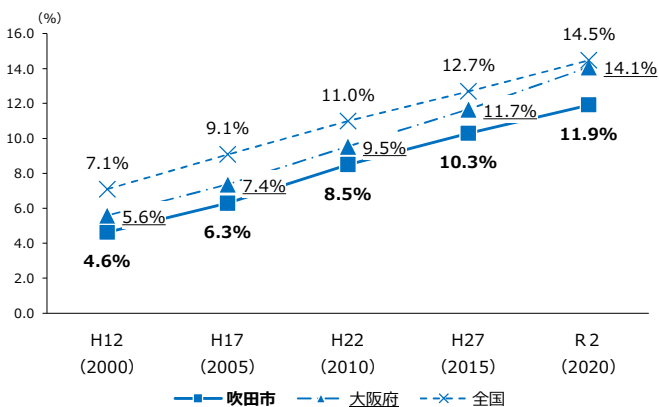
※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

【総人口に占める 65 歳以上割合の推移（全国・大阪府との比較）】



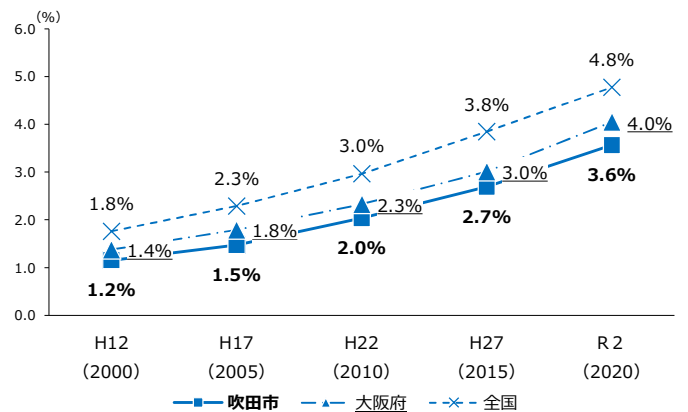
※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

【総人口に占める 75 歳以上割合の推移（全国・大阪府との比較）】



※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

【総人口に占める 85 歳以上割合の推移（全国・大阪府との比較）】



※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

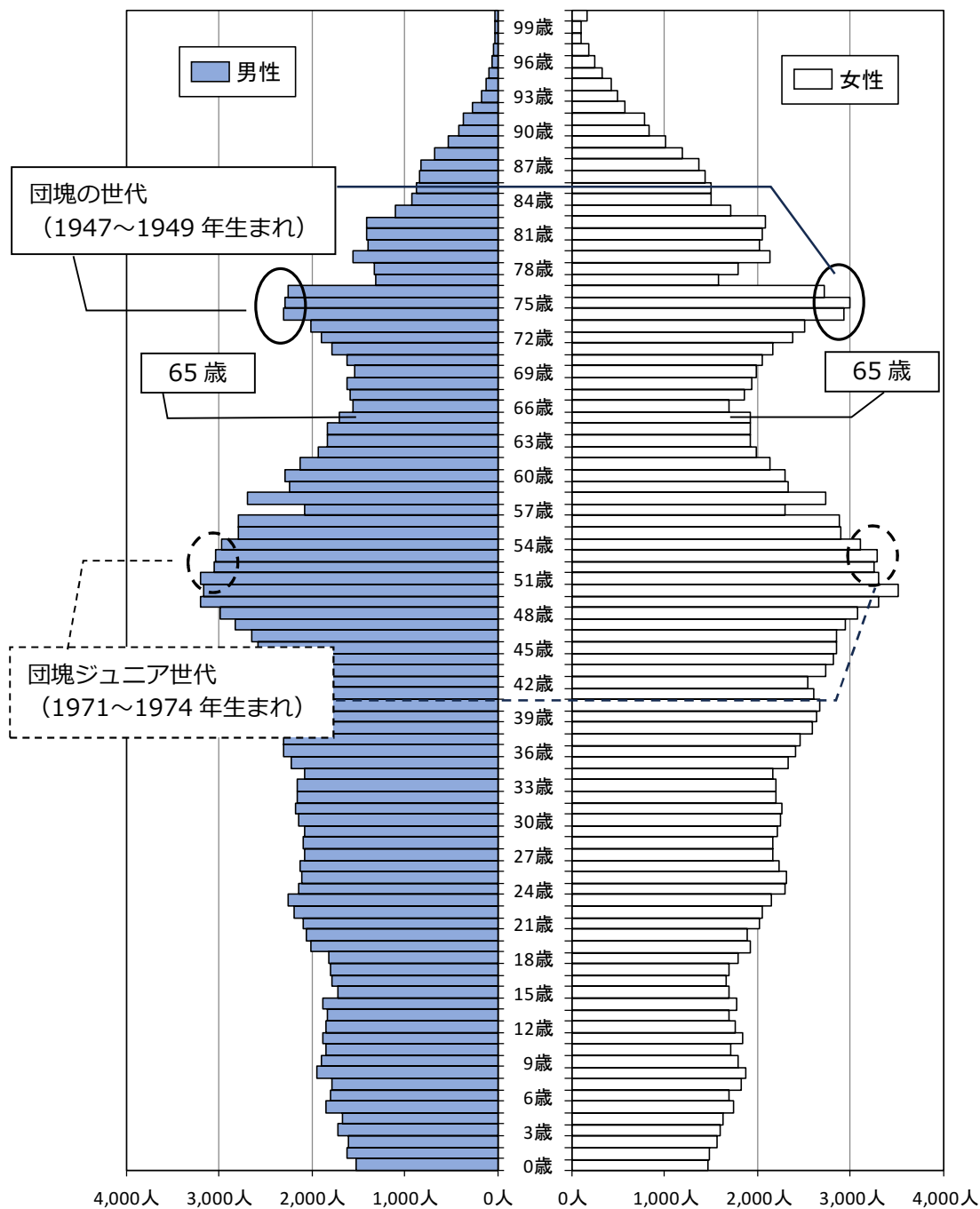
## (2) 近年の人口の推移(住民基本台帳)

### ①人口ピラミッド

2023年9月末の人口は382,491人となっています。

団塊の世代が今後3年間で75歳を超えることから、概ね2025年を境に総人口に占める75歳以上割合が大きく上昇すると考えられます。

また今後は、団塊ジュニア世代が65歳を迎えていくことから、65歳以上人口は徐々に増えていくと考えられます。



※資料：住民基本台帳(2023年9月末日現在)

②年齢別人口及び割合の推移

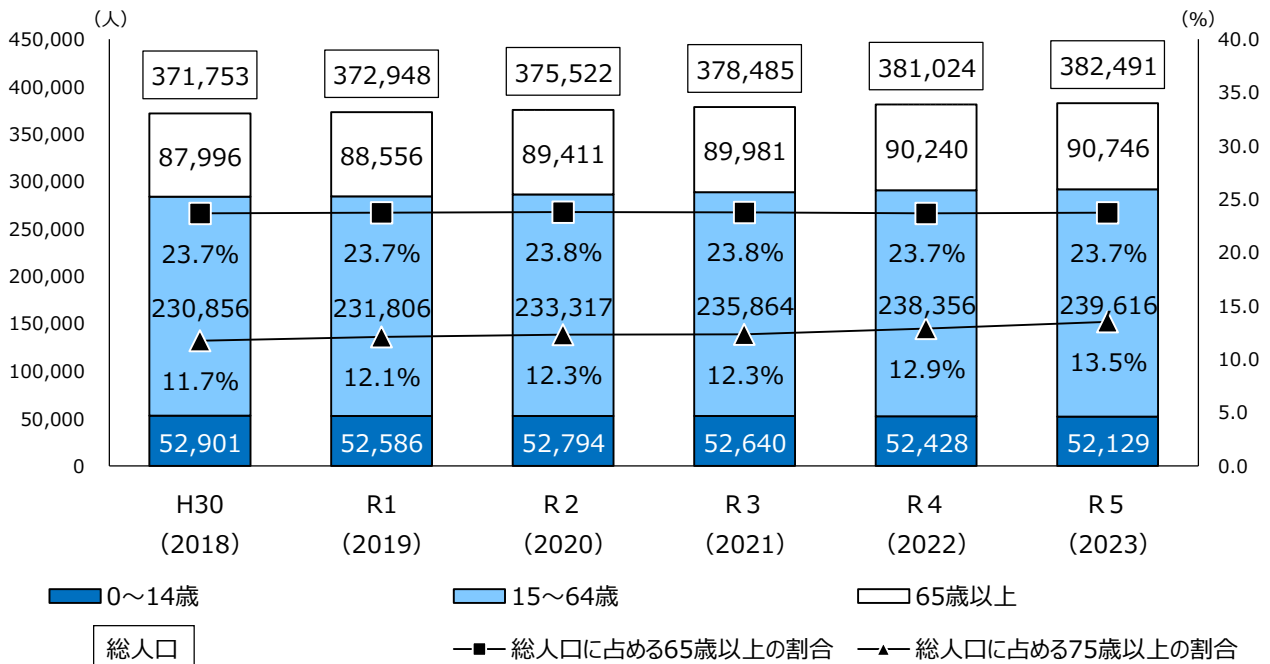
総人口は2023年で382,491人と、年々増加しています。

65歳以上人口も2023年で90,746人と、年々増加し、総人口に占める65歳以上の割合は23.7%、75歳以上の割合は13.5%となっています。

【年齢別人口及び割合の推移】

単位：人

	第7期			第8期		
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
総人口	371,753	372,948	375,522	378,485	381,024	382,491
0～14歳	52,901	52,586	52,794	52,640	52,428	52,129
15～64歳	230,856	231,806	233,317	235,864	238,356	239,616
40～64歳	126,238	127,308	128,966	130,424	132,038	133,164
65歳以上	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,746
65～74歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	39,065
75～84歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	35,556
85歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	16,125
総人口に占める65歳以上の割合	23.7%	23.7%	23.8%	23.8%	23.7%	23.7%
総人口に占める75歳以上の割合	11.7%	12.1%	12.3%	12.3%	12.9%	13.5%



※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

### ③年齢別人口及び割合の推計

将来人口の推計をみると、総人口は今後も増加傾向にあり、2026年では383,040人と、2023年から549人増加する見込みとなっています。その後も増加は続くものの、2040年では378,189人と減少する見込みです。

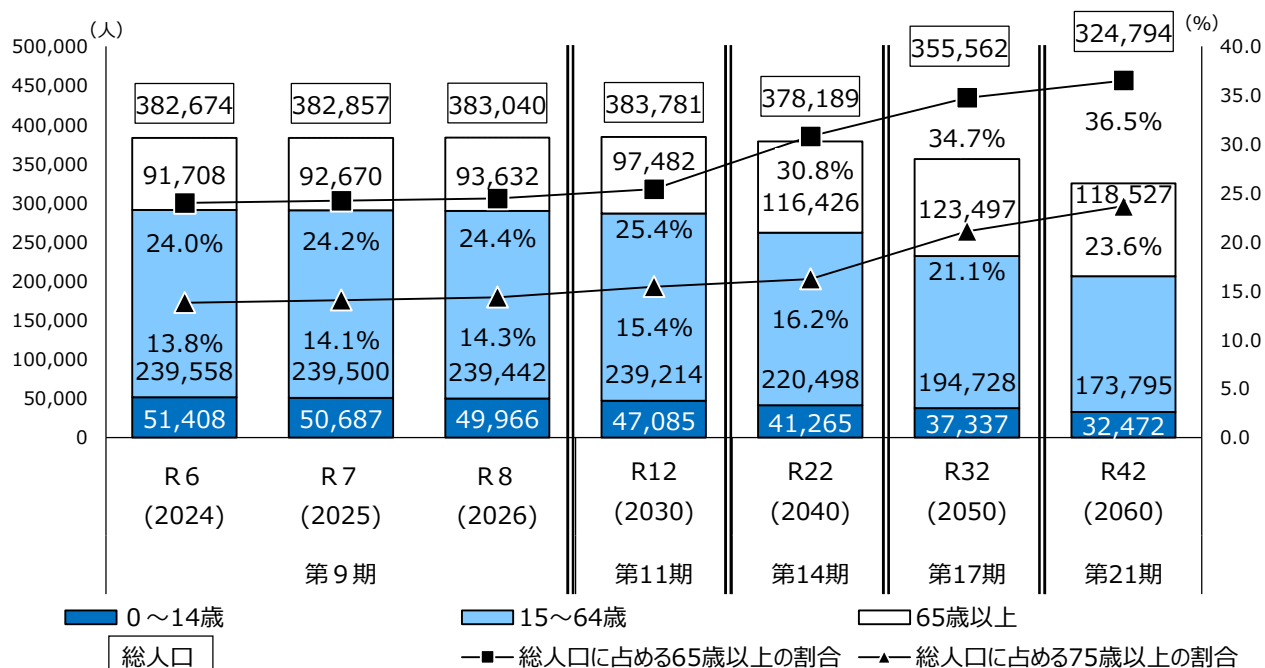
65歳以上の人口は、今後も増加傾向にあり、2026年では93,632人と、2023年から2,886人増加する見込みとなっています。その後も増加は続き、2050年にピーク（65歳以上123,497人）を迎えると見込まれます。

総人口に占める65歳以上・75歳以上の割合ともに一貫して増加する見込みです。

【年齢別人口及び割合の推計】

単位：人

	第9期			第11期	第14期	第17期	第21期
	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
総人口	382,674	382,857	383,040	383,781	378,189	355,562	324,794
0～14歳	51,408	50,687	49,966	47,085	41,265	37,337	32,472
15～64歳	239,558	239,500	239,442	239,214	220,498	194,728	173,795
40～64歳	133,517	133,870	134,223	135,639	119,502	106,859	103,481
65歳以上	91,708	92,670	93,632	97,482	116,426	123,497	118,527
65～74歳	38,964	38,863	38,762	38,358	55,171	48,619	41,730
75～84歳	35,760	35,964	36,168	36,985	33,707	47,578	41,768
85歳以上	16,984	17,843	18,702	22,139	27,548	27,300	35,029
総人口に占める65歳以上の割合	24.0%	24.2%	24.4%	25.4%	30.8%	34.7%	36.5%
総人口に占める75歳以上の割合	13.8%	14.1%	14.3%	15.4%	16.2%	21.1%	23.6%



※吹田市総合計画に基づく人口推計を元に、住民基本台帳の実績から推計。

④65 歳以上人口及び割合の推移

65 歳以上人口を年齢別にみると、65～74 歳は 2022 年に減少に転じています。一方、75 歳以上は年々増加しています。

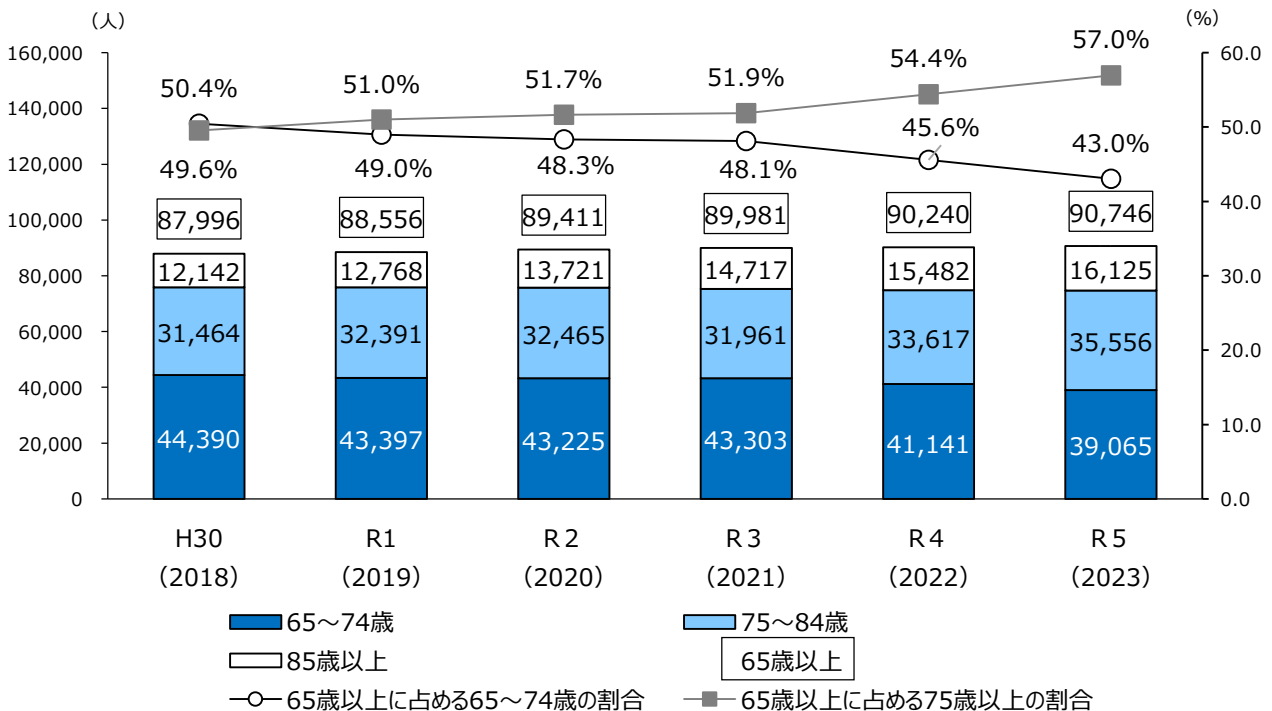
構成割合をみると、2019 年に 75 歳以上の割合が 65～74 歳の割合を上回り、2023 年で 57.0%となっています。

【年齢別 65 歳以上人口と構成割合の推移】

単位：人

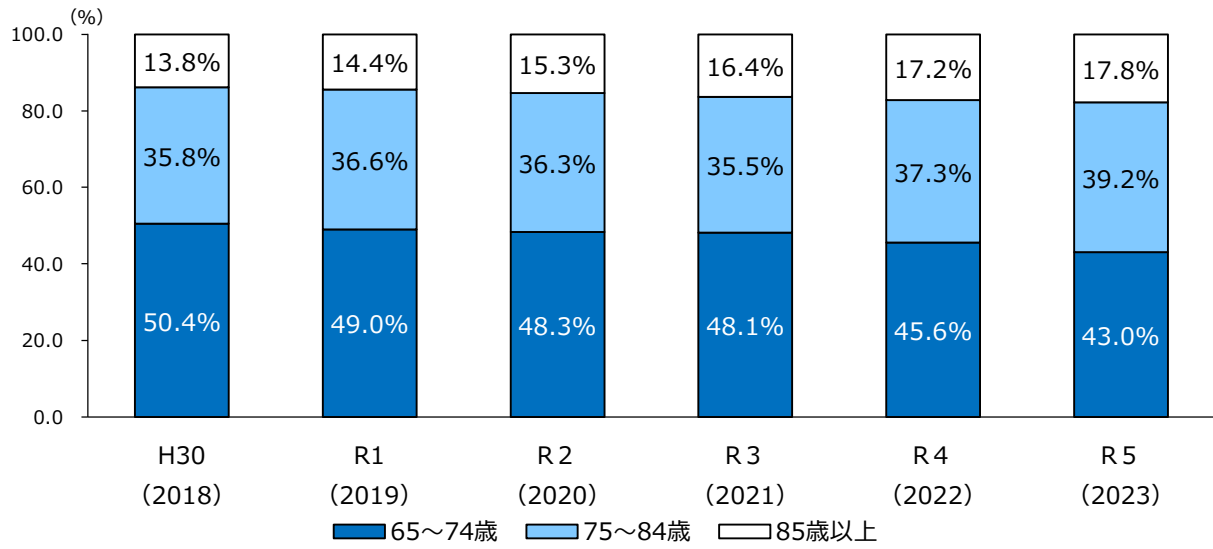
	第7期			第8期		
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
65 歳以上	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,746
65～74 歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	39,065
75 歳以上	43,606	45,159	46,186	46,678	49,099	51,681
75～84 歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	35,556
85 歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	16,125
65 歳以上	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
65～74 歳	50.4%	49.0%	48.3%	48.1%	45.6%	43.0%
75 歳以上	49.6%	51.0%	51.7%	51.9%	54.4%	57.0%
75～84 歳	35.8%	36.6%	36.3%	35.5%	37.3%	39.2%
85 歳以上	13.8%	14.4%	15.3%	16.4%	17.2%	17.8%

【年齢別 65 歳以上人口の推移】



※資料：住民基本台帳（各年 9 月末日現在）

【年齢別 65 歳以上人口構成割合の推移】



※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）



⑤65歳以上人口及び割合の推計

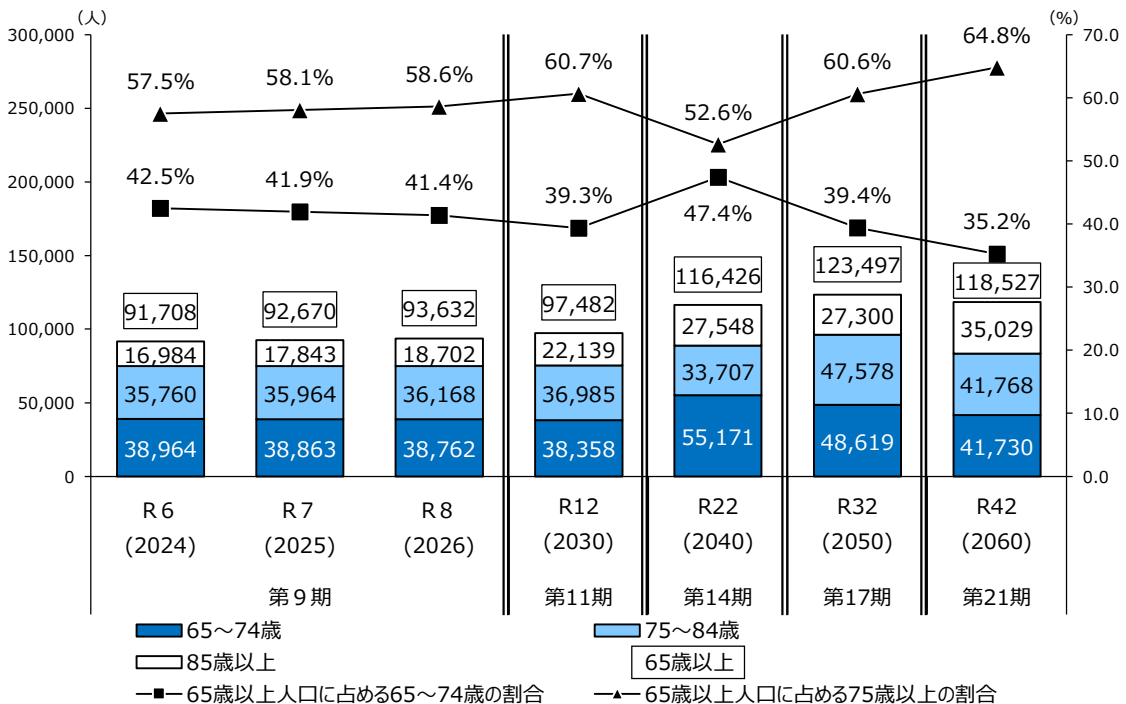
65歳以上人口の推計をみると、2030年まで65～74歳は減少傾向、75歳以上は増加傾向となり、65歳以上人口に占める65～74歳、75歳以上の割合は差が開き続け、2030年では65歳以上人口に占める65～74歳、75歳以上の割合の差が21.4ポイントとなっています。

団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年には65～74歳、75歳以上の割合の差が5.2ポイントにまで縮小し、その後、2050年・2060年になると再度65～74歳、75歳以上の割合は差が広がる見込みとなっています。

【65歳以上人口及び割合の推計】

単位：人

	第9期			第11期	第14期	第17期	第21期
	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
65歳以上	91,708	92,670	93,632	97,482	116,426	123,497	118,527
65～74歳	38,964	38,863	38,762	38,358	55,171	48,619	41,730
75歳以上	52,744	53,807	54,870	59,124	61,255	74,878	76,797
75～84歳	35,760	35,964	36,168	36,985	33,707	47,578	41,768
85歳以上	16,984	17,843	18,702	22,139	27,548	27,300	35,029
65歳以上人口に占める 65～74歳の割合	42.5%	41.9%	41.4%	39.3%	47.4%	39.4%	35.2%
65歳以上人口に占める 75歳以上の割合	57.5%	58.1%	58.6%	60.7%	52.6%	60.6%	64.8%
65歳以上人口に占める 85歳以上の割合	18.5%	19.3%	20.0%	22.7%	23.7%	22.1%	29.6%

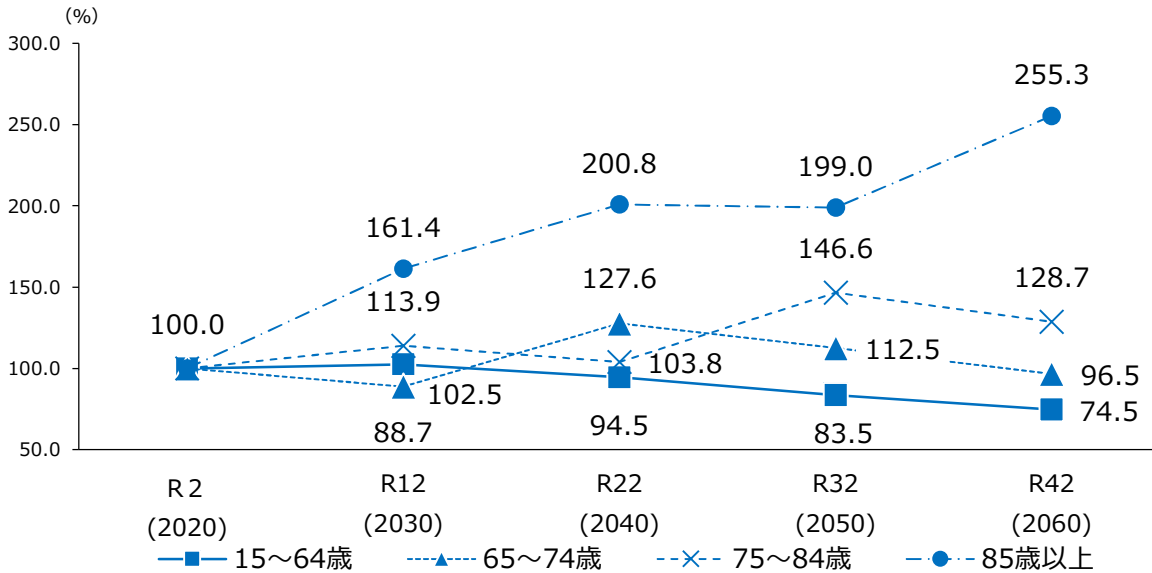


※吹田市総合計画に基づく人口推計を元に、住民基本台帳の実績から推計。

⑥2020年の年齢別人口を100.0とした場合の推移及び推計

2020年の人口を100.0とした推移をみると、85歳以上人口が大きく増加し、2040年には2020年の約2倍、2060年には約2.5倍になると見込まれます。

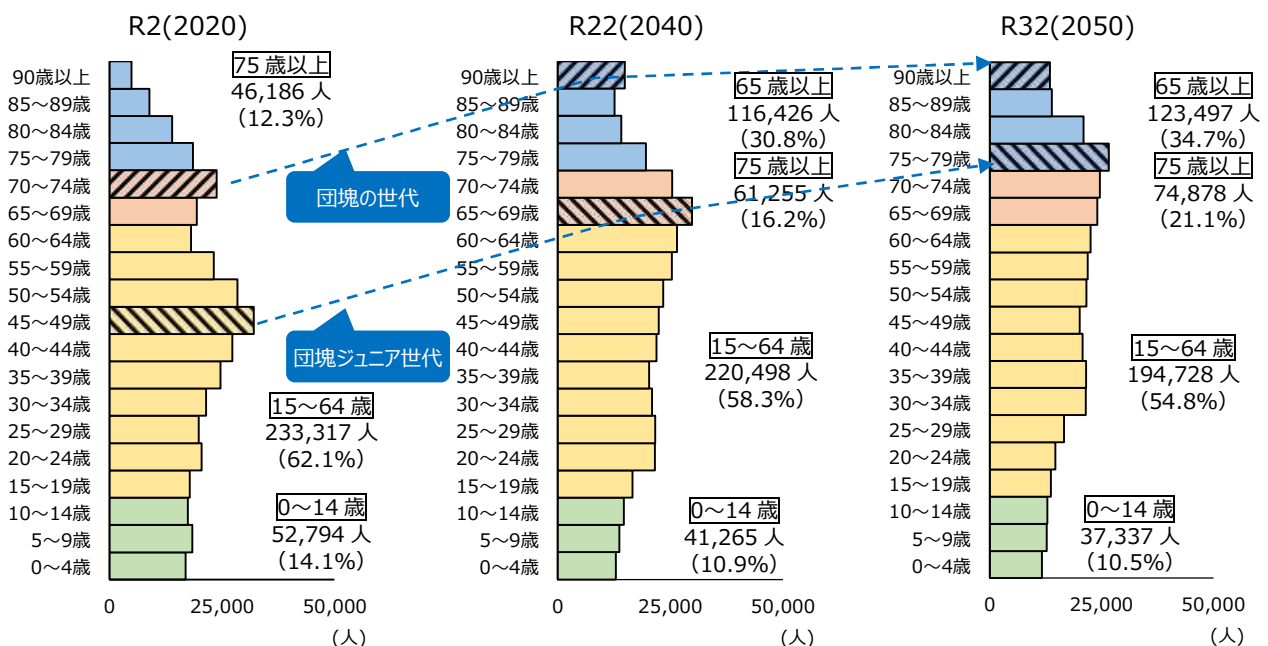
【65歳以上人口及び割合の推計】



※2020年は住民基本台帳（9月末日現在）、推計は吹田市総合計画に基づく人口推計を元に住民基本台帳の実績から推計。

⑦年齢別人口（5歳刻み）の推計

年齢別人口（5歳刻み）の推計をみると、2020年から2040年にかけて最も人口が多い年齢層が徐々に上方へシフトし、2050年にはさらに上方へシフトすると見込まれます。



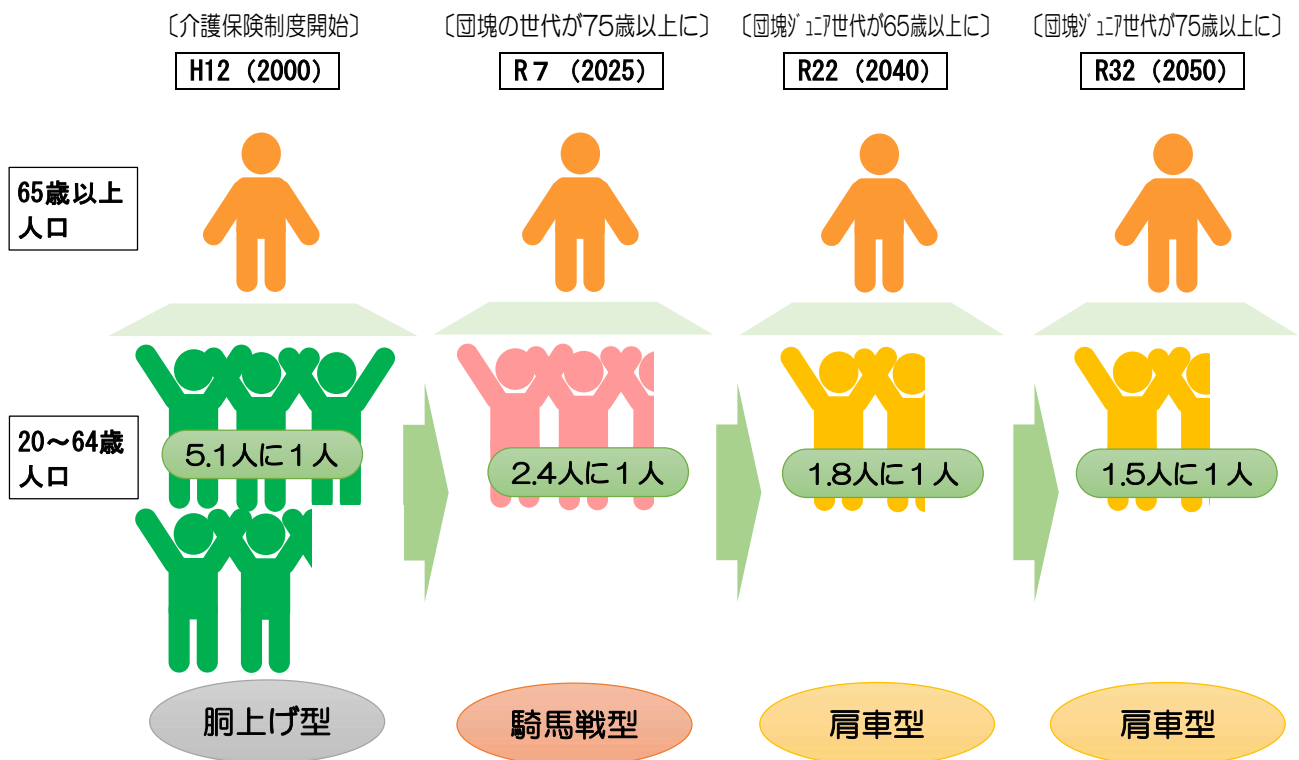
※2020年は住民基本台帳（9月末日現在）、推計は吹田市総合計画に基づく人口推計を元に住民基本台帳の実績から推計。

### ⑧現役世代の負担割合

介護保険制度開始時には65歳以上の方1人に対し現役世代（20～64歳）が5.1人で支える『胴上げ型』であったものが、団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年には現役世代1.8人で1人、2050年には1.5人で1人を支える『肩車型』となる見込みです。

2017年4月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」（出生中位・死亡中位仮定）によると、2040年の全国平均では、1.4人に1人、大阪府平均では1.5人に1人となる見込みであり、同じ『肩車型』でも国や大阪府に比べ支える側が多くなっています。

【現役世代の負担割合】



単位：人

	H12 (2000)	R7 (2025)	R22 (2040)	R32 (2050)
65歳以上	44,885	92,670	116,426	123,497
20～64歳	229,868	220,882	203,920	181,043
人数比	5.1	2.4	1.8	1.5

仮に65～74歳を「支える側」として人数を数えると…

単位：人

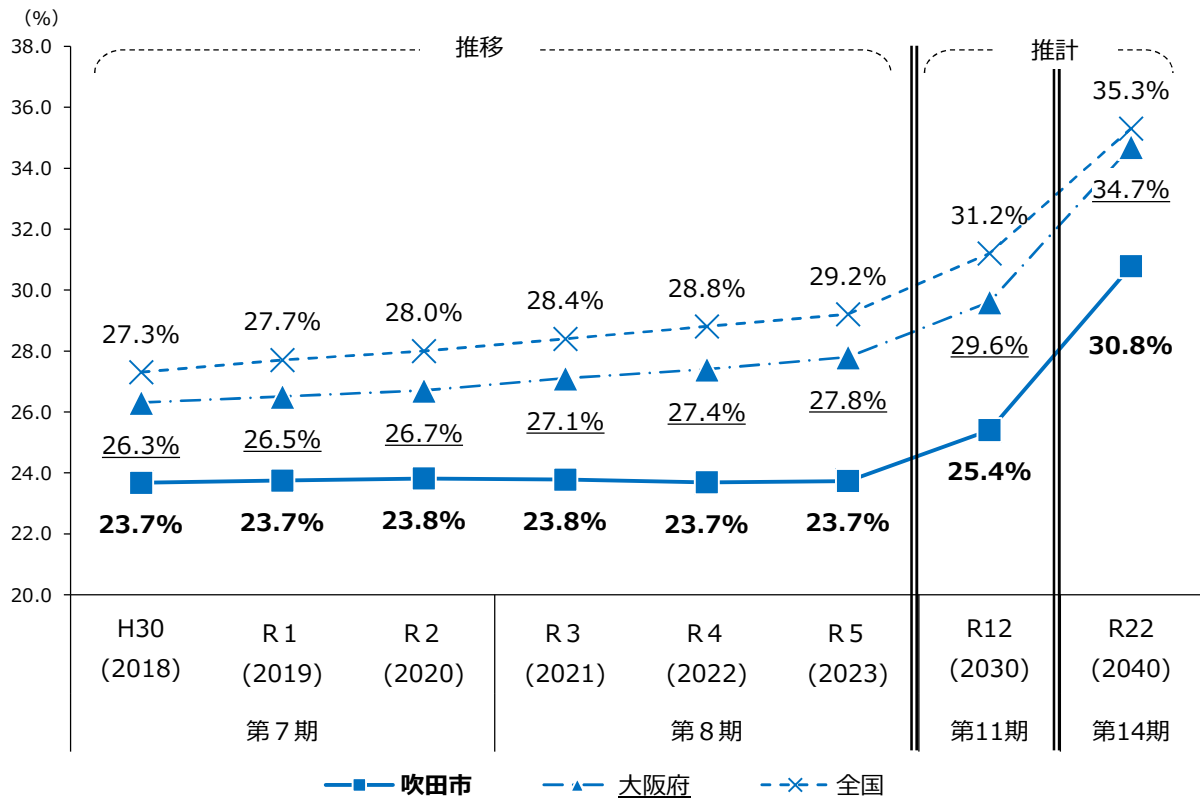
	H12 (2000)	R7 (2025)	R22 (2040)	R32 (2050)
75歳以上	16,094	53,807	61,255	74,878
20～74歳	258,659	259,745	259,091	229,662
人数比	16.1	4.8	4.2	3.1

※2000年は国勢調査（10月1日現在）、2025年以降（推計）は吹田市総合計画に基づく人口推計を元に、住民基本台帳の実績から推計。

### ⑨総人口に占める 65 歳以上人口の割合の比較

総人口に占める 65 歳以上人口の割合をみると、本市は全国・大阪府と比べて低くなっています。2018 年から 2023 年にかけての伸び率も、全国・大阪府を下回っています。

【吹田市と全国、大阪府の総人口に占める 65 歳以上人口の割合の推移及び推計】



※出典：地域包括ケア「見える化」システム（2023 年 11 月調べ）

上記の出典元は、総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

⑩サービス整備圏域別人口の推移及び推計

サービス圏域別人口をみると、2023年時点では、山田・千里丘地域が総人口・65歳以上人口ともに最も多くなっていますが、総人口に占める65歳以上の割合はJR以南地域が最も高くなっています。今後、どの圏域も65歳以上の数は増加すると見込まれます。

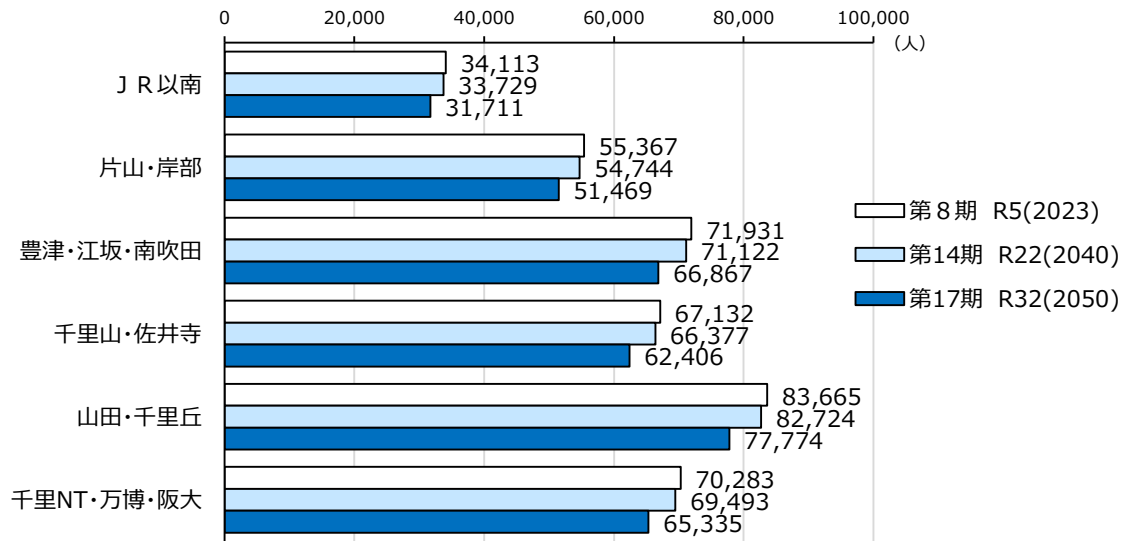
【サービス整備圏域別人口の推移及び推計】

単位：人

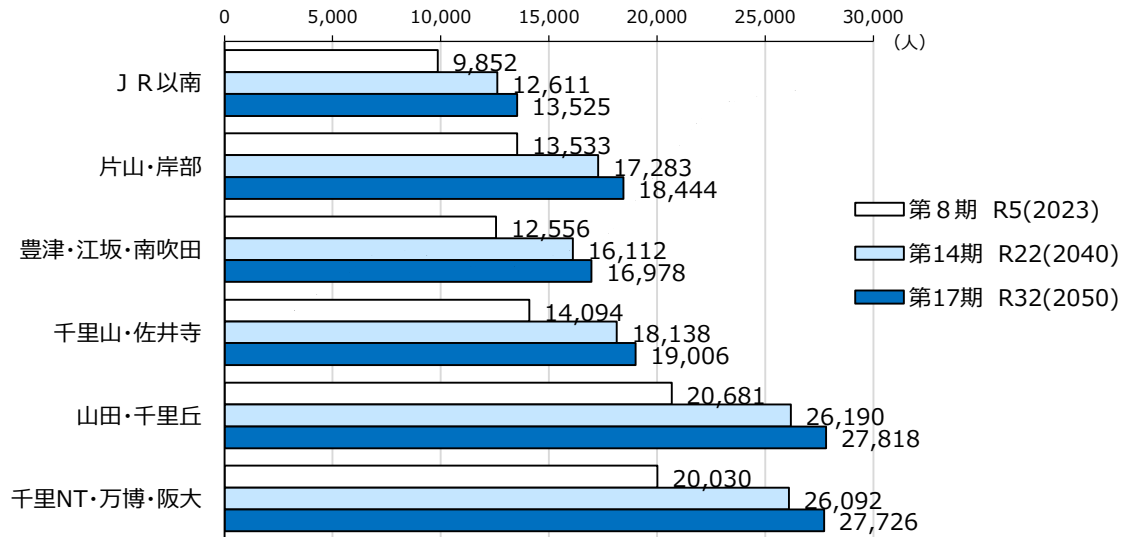
		推移						推計			
		第8期			第9期			第11期	第14期	第17期	第21期
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
JR以南	総人口	34,237	34,169	34,113	34,129	34,146	34,162	34,228	33,729	31,711	28,967
	65歳以上	10,052	9,950	9,852	9,970	10,089	10,207	10,681	12,611	13,525	13,132
	65～74歳	4,395	4,149	3,818	3,808	3,798	3,788	3,749	5,392	4,752	4,078
	75歳以上	5,657	5,801	6,034	6,162	6,291	6,419	6,932	7,219	8,773	9,054
	【再掲】75～84歳	3,842	3,933	4,064	4,087	4,111	4,134	4,227	3,853	5,438	4,774
	【再掲】85歳以上	1,815	1,868	1,970	2,075	2,180	2,285	2,705	3,366	3,335	4,280
	総人口に占める65歳以上の割合	29.4%	29.1%	28.9%	29.2%	29.5%	29.9%	31.2%	37.4%	42.7%	45.3%
総人口に占める75歳以上の割合	16.5%	17.0%	17.7%	18.1%	18.4%	18.8%	20.3%	21.4%	27.7%	31.3%	
片山・岸部	総人口	54,798	55,232	55,367	55,393	55,420	55,446	55,554	54,744	51,469	47,015
	65歳以上	13,414	13,446	13,533	13,678	13,825	13,971	14,557	17,283	18,444	17,719
	65～74歳	6,282	5,960	5,618	5,603	5,589	5,574	5,516	7,934	6,992	6,001
	75歳以上	7,132	7,486	7,915	8,075	8,236	8,397	9,041	9,349	11,452	11,718
	【再掲】75～84歳	4,915	5,139	5,489	5,520	5,552	5,583	5,710	5,204	7,345	6,448
	【再掲】85歳以上	2,217	2,347	2,426	2,555	2,684	2,814	3,331	4,145	4,107	5,270
	総人口に占める65歳以上の割合	24.5%	24.3%	24.4%	24.7%	24.9%	25.2%	26.2%	31.6%	35.8%	37.7%
総人口に占める75歳以上の割合	13.0%	13.6%	14.3%	14.6%	14.9%	15.1%	16.3%	17.1%	22.3%	24.9%	
豊津・江坂・南吹田	総人口	69,896	70,464	71,931	71,965	72,000	72,034	72,174	71,122	66,867	61,081
	65歳以上	12,505	12,429	12,556	12,675	12,796	12,915	13,396	16,112	16,978	16,146
	65～74歳	6,420	5,996	5,764	5,749	5,734	5,719	5,660	8,140	7,174	6,157
	75歳以上	6,085	6,433	6,792	6,926	7,062	7,196	7,736	7,972	9,804	9,989
	【再掲】75～84歳	4,254	4,509	4,776	4,803	4,831	4,858	4,968	4,528	6,391	5,610
	【再掲】85歳以上	1,831	1,924	2,016	2,123	2,231	2,338	2,768	3,444	3,413	4,379
	総人口に占める65歳以上の割合	17.9%	17.6%	17.5%	17.6%	17.8%	17.9%	18.6%	22.7%	25.4%	26.4%
総人口に占める75歳以上の割合	8.7%	9.1%	9.4%	9.6%	9.8%	10.0%	10.7%	11.2%	14.7%	16.4%	
千里山・佐井寺	総人口	66,747	67,407	67,132	67,164	67,196	67,228	67,358	66,377	62,406	57,005
	65歳以上	13,768	13,883	14,094	14,223	14,352	14,480	14,995	18,138	19,006	18,019
	65～74歳	7,289	6,955	6,714	6,697	6,679	6,662	6,592	9,482	8,356	7,172
	75歳以上	6,479	6,928	7,380	7,526	7,673	7,818	8,403	8,656	10,650	10,847
	【再掲】75～84歳	4,481	4,818	5,197	5,227	5,257	5,286	5,406	4,927	6,954	6,105
	【再掲】85歳以上	1,998	2,110	2,183	2,299	2,416	2,532	2,997	3,729	3,696	4,742
	総人口に占める65歳以上の割合	20.6%	20.6%	21.0%	21.2%	21.4%	21.5%	22.3%	27.3%	30.5%	31.6%
総人口に占める75歳以上の割合	9.7%	10.3%	11.0%	11.2%	11.4%	11.6%	12.5%	13.0%	17.1%	19.0%	
山田・千里丘	総人口	83,517	83,523	83,665	83,706	83,745	83,786	83,947	82,724	77,774	71,045
	65歳以上	20,227	20,504	20,681	20,861	21,036	21,216	21,925	26,190	27,818	26,178
	65～74歳	10,700	10,137	9,441	9,417	9,393	9,369	9,271	13,334	11,749	10,086
	75歳以上	9,527	10,367	11,240	11,444	11,643	11,847	12,654	12,856	16,069	16,092
	【再掲】75～84歳	6,970	7,618	8,345	8,394	8,440	8,490	8,680	7,910	11,167	9,803
	【再掲】85歳以上	2,557	2,749	2,895	3,050	3,203	3,357	3,974	4,946	4,902	6,289
	総人口に占める65歳以上の割合	24.2%	24.5%	24.7%	24.9%	25.1%	25.3%	26.1%	31.7%	35.8%	36.8%
総人口に占める75歳以上の割合	11.4%	12.4%	13.4%	13.7%	13.9%	14.1%	15.1%	15.5%	20.7%	22.7%	
千里NT・万博・阪大	総人口	69,290	70,229	70,283	70,317	70,350	70,384	70,520	69,493	65,335	59,681
	65歳以上	20,015	20,028	20,030	20,301	20,572	20,843	21,928	26,092	27,726	27,333
	65～74歳	8,217	7,944	7,710	7,690	7,670	7,650	7,570	10,889	9,596	8,236
	75歳以上	11,798	12,084	12,320	12,611	12,902	13,193	14,358	15,203	18,130	19,097
	【再掲】75～84歳	7,499	7,600	7,685	7,729	7,773	7,817	7,994	7,285	10,283	9,028
	【再掲】85歳以上	4,299	4,484	4,635	4,882	5,129	5,376	6,364	7,918	7,847	10,069
	総人口に占める65歳以上の割合	28.9%	28.5%	28.5%	28.9%	29.2%	29.6%	31.1%	37.5%	42.4%	45.8%
総人口に占める75歳以上の割合	17.0%	17.2%	17.5%	17.9%	18.3%	18.7%	20.4%	21.9%	27.7%	32.0%	

※資料：2023年までは住民基本台帳（各年9月末現在）、2024年以降は吹田市総合計画に基づく人口推計を元に、住民基本台帳の実績から推計。

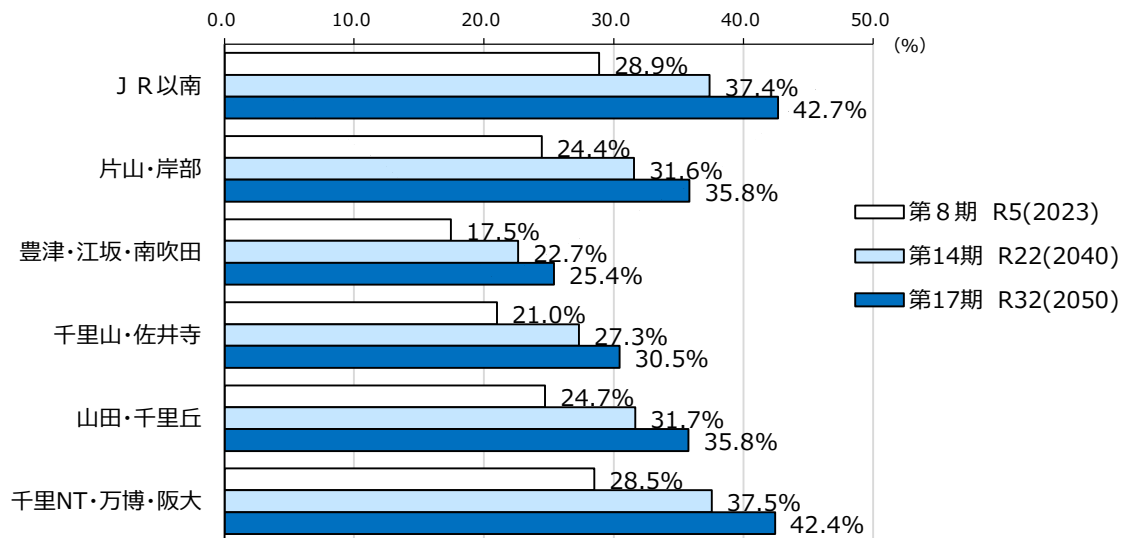
【サービス整備圏域別の総人口の推移及び推計】



【サービス整備圏域別の65歳以上人口の推移及び推計】



【サービス整備圏域別の総人口に占める65歳以上人口の割合の推移及び推計】



### (3) 世帯の状況

#### ①一般世帯数、65歳以上の方がいる世帯数の推移

一般世帯数は2020年で179,962世帯と年々増加しています。

65歳以上の方がいる世帯も年々増加しており、2020年で58,226世帯となっています。一般世帯に占める65歳以上の方がいる世帯の割合は2020年で32.4%と、2015年から2020年にかけてわずかに減少しています。

吹田市の65歳以上の方がいる世帯の割合は全国・大阪府に比べて低くなっています。

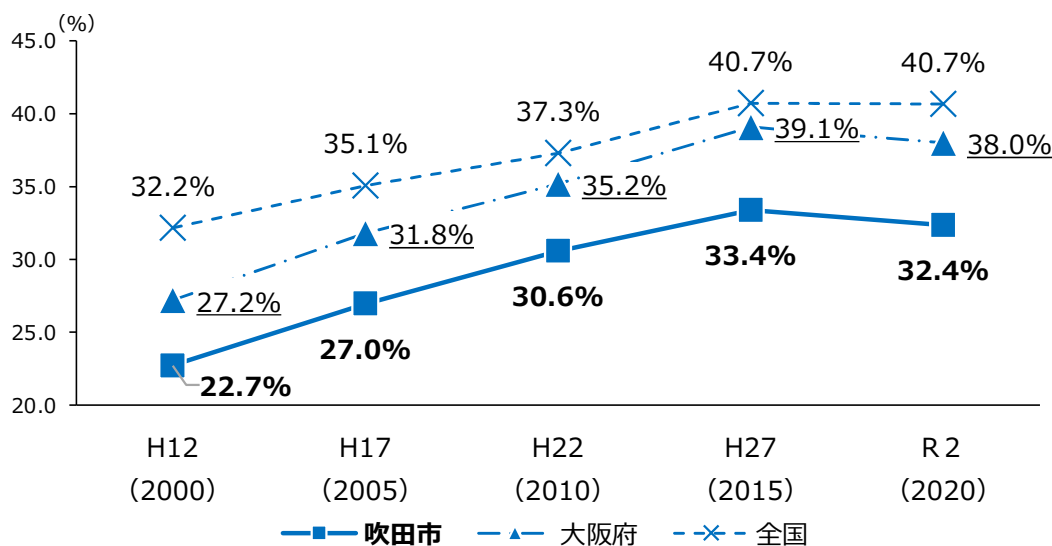
【一般世帯数、65歳以上の方がいる世帯数の推移】

単位：世帯、%

		H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
一般世帯数	世帯数	141,340	147,242	154,587	168,363	179,962
	割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
65歳以上の方がいる世帯	世帯数	32,098	39,696	47,273	56,197	58,226
	割合	22.7	27.0	30.6	33.4	32.4
うち65歳以上の単身世帯	世帯数	8,317	11,337	14,539	18,324	19,773
	割合	5.9	7.7	9.4	10.9	11.0
うち65歳以上の夫婦のみ世帯 (夫婦ともに65歳以上)	世帯数	7,311	9,979	12,592	15,605	17,178
	割合	5.2	6.8	8.1	9.3	9.5
その他一般世帯	世帯数	109,242	107,546	107,314	112,166	121,736
	割合	77.3	73.0	69.4	66.6	67.6

※資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

【65歳以上の方がいる世帯割合の推移(全国・大阪府との比較)】



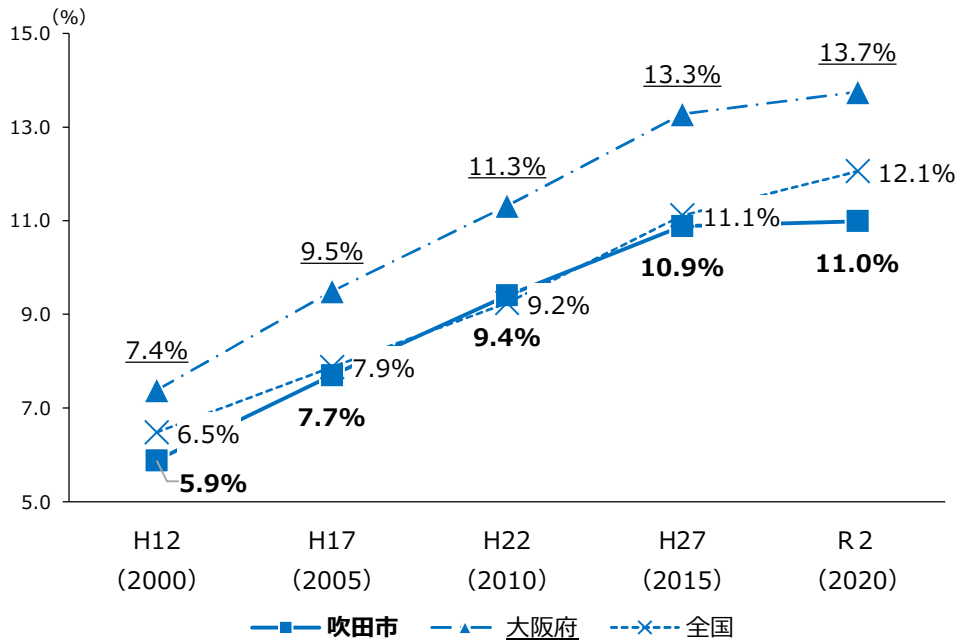
※資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

## ②65 歳以上の単身世帯割合、65 歳以上の夫婦のみ世帯割合の推移

65 歳以上の単身世帯割合の推移をみると、2020 年で 11.0%と、2015 年までは大きく増加してきましたが、2015 年から 2020 年にかけてほぼ横ばいとなっています。全国・大阪府より 65 歳以上の単身世帯割合は低くなっています。

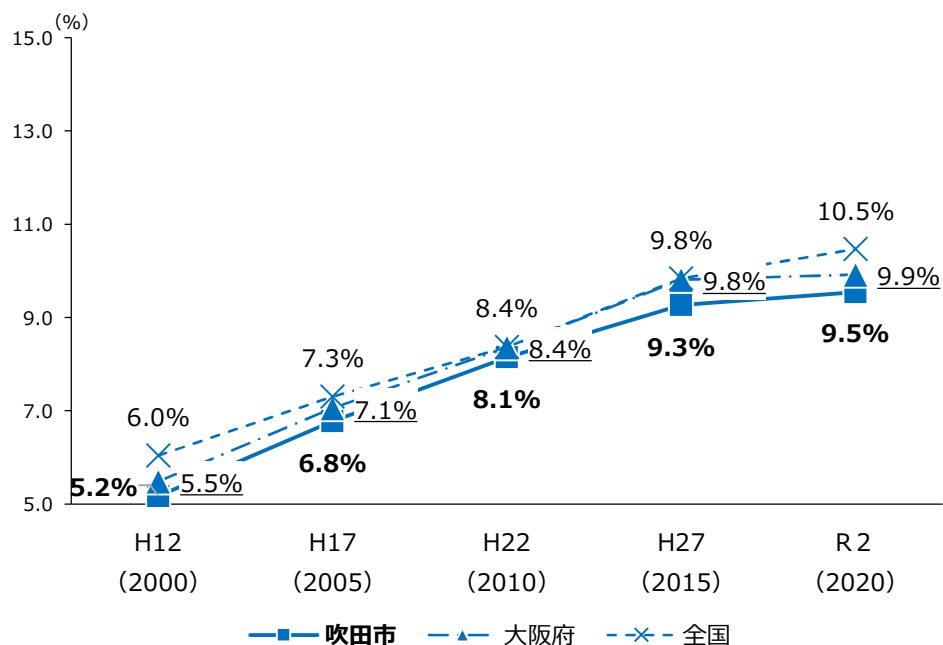
65 歳以上の夫婦のみ世帯は 2020 年で 9.5%と、65 歳以上の単身世帯と同様に 2015 年から 2020 年にかけてほぼ横ばい、全国・大阪府より低くなっています。

【65 歳以上の単身世帯割合の推移】



※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

【65 歳以上の夫婦のみ世帯割合の推移】



※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

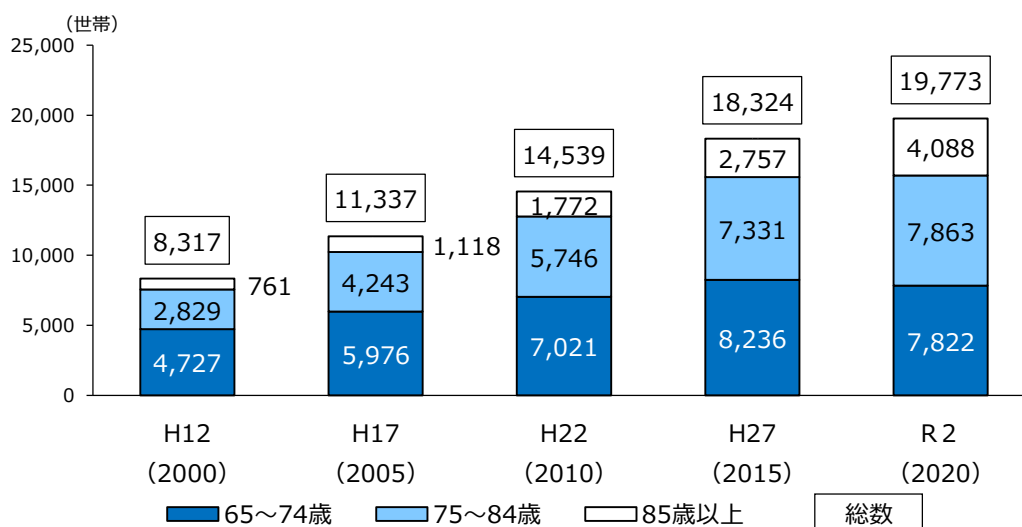


### ③年齢別 65 歳以上の単身世帯の推移

65 歳以上の単身世帯を年齢別にみると、65～74 歳は 2015 年から 2020 年にかけて減少していますが、75 歳以上は年々増加しています。

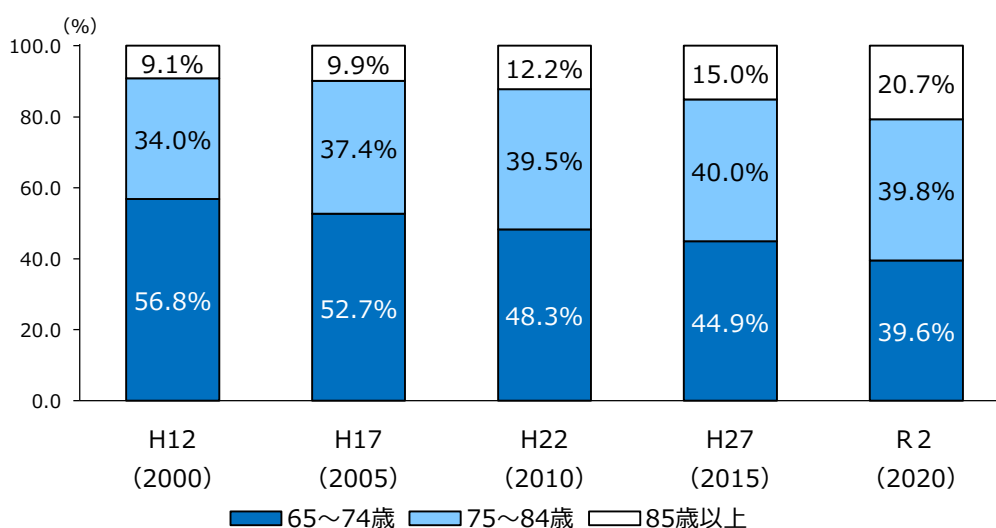
65 歳以上の単身世帯に占める年齢構成割合をみると、2010 年で 75 歳以上の単身世帯が半数を超え、2020 年では 6 割を占めています。85 歳以上の単身世帯は 2020 年で 2 割となっています。

【年齢別 65 歳以上の単身世帯の推移】



※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

【65 歳以上の単身世帯に占める年齢構成割合の推移】



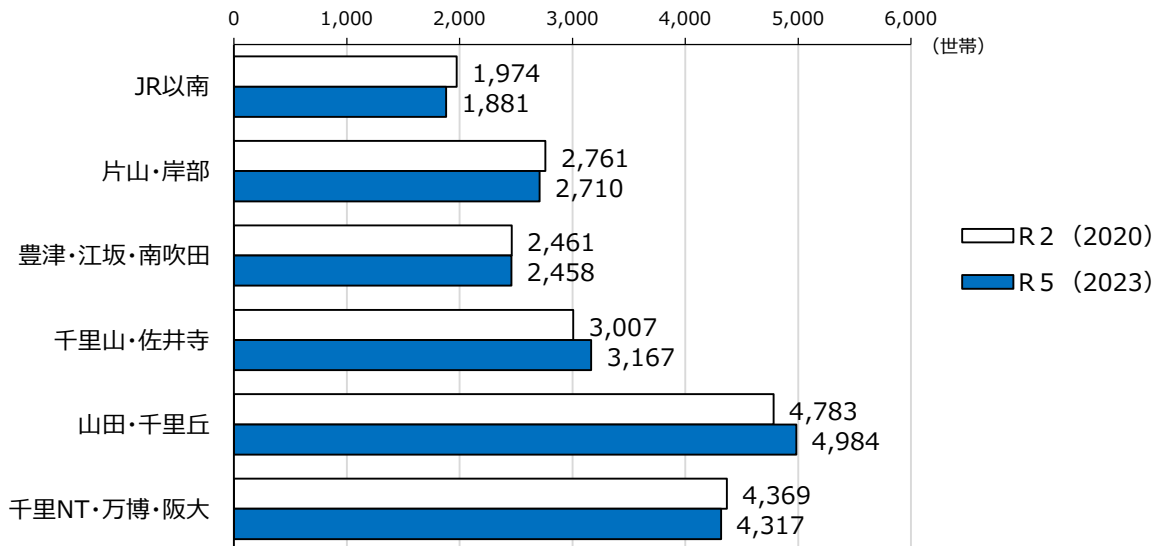
※資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

#### ④サービス整備圏域別世帯数の推移

サービス整備圏域別世帯数の推移をみると、65歳以上のみで構成される世帯は千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域で増加しています。

65歳以上の単身世帯数は、すべての地域で増加していますが、特に山田・千里丘地域で増加しており、2020年から596世帯増加しています。

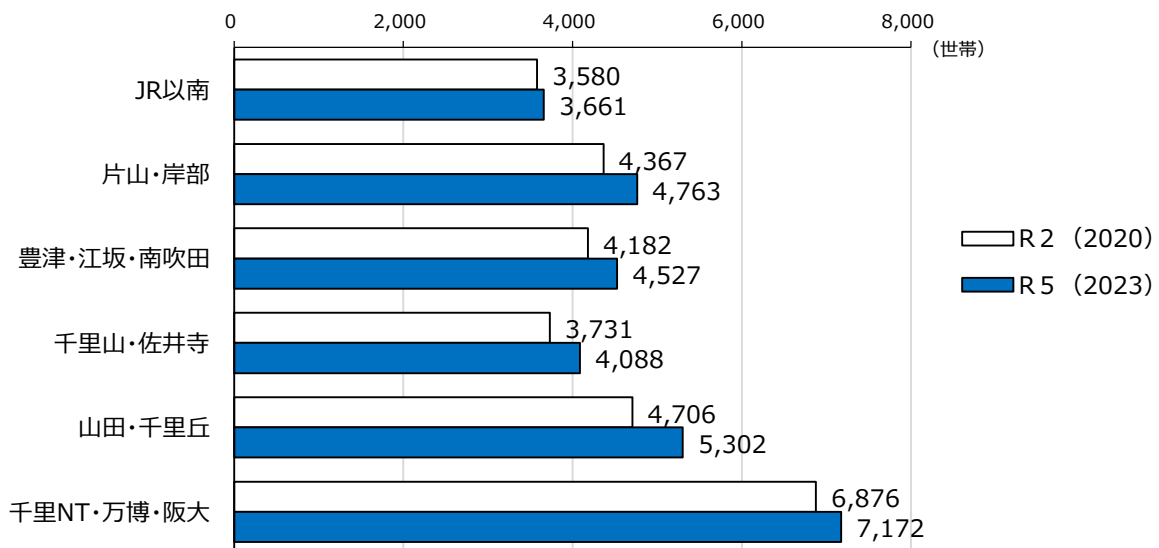
【サービス整備圏域別 65歳以上のみで構成される世帯数の推移】



※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

※65歳以上のみで構成される世帯とは、複数人の65歳以上の方のみで構成される世帯

【サービス整備圏域別 65歳以上の単身世帯数の推移】



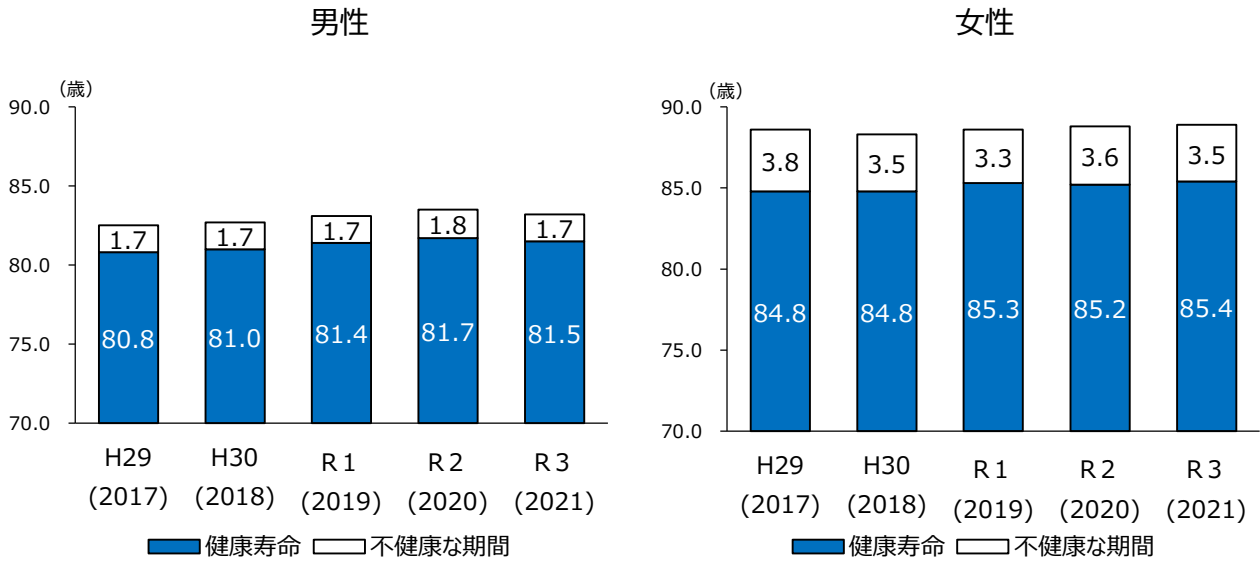
※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

## (4) 健康寿命

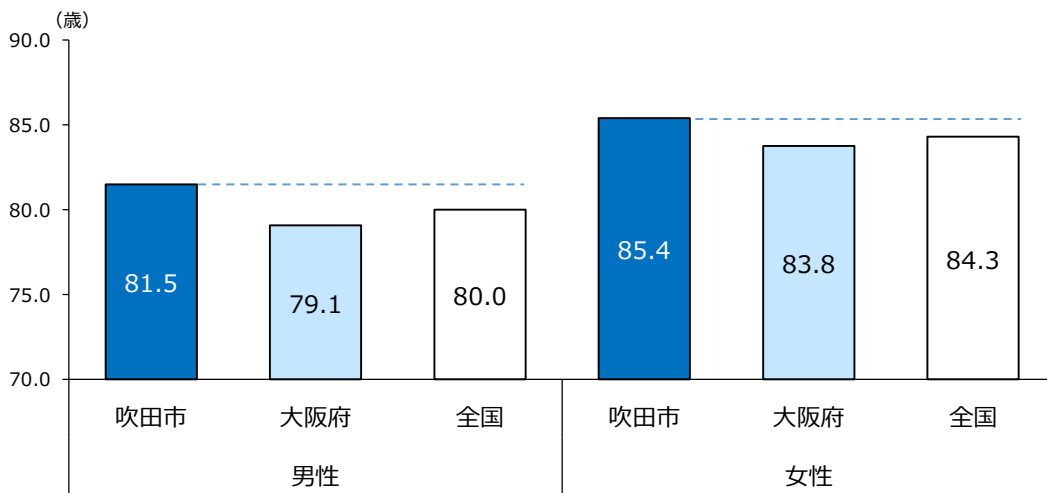
吹田市の健康寿命は2021年で男性が81.5歳、女性が85.4歳と、年によっては健康寿命が短くなる場合もありますが、概ね2017年から2021年にかけて、男女ともに健康寿命は延伸しています。

また2021年の健康寿命は、男女ともに全国・大阪府より長くなっています。

【健康寿命の推移】



【健康寿命の全国・大阪府との比較 (2021年)】



※資料：大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課

※2017年及び2018年は、国保データベース（KDB）システムにおける値。ただし、大阪府の値については、KDBと同様の方法により研究班のプログラムを用いて大阪府が算出。

## 2 支援を必要とする人の状況

(1) 要支援・要介護認定者の推移及び推計

(詳しくは第6章 150～153 ページ参照)

(2) 認定率の推移及び推計

(詳しくは第6章 154～156 ページ参照)

(3) サービス整備圏域別の認定者の推移及び推計

(詳しくは第6章 157～159 ページ参照)

(4) 介護予防・日常生活支援総合事業

～「高齢者安心・自信サポート事業」～の状況

(詳しくは第5章 116 ページ、第6章 172～173 ページ参照)

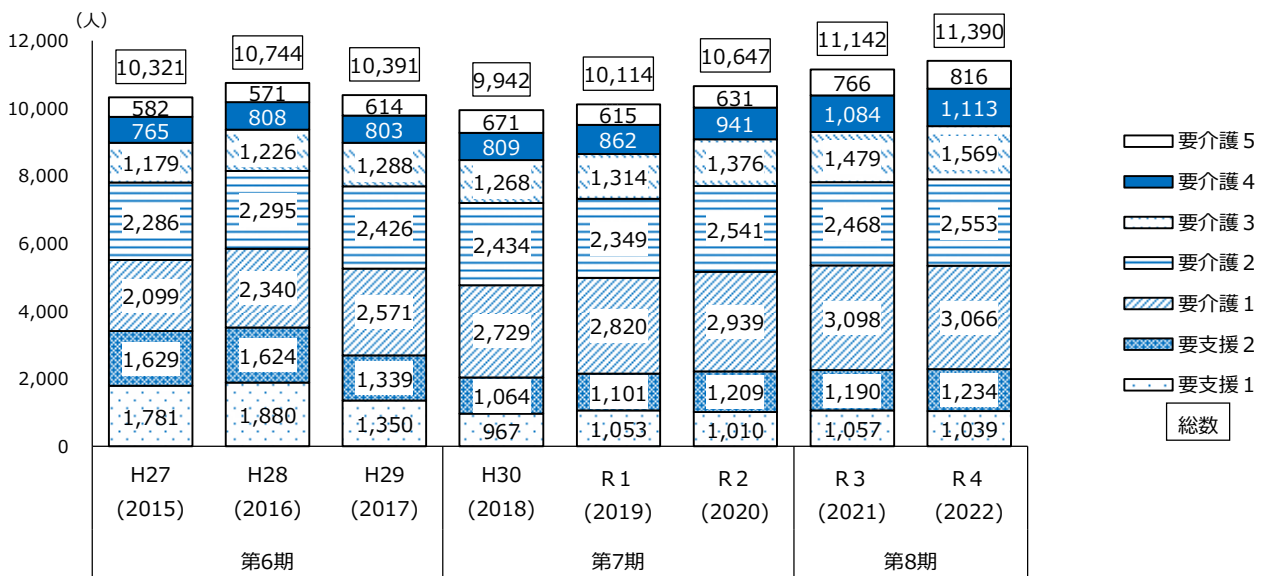
## (5) 介護保険サービス受給者の状況

### ① 居宅サービス受給者の状況

居宅サービスの受給者は、2017年4月から介護予防訪問介護と介護予防通所介護が介護予防日常生活支援総合事業に移行したため、一旦減少しますが、その後は増加傾向にあり、2022年で11,390人となっています。

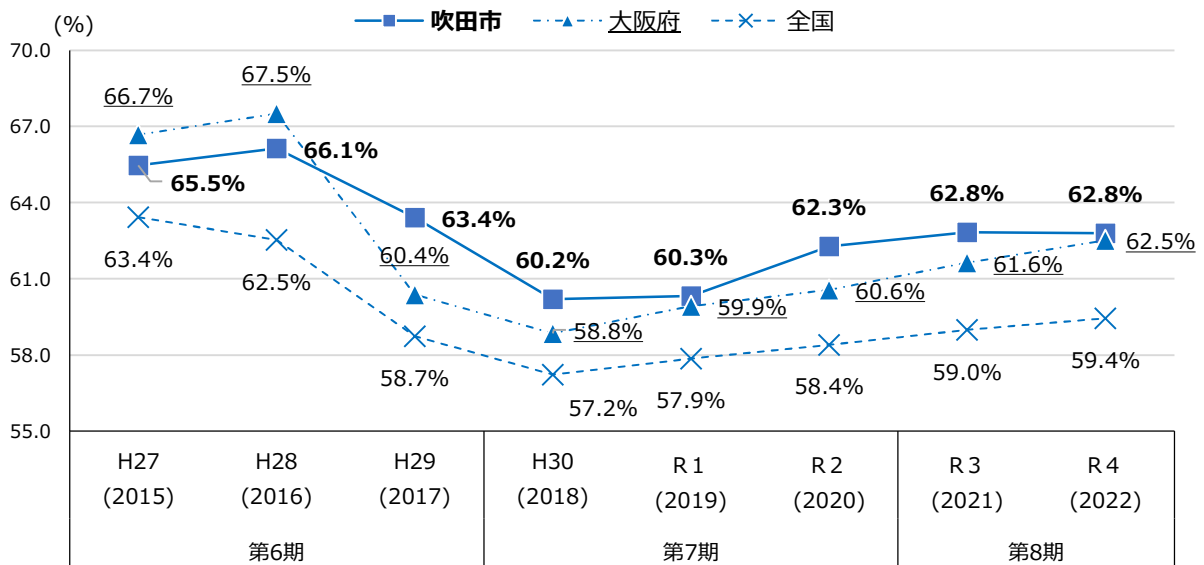
居宅サービス受給率は2022年で62.8%と、全国より高く、大阪府とほぼ同じ割合となっています。

【居宅サービス受給者の推移】



※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

【居宅サービス受給率の推移】



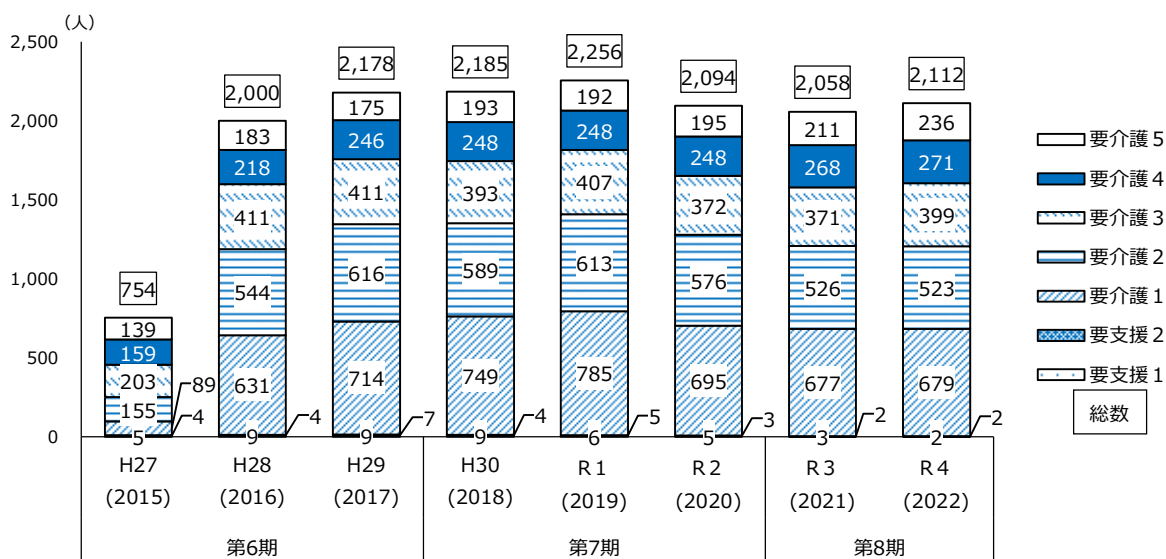
※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

## ②地域密着型サービス受給者の状況

地域密着型サービスの受給者は、2016年4月から小規模の通所介護事業所が地域密着型サービスに位置づけられたため、2015年から2016年にかけて大きく増加します。2016年以降は増減を繰り返しており、2022年で2,112人となっています。

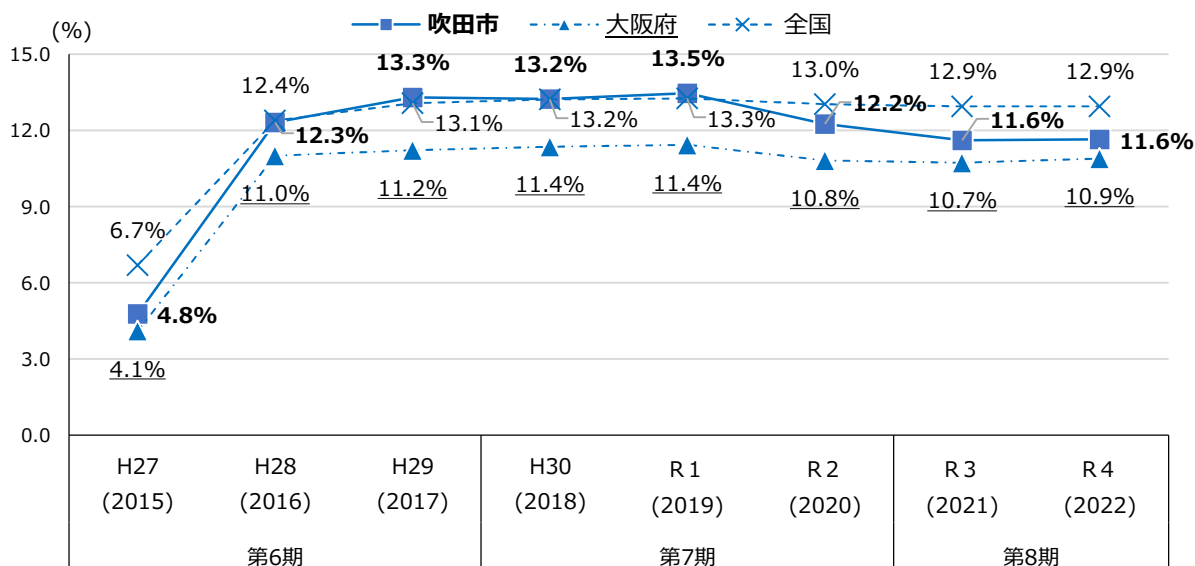
地域密着型サービス受給率は2022年で11.6%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

### 【地域密着型サービス受給者の推移】



※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

### 【地域密着型サービス受給率の推移】



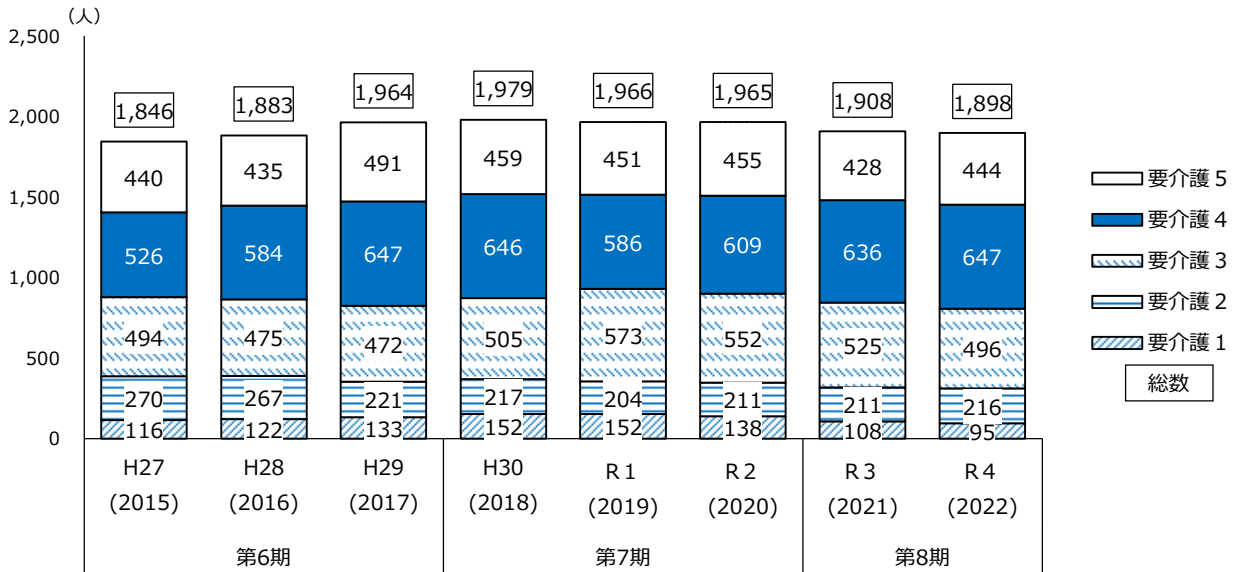
※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

### ③施設サービス受給者の状況

施設サービスの受給者は、各年で増減を繰り返していますが2019年以降は減少傾向にあり、2022年で1,898人となっています。

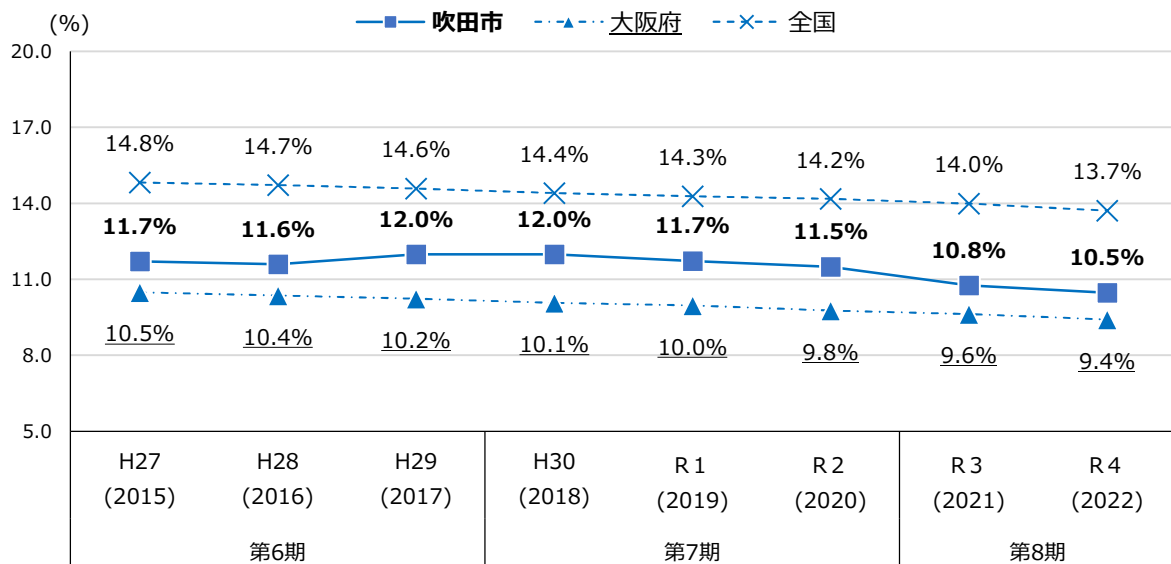
施設サービス受給率は2022年で10.5%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

【施設サービス受給者の推移】



※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

【施設サービス受給率の推移】



※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年11月月報【9月利用分】）

## (6) 認知症の人数

### ① 認知症の人の推移と推計

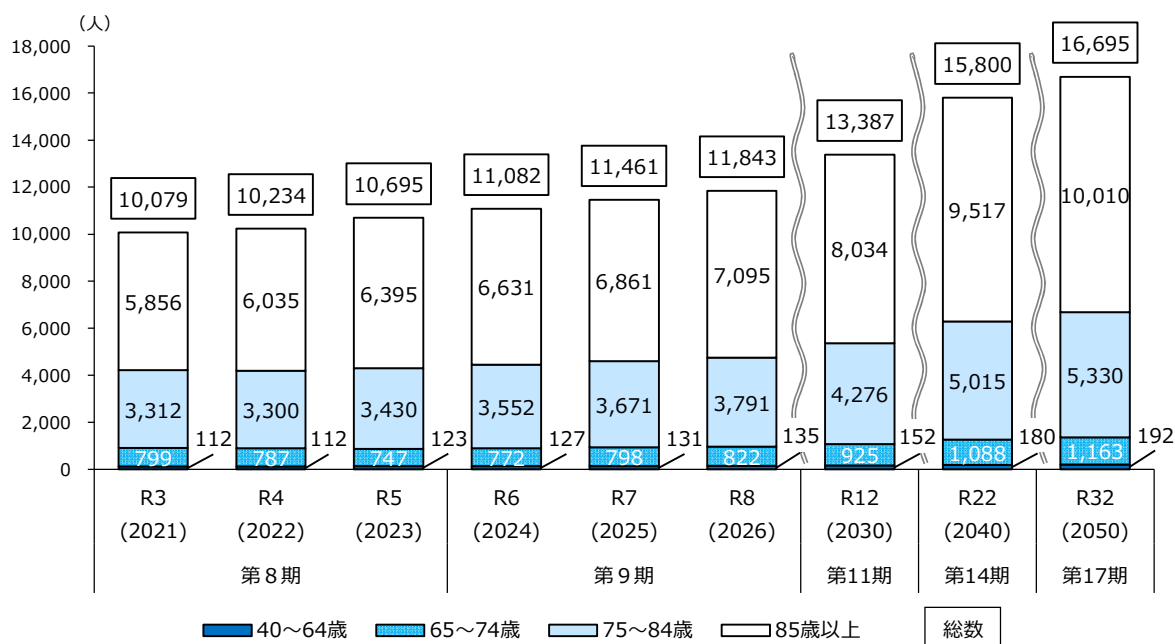
要支援・要介護認定者データをもとにした認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人数は増加傾向にあり、2023年では10,695人となっています。

認知症高齢者は今後も増加すると推計され、2040年で15,800人、2050年で16,695人になると見込まれます。

【認知症の人の推移と推計】

単位：人

	第8期			第9期			第11期	第14期	第17期
	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)
総数	10,079	10,234	10,695	11,082	11,461	11,843	13,387	15,800	16,695
40～64歳 (対人口比)	112 0.09%	112 0.08%	123 0.09%	127 0.10%	131 0.10%	135 0.10%	152 0.11%	180 0.15%	192 0.18%
65歳以上 (対人口比)	9,967 11.08%	10,122 11.22%	10,572 11.65%	10,955 11.95%	11,330 12.23%	11,708 12.50%	13,235 13.58%	15,620 13.42%	16,503 13.36%
65～74歳 (対人口比)	799 1.85%	787 1.91%	747 1.91%	772 1.98%	798 2.05%	822 2.12%	925 2.41%	1,088 1.97%	1,163 2.39%
75～84歳 (対人口比)	3,312 10.36%	3,300 9.82%	3,430 9.65%	3,552 9.93%	3,671 10.21%	3,791 10.48%	4,276 11.56%	5,015 14.88%	5,330 11.20%
85歳以上 (対人口比)	5,856 39.79%	6,035 38.98%	6,395 39.66%	6,631 39.04%	6,861 38.45%	7,095 37.94%	8,034 36.29%	9,517 34.55%	10,010 36.67%



※資料：実績は吹田市福祉部高齢福祉部の認定データ(各年9月末日現在)、推計は地域包括ケア「見える化」システムにより推計した要支援・要介護認定者数の推計値をもとに推計。認知症高齢者の日常生活自立度は主治医意見書を使用。



②生活場所別の認知症の人数

生活場所別の2023年の認知症の人数をみると、「在宅（その他）」で生活している人の割合が最も高く、66.6%となっています。次いで「特別養護老人ホーム」で生活している人の割合が高く、10.7%となっています。

【生活場所別の認知症の人数の実績及び推計】

単位：人

	実績		推計					
	第8期		第9期			第11期	第14期	第17期
	R5(2023)		R6	R7	R8	R12	R22	R32
	人数	割合	(2024)	(2025)	(2026)	(2030)	(2040)	(2050)
特別養護老人ホーム	1,149	10.7%	1,191	1,231	1,272	1,438	1,698	1,794
介護老人保健施設	619	5.8%	641	663	685	774	914	966
その他施設（介護医療院など）	40	0.4%	42	43	45	51	60	63
認知症グループホーム	275	2.6%	285	295	305	345	407	430
介護付き有料老人ホーム	523	4.9%	542	560	579	654	772	816
住宅型有料老人ホーム	545	5.1%	565	585	604	683	806	852
サービス付き高齢者向け住宅	424	4.0%	440	455	470	531	627	662
在宅（その他）	7,119	66.6%	7,376	7,629	7,883	8,911	10,516	11,112
計	10,695	100.0%	11,082	11,461	11,843	13,387	15,800	16,695

※資料：吹田市福祉部高齢福祉室の認定データ（2023年9月末日現在）を元に算出。

コラム 1 認知症の人の割合

本市において、2023年の65歳以上人口における認知症の人の割合は65歳～74歳で約2%、75歳～84歳で約10%、85歳以上で約40%となっています（P30参照）。

また、2022年簡易生命表（※1）によると、亡くなられた人の中で最も多い年齢は男性で88歳、女性で93歳となっており、認知症になる人は多いものと推測されます。

全国における認知症高齢者の数は、2025年には約700万人となり、65歳以上の人の約5人に1人に達するとも言われています（※2）。今や認知症は誰もがなりうる身近な病気です。



※1 出典：「令和4年簡易生命表の概況」厚生労働省

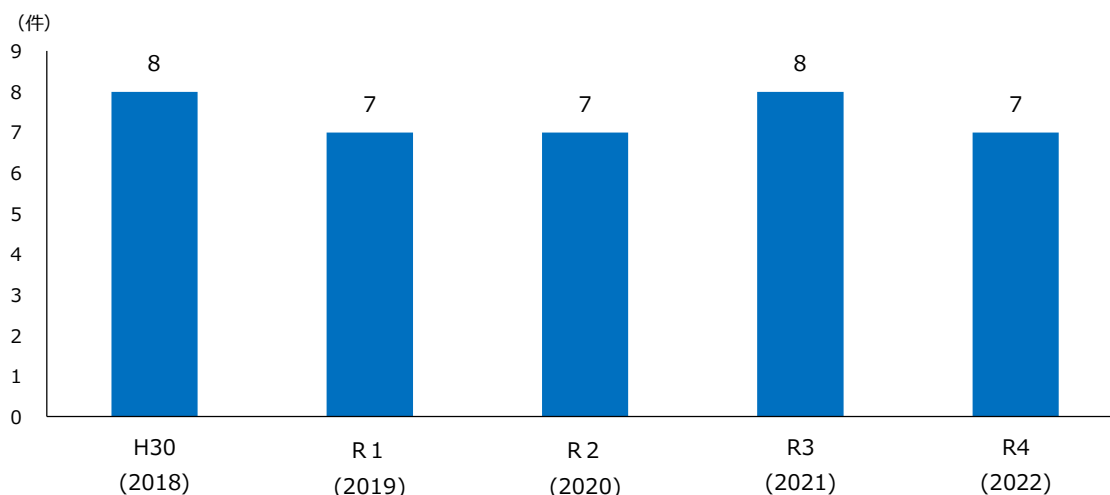
※2 出典：「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）平成29年7月改訂版」厚生労働省及び関係省庁

## (7) 権利擁護に関する取組

### ①成年後見審判（法定後見）の市長申立て

成年後見審判（法定後見）の市長申立て件数は、各年度7～8件となっています。

【成年後見審判（法定後見）の市長申立て件数の推移】

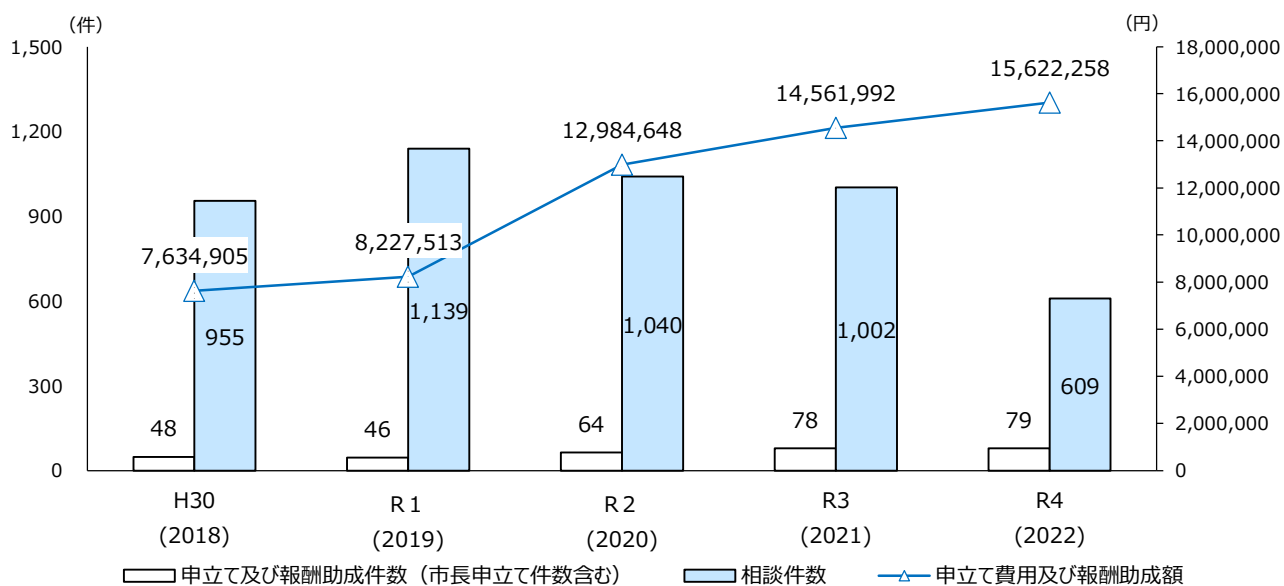


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### ②成年後見制度利用支援事業

成年後見制度利用支援事業の利用状況をみると、申立て及び報酬助成件数と申立費用及び報酬助成額は、2020年以降年々増加しています。相談件数は2019年以降減少傾向にあり、2022年で609件となっています。

【成年後見制度利用支援事業の利用状況】

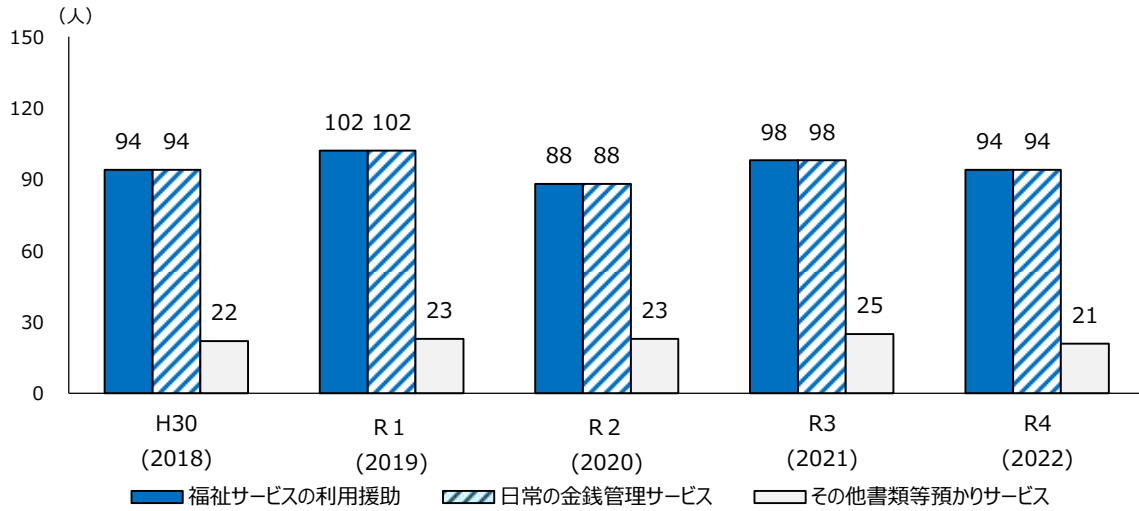


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

③日常生活自立支援事業（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会）

日常生活自立支援事業の利用状況をみると、福祉サービスの利用援助・日常の金銭管理サービス・その他書類等預かりサービスともに横ばいの状況です。

【日常生活自立支援事業の利用状況】

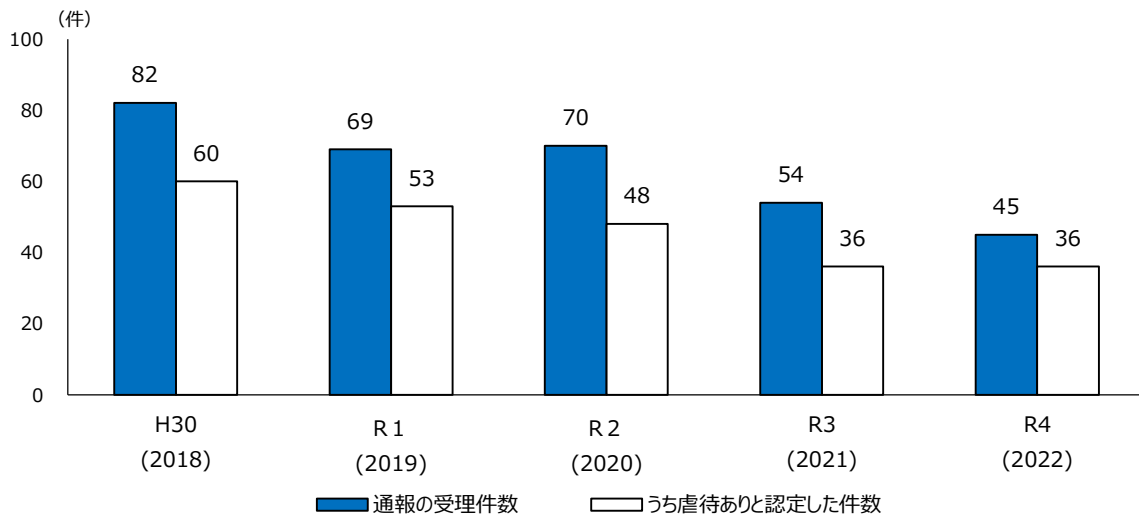


※資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

④高齢者虐待の通報の受理件数、認定件数

高齢者虐待の通報の状況をみると、通報の受理件数及び虐待ありと認定した件数ともに減少傾向にあります。

【高齢者虐待の通報の受理件数、認定件数】



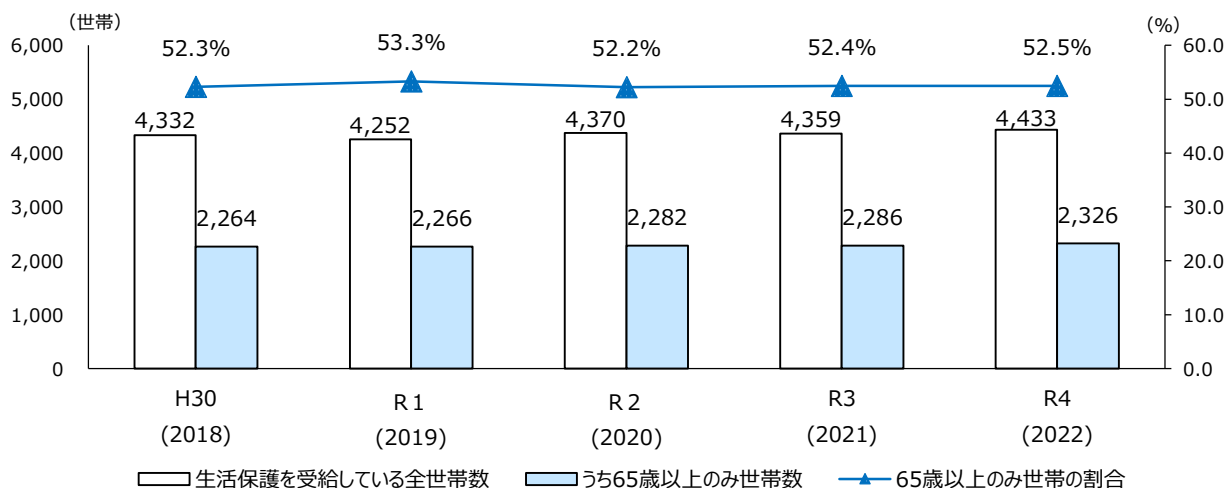
※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## ⑤生活保護世帯

生活保護世帯は各年で増減しており、2022年度で4,433世帯となっています。

うち65歳以上は微増の傾向にあり、2022年で2,326世帯と、全体の52.5%を占めています。

【生活保護世帯の推移】

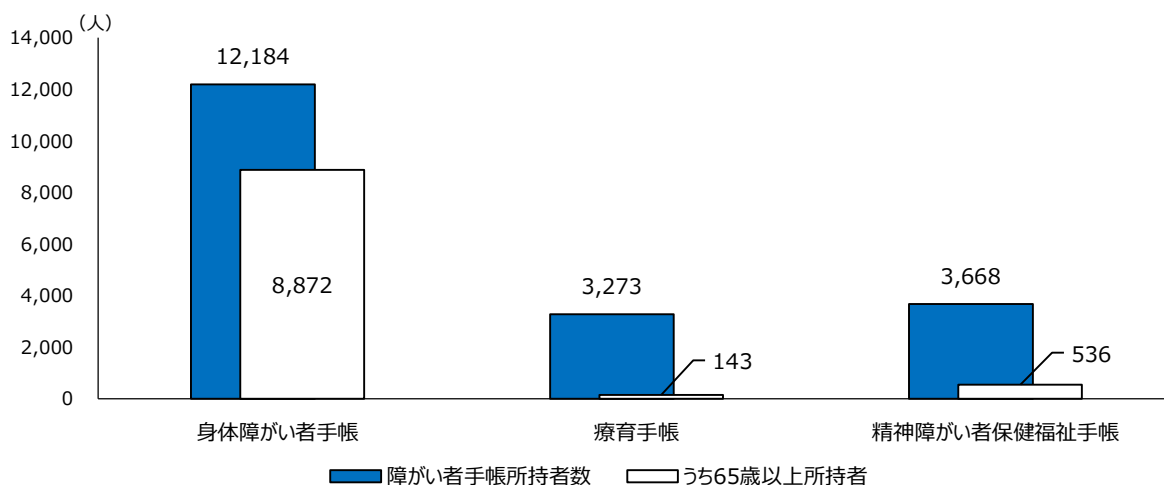


※資料：吹田市福祉部生活福祉室（各年度末日現在）

## ⑥障がい者手帳所持者

2022年度で65歳以上の身体障がい者手帳所持者は8,872人で全体の72.8%を占め、療育手帳所持者（知的障がい）は143人で全体の4.4%、精神障がい者保健福祉手帳は536人で全体の14.6%を占めています。

【障がい者手帳所持者数】



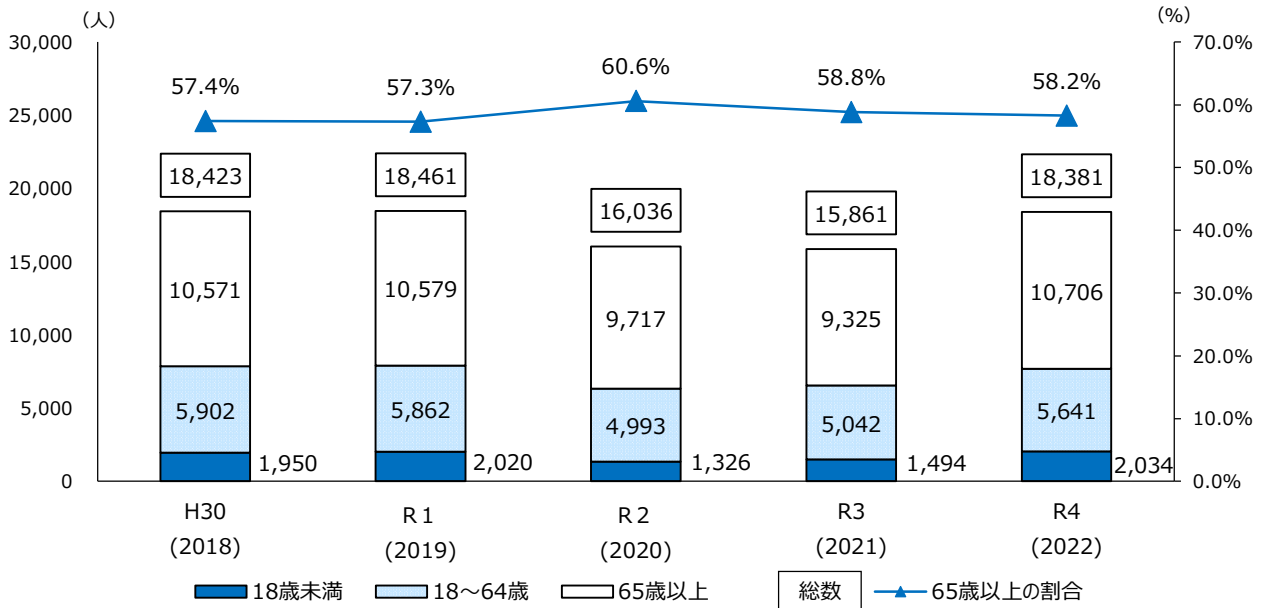
※資料：吹田市福祉部障がい福祉室（2022年度末日現在）

⑦救急搬送

救急搬送人数は、2020年・2021年は低いものの、そのほかの年は18,000人台となっています。搬送人数の半数以上が65歳以上となっています。

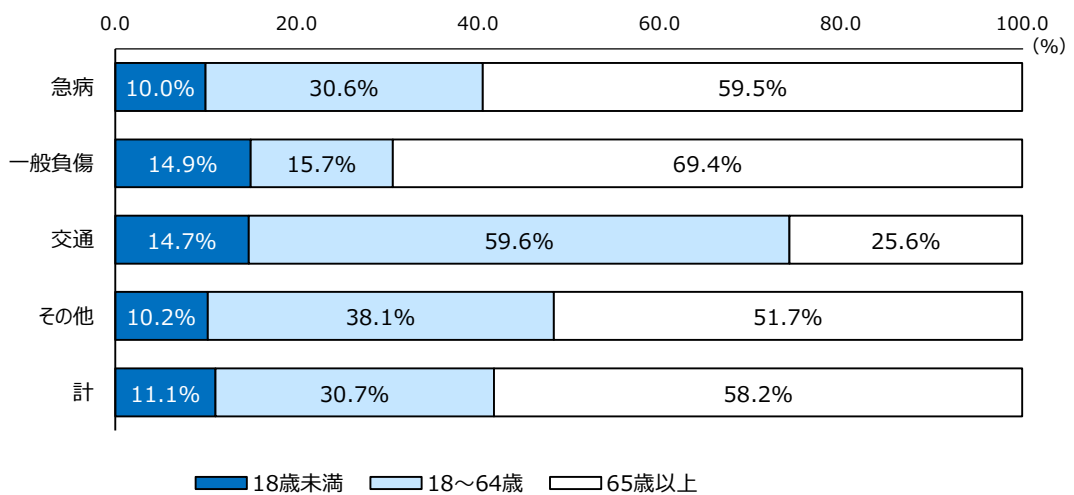
2022年の事故種別に搬送人員を年齢別にみると、「交通」以外はすべて65歳以上が半数以上を占めています。

【年齢区分別搬送人数の推移】



※資料：吹田市消防本部警防救急室（各年末日現在）

【事故種別の年齢区分別搬送人数の構成比（2022年）】

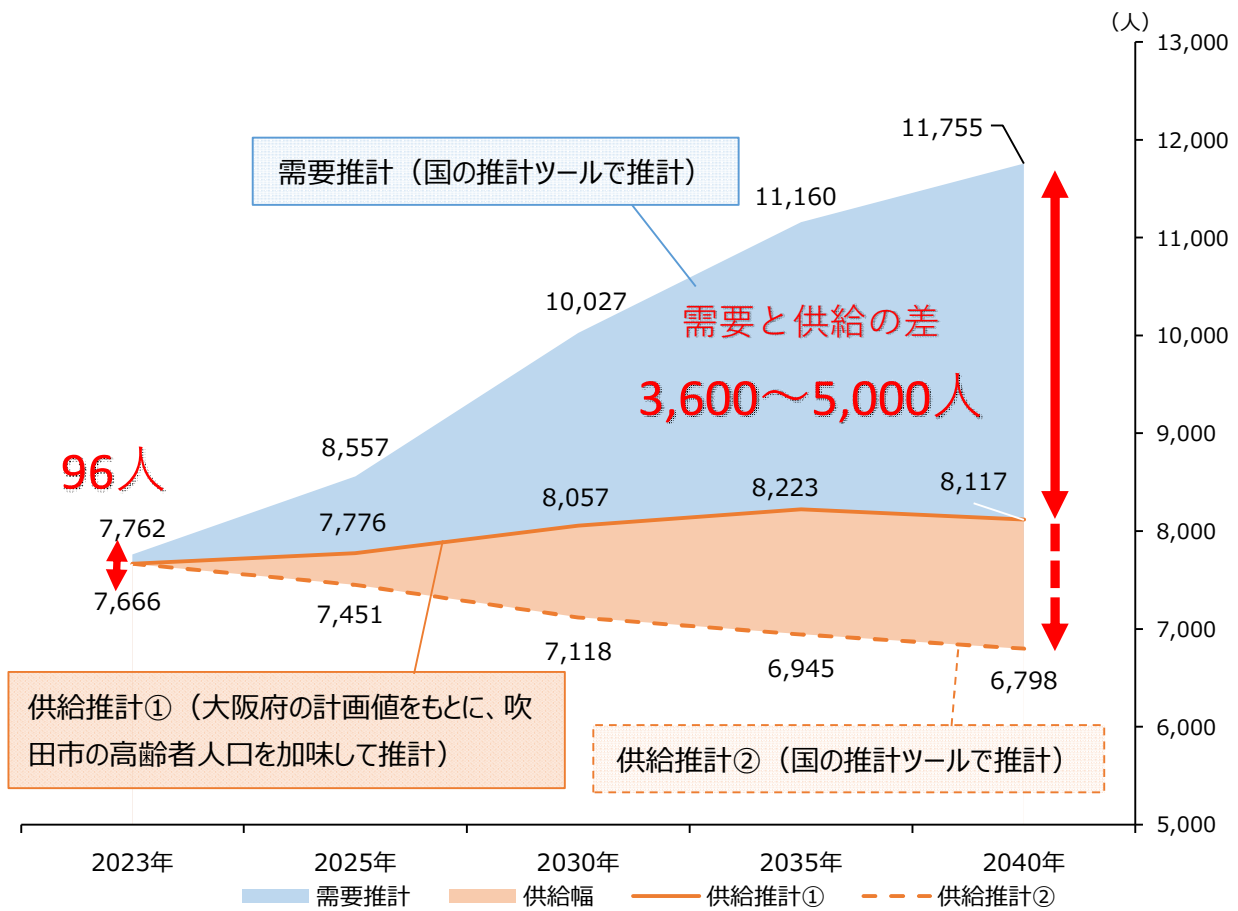


※資料：吹田市消防本部警防救急室（2022年末日現在）

### 3 介護人材の需要・供給推計

介護人材の推計にあたって、大阪府の計画値を元に吹田市の高齢者人口を加味した供給推計①では、2040年に供給できる人数は8,117人、国の介護人材推計ワークシートを用いた供給推計②では2040年で6,798人と推計され、2040年の需要11,755人に対し、約3,600～5,000人ほど、介護人材が不足すると推計されます。

【介護人材の需要・供給推計】



※需要推計は、第8期計画策定の際に国が示した「介護人材需給推計 市区町村向けワークシート」を用い、令和4年度に実施した「吹田市介護保険サービスにかかる事業所・従業者実態調査」及びサービス見込量の推計結果を勘案し、推計したもの。

※供給推計①は、大阪府の計画値をもとに吹田市の高齢者人口を加味し推計したもの。

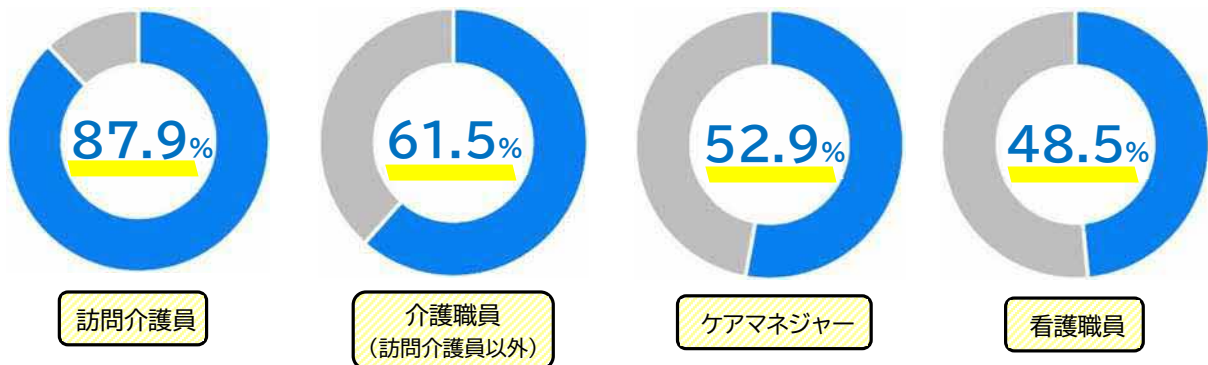
※供給推計②は、第8期計画策定の際に国が示した「介護人材需給推計 市区町村向けワークシート」を用い、令和4年度に実施した「吹田市介護保険サービスにかかる事業所・従業者実態調査」の結果を勘案し、推計したもの。

## コラム 2 吹田市における介護現場の状況

近年、介護人材不足が全国的な問題となっています。吹田市における介護現場の状況を把握するため、令和5年（2023年）3月に市内介護サービス事業者等にアンケートを実施しました。

### 従業員の不足感

従業員の不足を感じている事業者について、職種別にみると、訪問介護員で87.9%、介護職員で61.5%、ケアマネジャーで52.9%、看護職員で48.5%にのぼります。



その他、アンケート結果からみる介護現場の状況は・・・

#### 従業員確保で工夫していること

- 1位 本人の希望に応じた勤務体制
- 2位 労働条件の改善への取組

#### 従業員確保のために実施したいこと

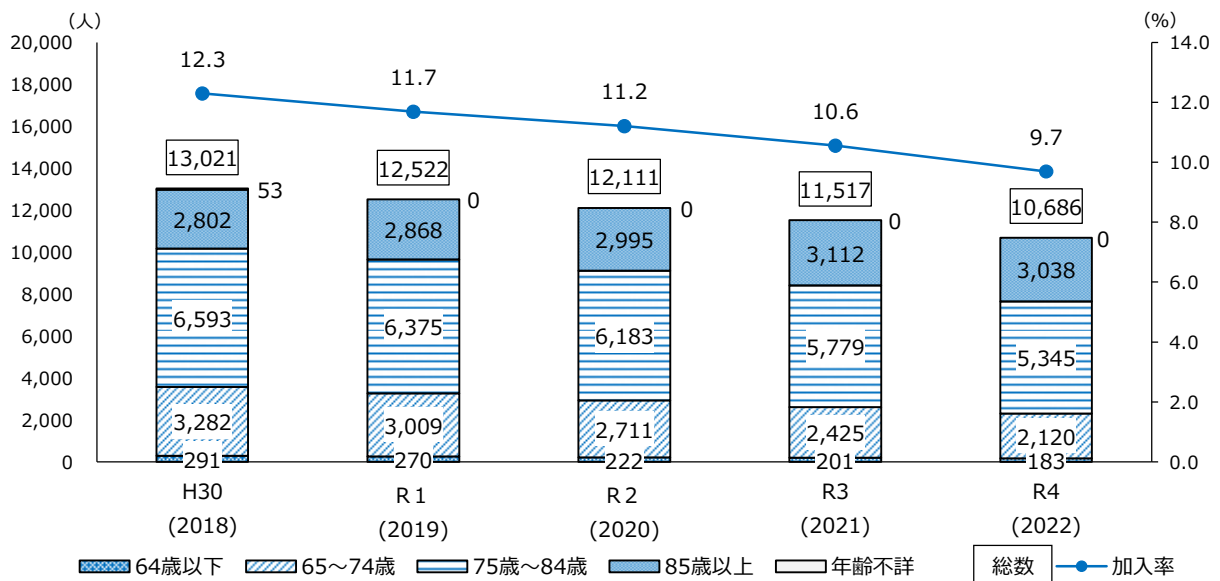
- 1位 福祉教育機関への働きかけ
- 2位 採用説明会や職場体験の実施

## 4 地域で活動する方々

### (1) 高齢クラブ

高齢クラブの加入者数及び加入率はともに減少傾向にあり、加入者は 2022 年度で 10,686 人と、2018 年度から 2,335 人減少しています。また、加入率は 2022 年度で 9.7% と、2018 年度から 2.6 ポイント減少しています。

【高齢クラブの加入状況】

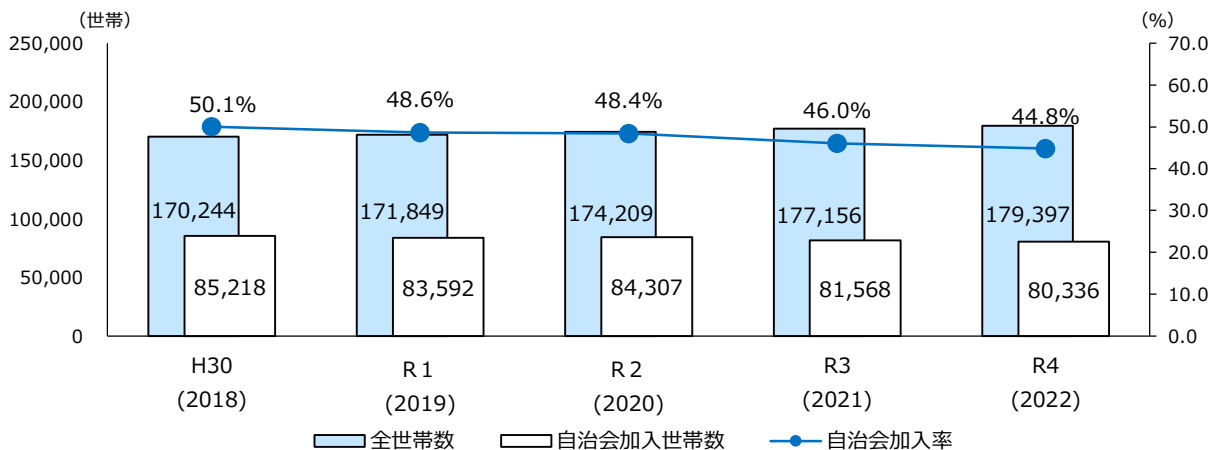


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (2) 自治会（全世帯）

吹田市全世帯における自治会の加入率は減少傾向にあり、2022 年度では 44.8% と、2018 年度から 5.3 ポイント減少しています。

【自治会の加入状況】



※資料：吹田市市民部市民自治推進室（各年度4月1日現在）



### (3) 地区福祉委員会

地区福祉委員会の活動状況について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少しています。それ以降はいきいきサロン・ふれあい昼食会ともに開催回数や参加者数は増加しています。

【地区福祉委員会の活動状況】

		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
いきいき サロン	延べ開催回数(回)	689	623	120	237	396
	延べ参加者数(人)	14,769	13,923	1,317	3,549	5,405
	地区福祉委員の延べ参加者数(人)	4,951	4,067	543	1,129	2,390
ふれあい 昼食会	延べ開催回数(回)	260	229	142	260	335
	延べ参加者数(人)	10,934	9,848	5,273	9,750	13,485
	地区福祉委員の延べ参加者数(人)	3,842	3,396	1,056	1,562	2,078

※資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

### (4) 高齢者生きがい活動センター等

高齢者生きがい活動センターの利用者について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少しています。それ以降は高齢者生きがい活動センター等の利用者は増加しています。

【高齢者生きがい活動センター等の利用状況】

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
高齢者生きがい活動センター延べ利用者数(人)	50,696	46,362	18,472	27,555	46,566
高齢者いこいの間延べ利用者数(人)	88,390	80,997	3,234	16,404	36,882
高齢者いこいの家延べ利用者数(人)	9,678	8,469	4,163	5,288	10,125

※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (5) 生涯学習・スポーツ活動等

生涯学習・スポーツ活動等の参加者数（65歳未満も含む）について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少していますが、その後は市民スポーツ講座を除き、参加者数が年々増加しています。

【生涯学習・スポーツ活動等参加者数の推移（65歳未満も含む延べ人数）】

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
高齢者スポーツ教室延べ参加者数(人)	7,392	6,271	909	1,456	2,635
市民スポーツ講座「運動はええよ！」延べ参加者数(人)	38	中止	38	33	25
健康づくり講座延べ参加者数(人)	3,391	3,111	924	2,002	2,044
いきがい教室延べ参加者数(人)	6,720	6,381	中止	2,274	4,649

※資料：健康づくり講座は吹田市地域教育部まなびの支援課（各年度末日現在）

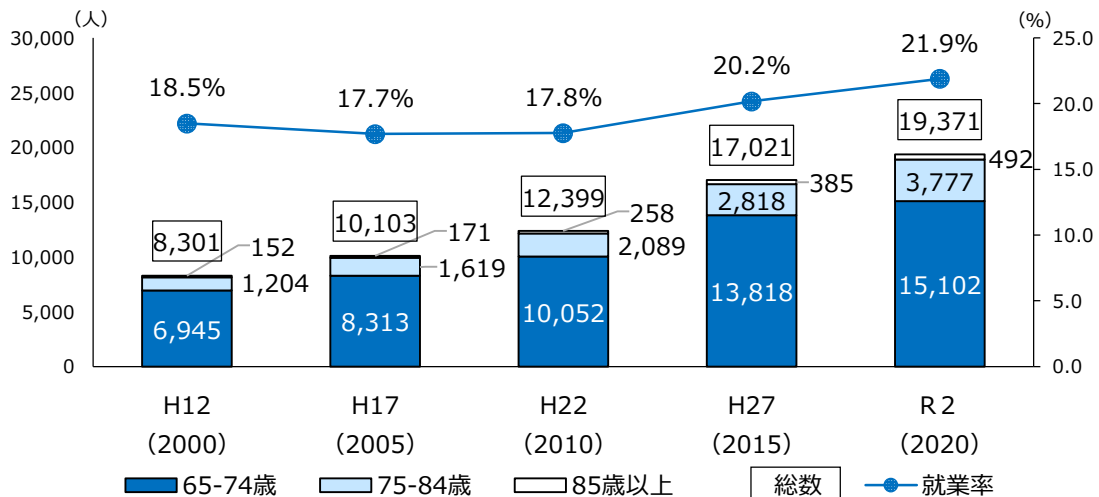
いきがい教室は吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

その他は吹田市都市魅力部文化スポーツ推進室（各年度末日現在）

## (6) 就業状況

65歳以上の方の就業者数は増加傾向にあり、2020年で19,371人と、2000年から11,070人増加しています。

【65歳以上の方の就業状況】

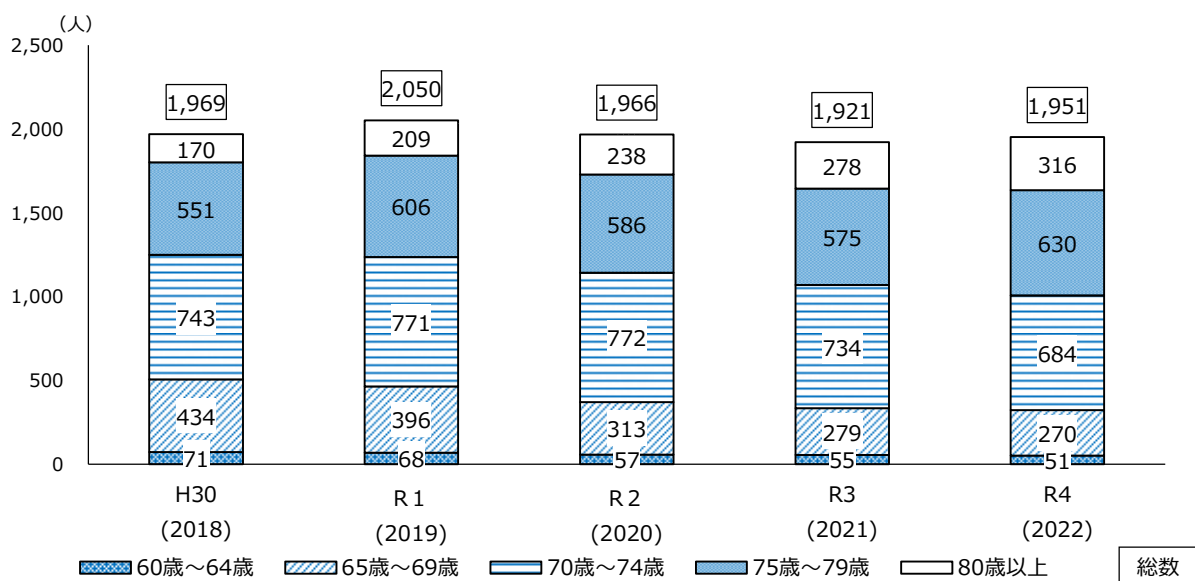


※資料：総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

## (7) 公益社団法人シルバー人材センター

公益社団法人シルバー人材センター会員数は各年で増減しており、2022年で1,951人となっています。

【公益社団法人シルバー人材センター会員数の推移】



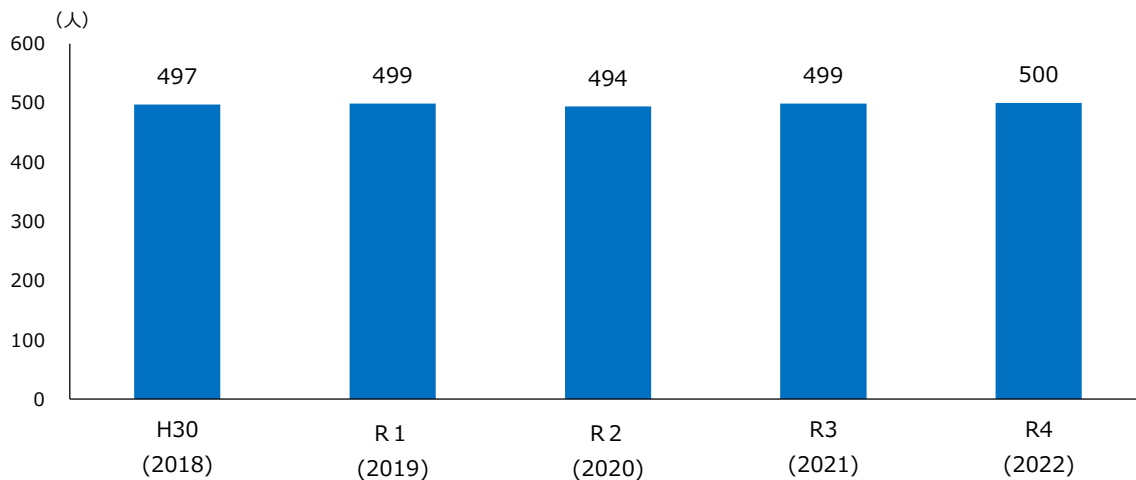
※資料：吹田市福祉部高齢福祉室 (各年度末日現在)

## 5 地域での支援体制

### (1) 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員数は、過去5年間ほぼ横ばいとなっており、2022年度で500人となっています。

【民生委員・児童委員数の推移】

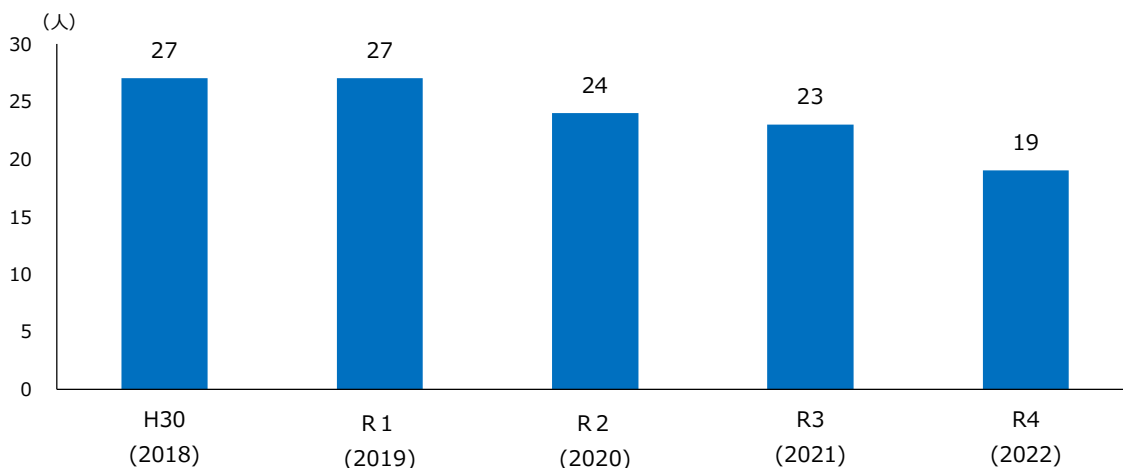


※資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

### (2) 介護サービス相談員

介護サービス相談員は年々減少しており、2022年度で19人となっています。

【介護サービス相談員の登録者数の推移】

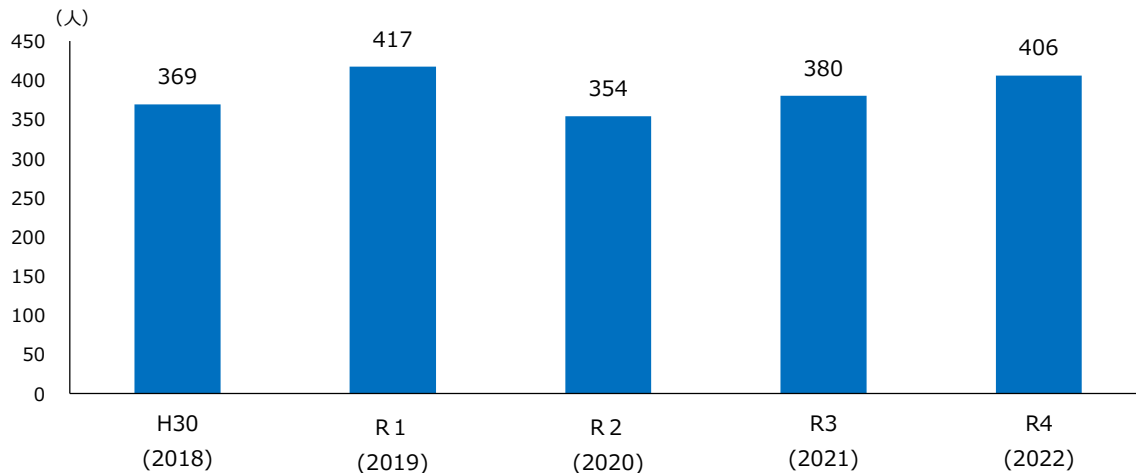


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (3) 介護支援サポーター

介護支援サポーターは2019年から2020年にかけて一旦減少しますが、その後は増加傾向にあり、2022年で406人となっています。

【介護支援サポーターの登録者数の推移】

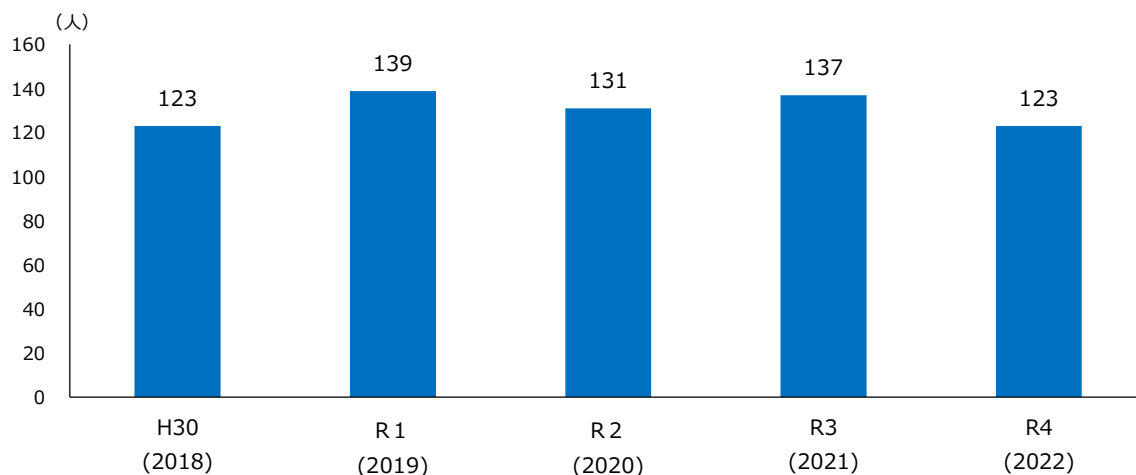


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (4) 介護予防推進員

介護予防推進員は各年で増減しており、2022年は123人となっています。

【介護予防推進員の登録者数の推移】

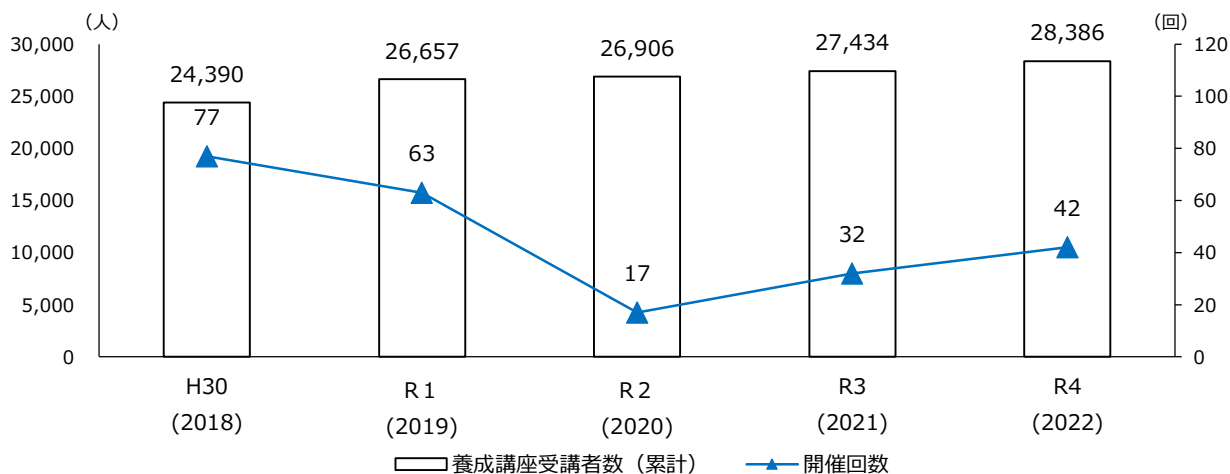


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (5) 認知症サポーター

認知症サポーター養成講座受講者数（累積）は2022年で28,386人となっています。認知症サポーター養成講座開催回数は、新型コロナウイルス蔓延の影響に伴い、2020年で大きく減少しますが、現在は増加傾向にあり、2022年で42回となっています。

【認知症サポーター養成講座受講者数（累積）及び養成講座開催回数の推移】

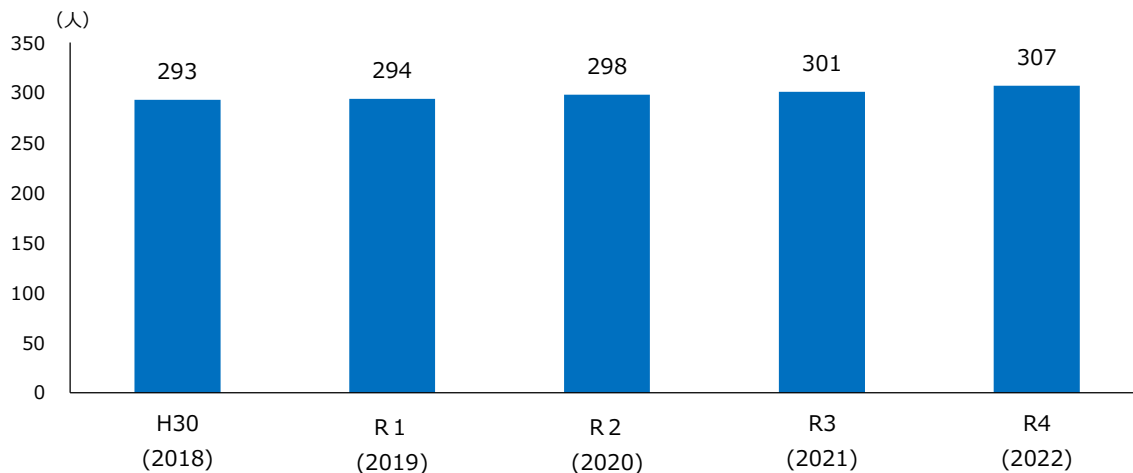


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (6) 認知症キャラバン・メイト

認知症キャラバン・メイト登録者数は増加傾向にあり、2022年で307人となっています。

【認知症キャラバン・メイト登録者数の推移】

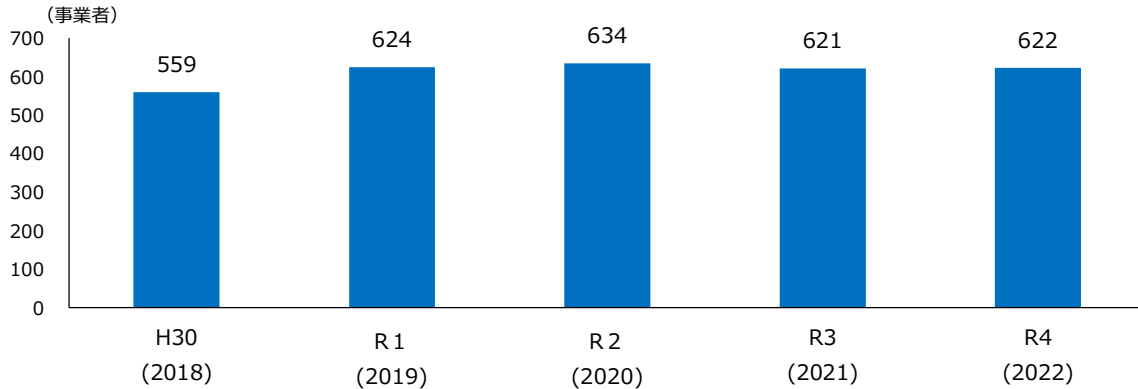


※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (7) 高齢者見守り活動協力事業者

高齢者見守り活動協力事業者数は、2022年度で622事業者と、2019年度以降横ばいの状態です。

【高齢者見守り活動協力事業者数の推移】



※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## コラム 3 アクティブシニア活躍の場 地域のサポーター

### 高齢クラブ

仲間と一緒に地域で活躍

生きがいづくりや健康づくりに取り組むとともに、社会奉仕活動として、ひとり暮らし高齢者等を訪問する友愛訪問活動等にも取り組んでいます。

**年齢制限**  
おおむね60歳以上。



### 認知症サポーター

認知症の方の応援団

認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活躍しています。オレンジリングがサポーターの目印です。

**年齢制限**  
なし。幅広い年齢の人が活動。



オレンジリング(リストバンド)

### 介護サービス相談員

施設と利用者・家族を繋ぐ

介護保険施設等を訪問し、中立の立場で利用者や家族の疑問及び不安の声を聞き、施設に伝えるなど、よりよいサービス提供のために活動を行います。

**年齢制限**  
なし。65歳以上の人が多い。



### 介護支援サポーター

介護保険施設をサポート

介護保険施設や病院等で、洗濯物の整理やシーツ交換、レクリエーションの補助等のさまざまなサポート活動を行います。活動に対するポイントを付与され、翌年度に換金できます。(上限あり)

**年齢制限** 65歳以上。

### 介護予防推進員

介護予防を広めよう

介護予防についての基本的な知識と市の高齢化の概要を理解し、地域での介護予防の普及活動を担うボランティアです。ご自身の介護予防につながります。

**年齢制限**  
なし。65歳以上の人が多い。

### 助け愛隊

75歳以上の高齢者世帯を手助け

おおむね75歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、30分程度で終了する簡易な生活支援(電球交換、家財道具等の移動、大型ごみの搬出等)を行います。

**年齢制限**  
なし。

## 6 高齢者向け住まい

### (1) 高齢者向け住まいの種類

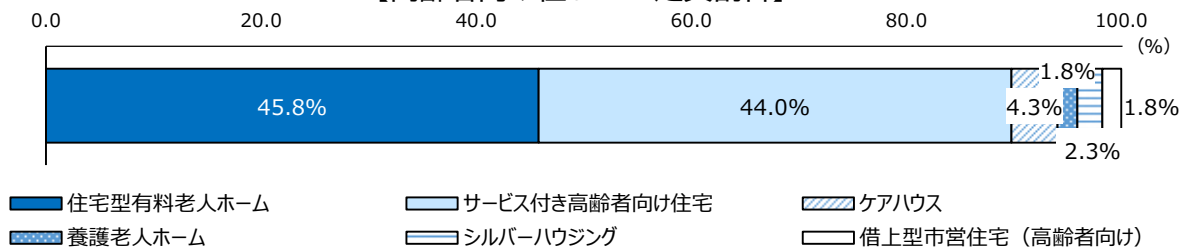
2023年9月現在の高齢者向け住まいの種類、箇所数、定員または戸数は、以下のとおりです。定員で見ると、住宅型有料老人ホームが1,240人と最も多く、次に多いのがサービス付き高齢者向け住宅の1,191人となっています。

【高齢者向け住まいの種類（介護保険サービスを除く）】

住宅型有料老人ホーム (24か所・1,240人)	食事の提供その他日常生活に必要な便宜を供与することを目的とする施設であって、老人福祉施設でないもの
サービス付き高齢者向け住宅 (24か所・1,191人)	各専用部の面積が原則25㎡以上で、台所・水洗便所・収納設備・洗面設備・浴室を備えたバリアフリー構造であり、サービス面では安否確認と生活相談が必須となっている都道府県に登録された住宅
ケアハウス（軽費老人ホーム） (3か所・116人)	原則として60歳以上で、身体機能の低下や高齢等のため、独立して生活するには不安があり、家族による援助を受けることが困難な高齢者に対し、無料又は低額な料金で、食事・入浴その他の日常生活上必要なサービスを提供する介護利用型の施設
養護老人ホーム（市内になし）	環境上の理由及び経済的理由により、在宅での生活が困難な65歳以上の方を対象とした入所施設
シルバーハウジング (3か所・63人)	65歳以上の高齢者が地域の中で自立して安全かつ快適な生活を営むことができるように配慮された公的賃貸住宅で、生活援助員による日常生活支援サービスの提供を合わせて行う
借上型市営住宅（高齢者向け） (6か所・48人)	民間事業者等が建設・保有する住宅を市が借り上げ、住宅に困窮する高齢者や障がいのある方に供給する市営住宅
高齢者向け優良賃貸住宅 (15か所・844戸)	高齢者が居住できる良好な居住環境を備えた優良な賃貸住宅
住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅（セーフティネット住宅） (75か所・1,490戸)	2017年の住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（住宅セーフティネット法）の改正により制度化され、低額所得者、被災者、高齢者、障がい者、子育て世帯等の住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅として登録できる住宅

※資料：吹田市福祉部高齢福祉室、吹田市都市計画部住宅政策室（2023年9月現在）  
住宅型有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅の実績には、2023年度中に入居開始予定のものも含む。

【高齢者向け住まいの定員割合】



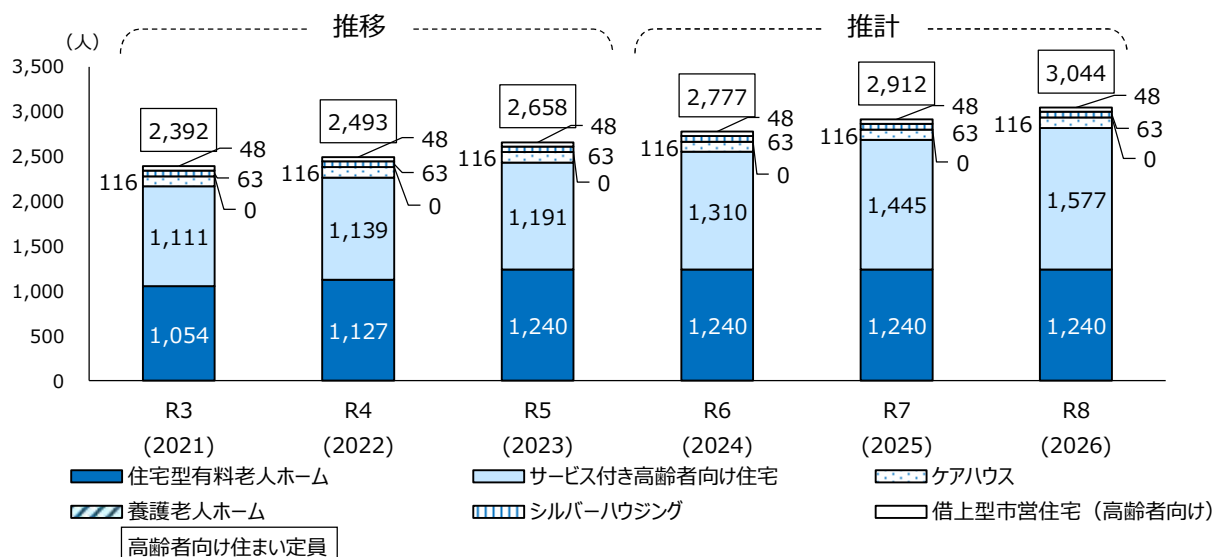
## (2) 高齢者向け住まいの推移及び推計

高齢者向け住まいの推移及び推計をみると、サービス付き高齢者向け住宅は2023年の1,191人が2026年で1,577人に増える見込みです。

【高齢者向け住まいの推移及び推計】

	推移			推計		
	8期			9期		
	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
高齢者向け住まい定員 (人)	2,392	2,493	2,658	2,777	2,912	3,044
住宅型有料老人ホーム (人)	1,054	1,127	1,240	1,240	1,240	1,240
サービス付き高齢者向け住宅 (人)	1,111	1,139	1,191	1,310	1,445	1,577
ケアハウス (人)	116	116	116	116	116	116
養護老人ホーム (人)	0	0	0	0	0	0
シルバーハウジング (人)	63	63	63	63	63	63
借上型市営住宅 (高齢者向け) (人)	48	48	48	48	48	48
高齢者向け住まい戸数 (戸)	2,217	2,305	2,334	2,436	2,492	2,543
高齢者向け優良賃貸住宅 (戸)	853	850	844	833	813	789
住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅 (戸) (セーフティネット住宅)	1,364	1,455	1,490	1,603	1,679	1,754
(参考) 高齢者向け住まい定員+戸数	4,609	4,798	4,992	5,213	5,404	5,587

【高齢者向け住まいの定員の推移及び推計】



※資料：実績は吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）。2023年度実績は2023年9月現在。住宅型有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅の2023年度実績には、2023年度中に入居開始予定のものも含む。

※2024年度から2026年度は、2022年度から2023年9月までの実績等をもとに推計。

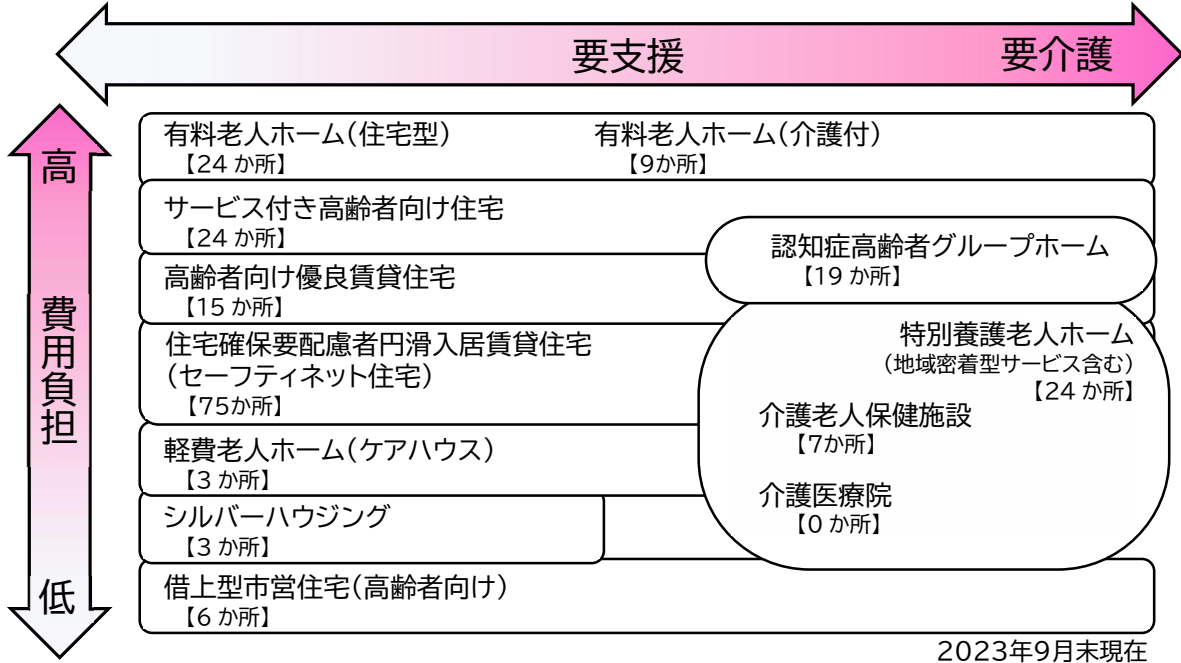
※ケアハウス、シルバーハウジング、借上型市営住宅の定員は増減を見込んでいません。

※養護老人ホームは市内に整備されておらず、近隣市にある施設を使用しているため、本市の定員数には含んでいません。



## コラム 4 高齢者向け住まい・施設のイメージ

色々な種類がある高齢者向けの住まいや施設。費用や身体状況から、大まかなイメージをつかんでいただくために図示しました。



○【 】の数字は市内の設置箇所数です。

○同じ種類の住まい・施設でも実際の費用や対応できる介護の内容などは異なる場合があります。また、所得に応じた負担軽減等の制度がある住まい・施設もあります。そのため必ずしもこの図に当てはまらない場合があります。

○具体的な内容を確認するには、それぞれの住まい・施設の事業者にお問い合わせください。

○住宅型有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅の数には2023年度中に入居開始予定のものも含まれます。

## 7 高齢者等の生活と健康に関する調査からみる吹田市の現状

### (1) 調査の概要

高齢者の日頃の生活や健康の状況、サービスの利用意向などを把握することを目的として、2023年2月1日から2023年2月15日まで、郵送で行いました。

高齢者調査					
対象者	65歳以上（要介護1～5を除く）の市民				
発送数	3,000件	有効回収数	1,744件	有効回収率	58.1%

要介護認定者調査					
対象者	65歳以上の要介護1～5の認定を受けていて、かつ在宅で生活する市民				
発送数	2,000件	有効回収数	911件	有効回収率	45.6%

- 本項で表現する用語の意味・内容は以下のとおりです。

n	: 質問に対する回答者数
自立・要支援者	: 高齢者調査の対象者（自立の人、事業対象者、要支援者）
自立	: 介護保険の認定等を受けていない65歳以上の市民
要支援者	: 要支援認定を受けている65歳以上の市民
要介護者	: 要介護認定者調査の対象者（要介護認定を受けている65歳以上の市民）
主な介護者	: 要介護者を介護している主な家族・親族等（ホームヘルパー等の介護者は除く）

- 結果数値(%)は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えます。

### (2) 回答者の属性

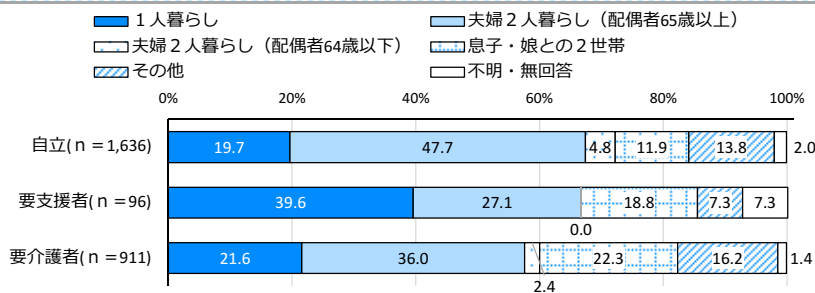
	男性	女性	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
自立・要支援者	46.6%	53.2%	18.9%	29.2%	23.2%	18.1%	8.3%	2.2%
要介護者	39.1%	60.9%	2.6%	7.9%	15.7%	21.1%	29.2%	23.5%

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂 ・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里ニュータウン ・万博・阪大
自立・要支援者	10.4%	14.2%	11.8%	14.0%	27.5%	21.9%
要介護者	13.6%	15.0%	12.4%	11.0%	21.5%	26.5%

### (3) 世帯、住まいの状況

- 世帯状況は、自立の人・要介護者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」、要支援者は「1人暮らし」が最も多くなっています。地域別の高齢者のみ世帯は千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も多くなっています。
- 住まいの形態は、自立の人は「持家（集合住宅）」、要支援者・要介護者は「持家（一戸建て）」が最も多くなっています。
- 住宅の困りごとは、介護状態が重くなるにつれて「特に困っていることはない」が低くなっています。「段差が多い」は、介護状態が重くなるにつれて回答が多くなり、要介護者は20.4%となっています。

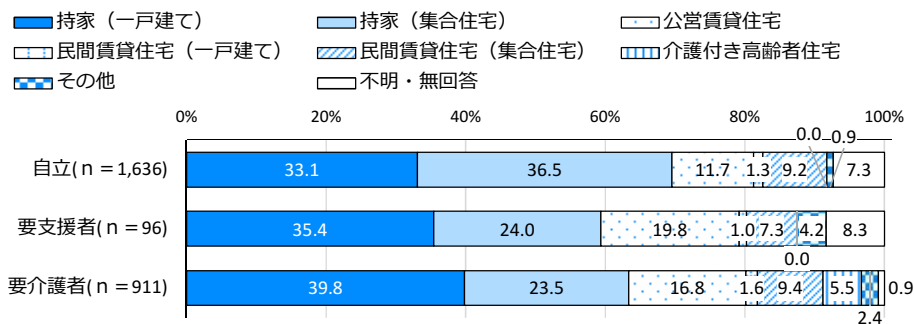
#### ①世帯状況（単数回答）



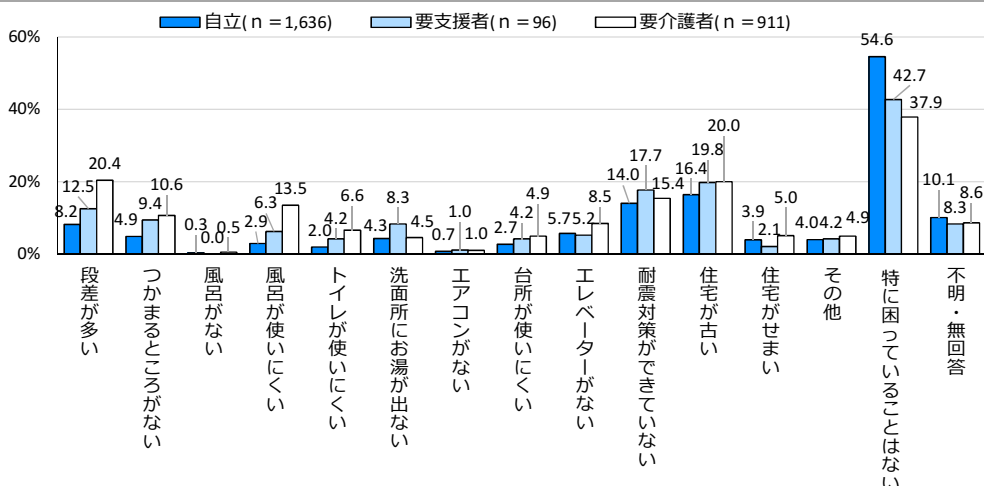
#### 地域別高齢者のみ世帯【1人暮らし・夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の計】

地域	全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
割合	66.3%	66.0%	63.4%	62.3%	63.3%	64.7%	74.3%

#### ②住まいの形態（単数回答）



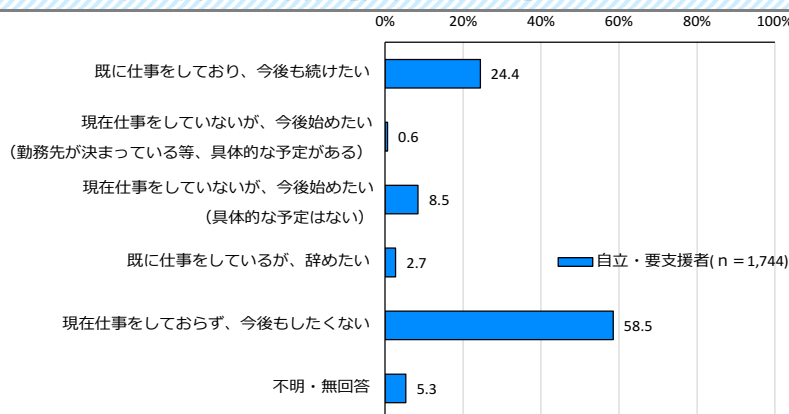
#### ③住宅の困りごと（複数回答）



## (4) 就労意向

- 今後1年間の就労意向は、「現在仕事をしておらず、今後もしたくない」が最も多くなっています。「既に仕事をしており、今後も続けたい」(24.4%)、「現在仕事をしていないが、今後始めたい(勤務先が決まっている等、具体的な予定がある)」(0.6%)、「現在仕事をしていないが、今後始めたい(具体的な予定はない)」(8.5%)を合わせた“就労意向あり”は33.5%となっています。

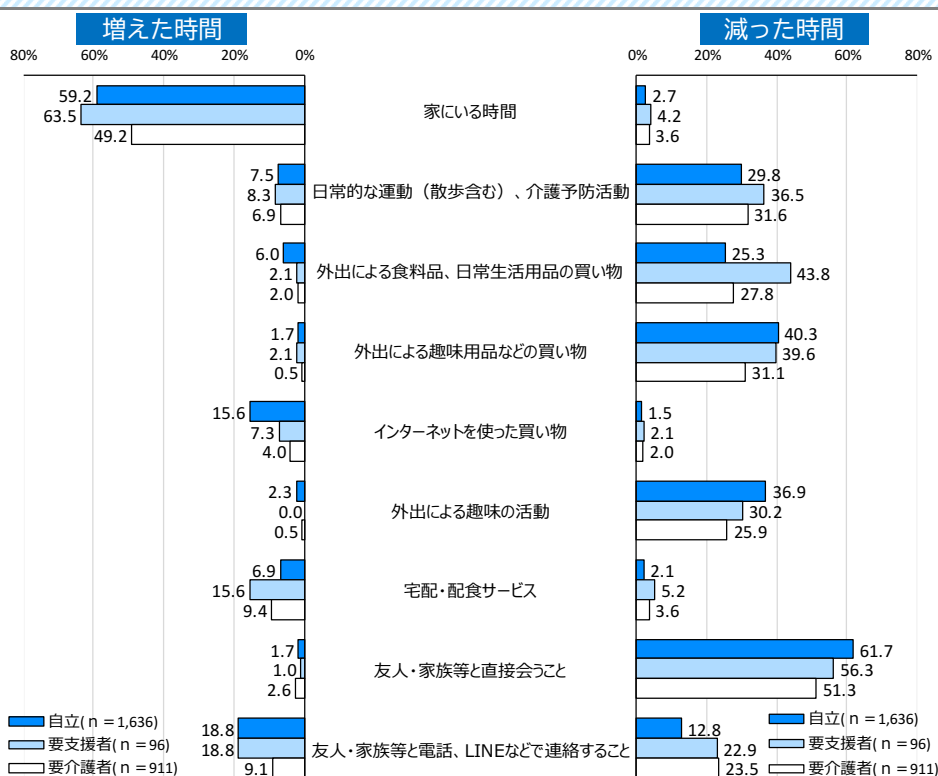
### ①今後1年間の就労意向(単数回答)【高齢者調査】



## (5) 新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化

- 新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化において「増えた時間」は、介護状態に関わらず「家にいる時間」が最も多く、要支援者は6割を超えています。
- 「減った時間」は、介護状態に関わらず「友人・家族等と直接会うこと」が最も多く、自立の人で6割を超えています。ほか、「外出による食料品、日常生活用品の買い物」は要支援者、「外出による趣味用品などの買い物」は自立の人で4割を超えています。

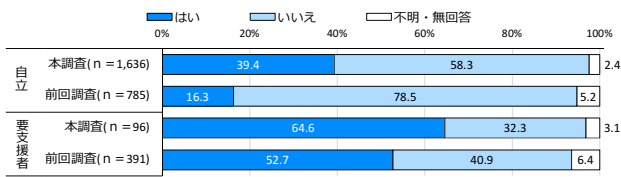
### ①新型コロナウイルス蔓延に伴う活動・行動の変化(各項目単数回答)



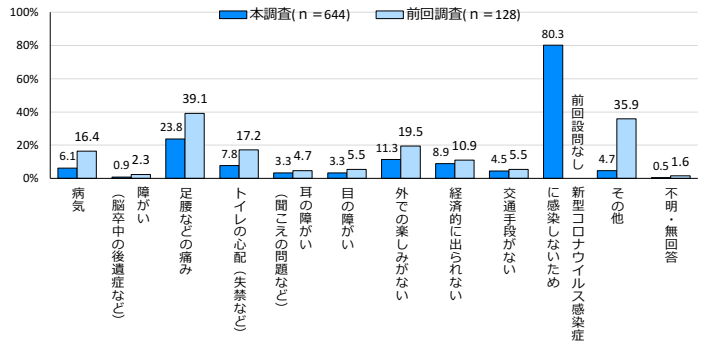
## (6) 外出の状況

- 外出を控えているか尋ねたところ、「はい」は自立の人で39.4%、要支援者で64.6%となっており、特に自立の人は前回調査から23.1ポイント増加しています。
- 自立の人に外出を控えている理由を尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症に感染しないため」が80.3%で最も多くなっています。

①外出を控えているか（単数回答）  
【高齢者調査】



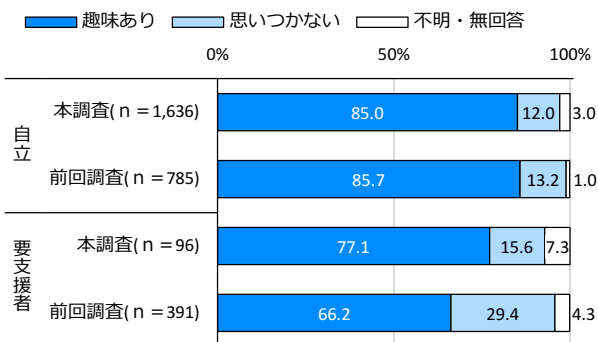
②外出を控えている理由（複数回答）  
【高齢者調査】※自立の人のみ掲載



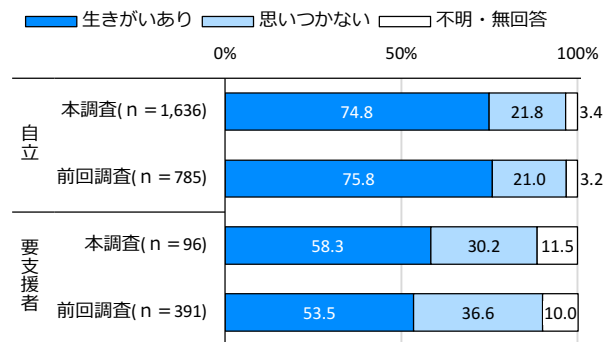
## (7) 趣味・生きがい

- 趣味の有無を尋ねたところ、「趣味あり」は自立の人が85.0%、要支援者が77.1%で、要支援者は前回調査から10.9ポイント増加しています。
- 生きがいの有無を尋ねたところ、「生きがいあり」は自立の人が74.8%、要支援者が58.3%となっています。

①趣味の有無（単数回答）【高齢者調査】



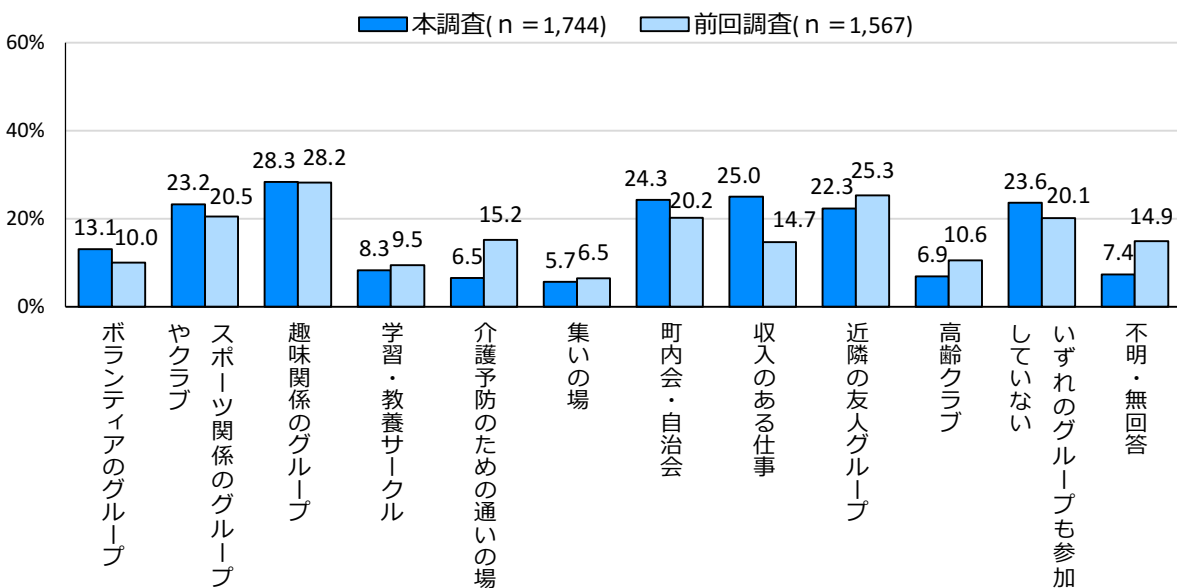
②生きがいの有無（単数回答）【高齢者調査】



## (8) 地域活動

- 参加している地域活動は「趣味関係のグループ」が最も多くなっています。前回調査から「収入のある仕事」が10.3ポイント増加しています。
- 地域別になんらかのグループに参加している人は、自立の人は山田・千里丘、要支援者は千里ニュータウン・万博・阪大が最も多くなっています。
- いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向は、自立の人・要支援者ともに「参加してもよい」が最も多くなっています。要支援者の「参加してもよい」は前回調査から14.1ポイント増加しています。

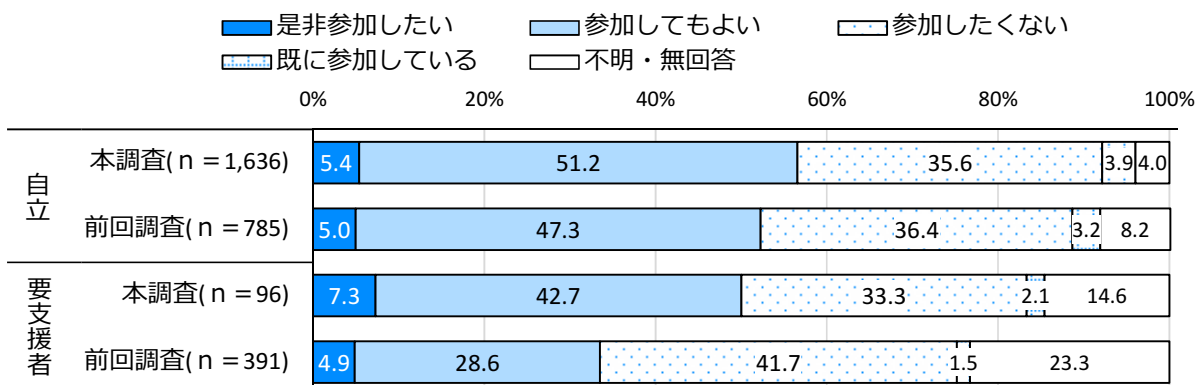
### ①参加している地域活動（複数回答）【高齢者調査】



### 地域別なんらかのグループに参加している人の割合

	全体	J R以南	片山・岸部	豊津・江坂 ・南吹田	千里山 ・佐井寺	山田・千里丘	千里 NT ・万博・阪大
自立	69.7%	67.7%	66.1%	64.3%	70.9%	76.6%	66.3%
要支援者	56.3%	57.1%	55.6%	50.0%	62.5%	44.0%	71.4%

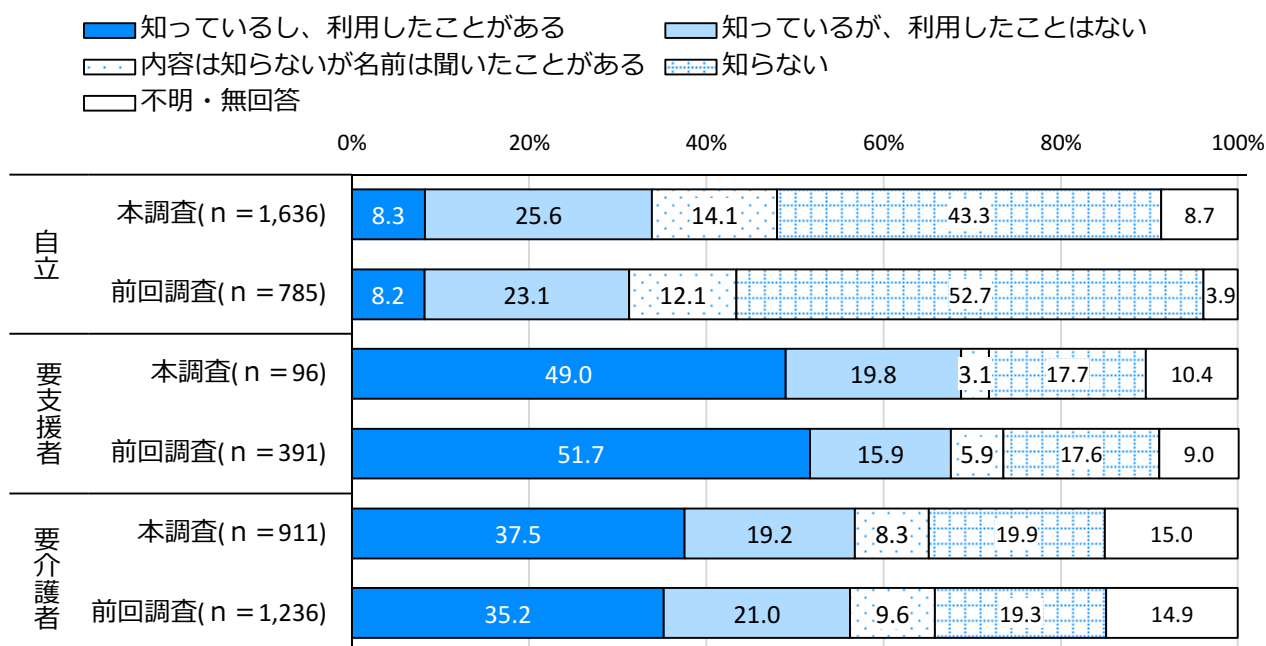
### ②いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向（単数回答）【高齢者調査】



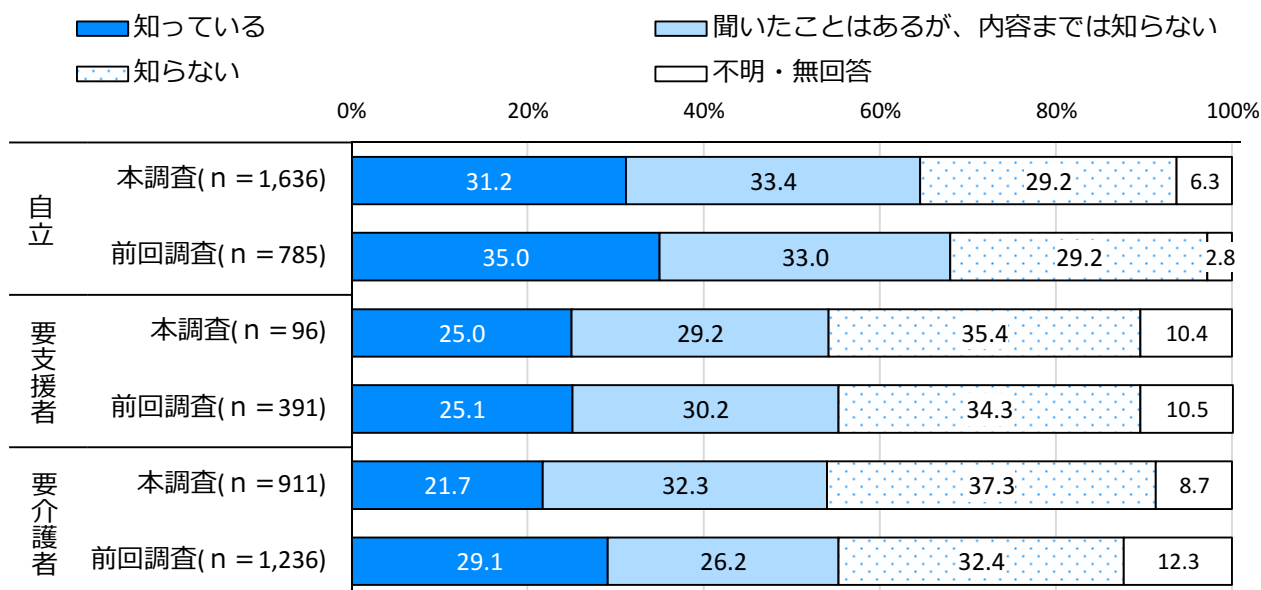
## (9) 地域包括支援センター・成年後見制度の認知度

- 地域包括支援センターの認知度について、「知っているし、利用したことがある」は自立の人で8.3%、要支援者で49.0%、要介護者で37.5%と、要支援者・要介護者では最も多い回答となっています。自立の人において「知らない」は前回調査から9.4ポイント減少しています。
- 成年後見制度について、「知っている」は自立の人で31.2%、要支援者で25.0%、要介護者で21.7%となっています。要介護者は前回調査から7.4ポイント減少しています。

### ①地域包括支援センターの認知度（単数回答）



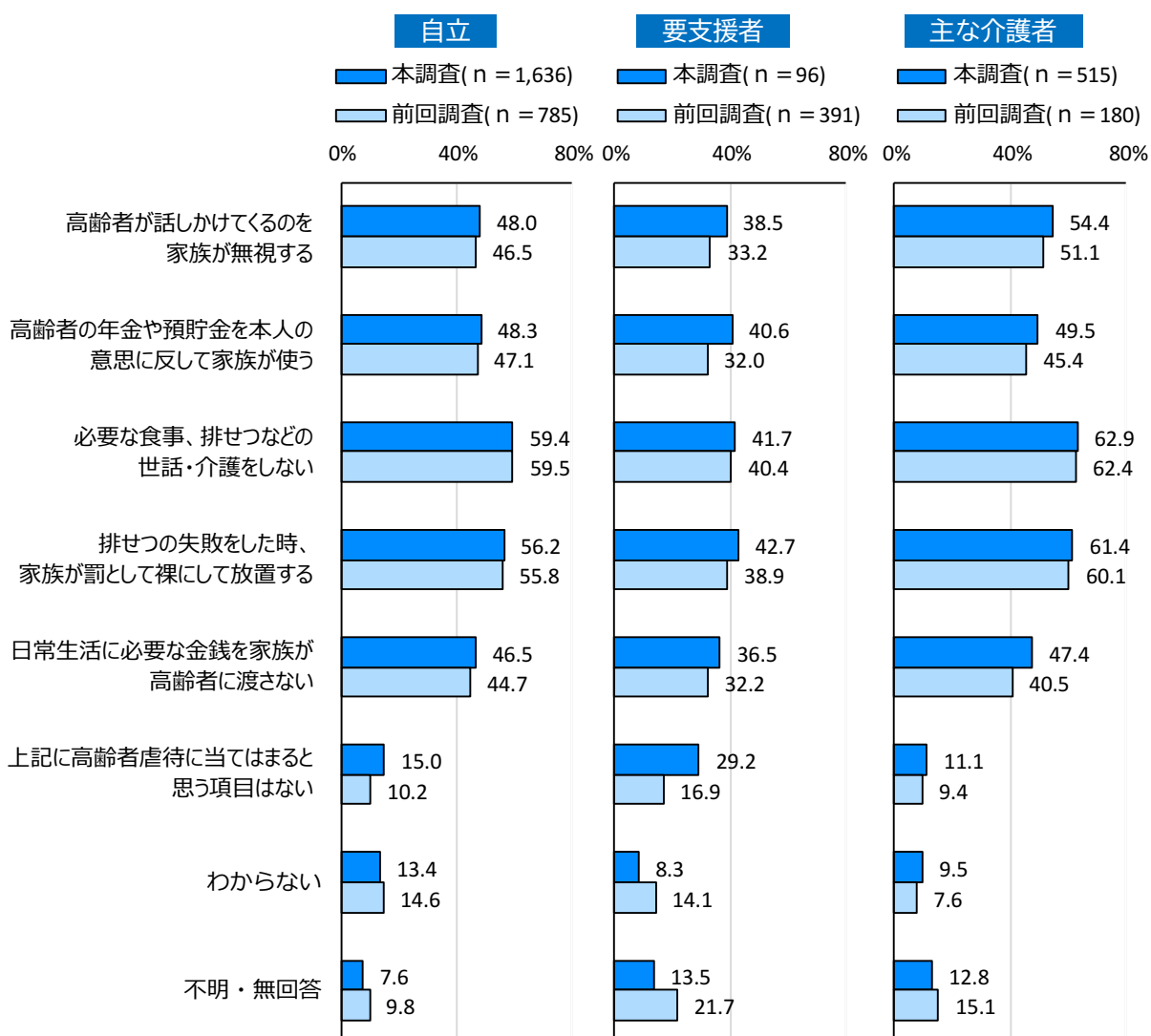
### ②成年後見制度の認知度（単数回答）



## (10) 高齢者虐待

- 高齢者虐待にあてはまるものを尋ねたところ、自立の人は「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」、要支援者は「排せつの失敗をした時、家族が罰として裸にして放置する」、主な介護者は「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」が最も多くなっています。
- 自立の人・要支援者・主な介護者ともに「上記に高齢者虐待にあてはまると思う項目はない」の回答が増えていますが、要支援者・主な介護者は高齢者虐待に該当する5項目についても、回答が増えていきます。

### ① 高齢者虐待に該当すると思うもの（複数回答）

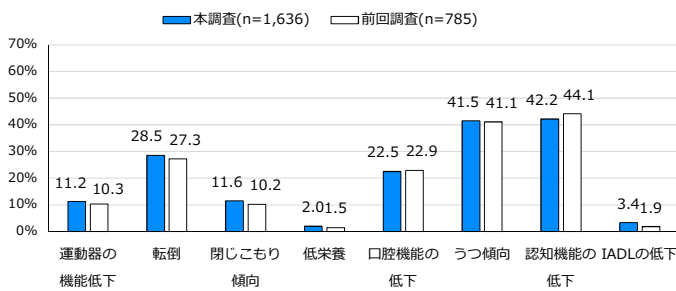




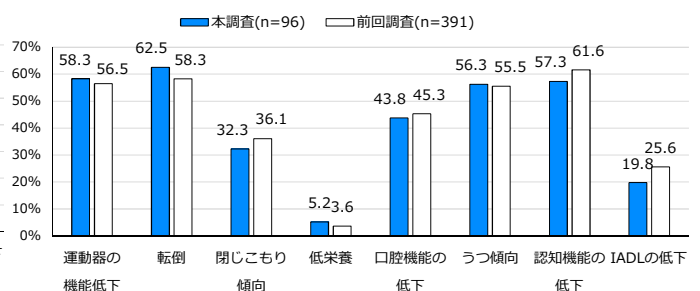
## (11) 身体機能等、リスク判定結果

- 身体機能や認知機能等のリスク判定を行った結果、自立の人のリスク判定結果は「認知機能の低下」が42.2%で最も多く、次いで「うつ傾向」が41.5%、「転倒」が28.5%となっており、前回調査とほぼ同じ結果となっています。
- 要支援者のリスク判定結果は、「転倒」が62.5%で最も多く、次いで「運動器の機能低下」が58.3%、「認知機能の低下」が57.3%となっており、前回調査とほぼ同じ結果となっています。

①自立の人のリスク判定結果  
(リスクありの人)【高齢者調査】



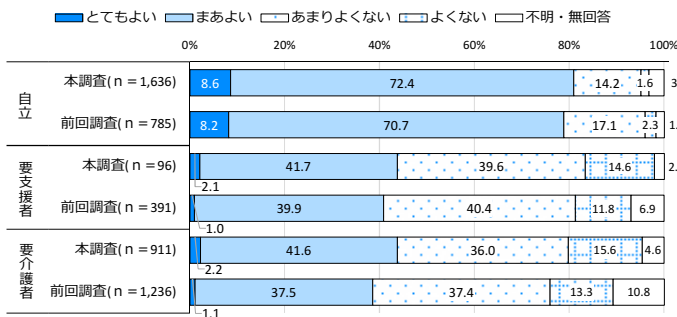
②要支援者のリスク判定結果  
(リスクありの人)【高齢者調査】



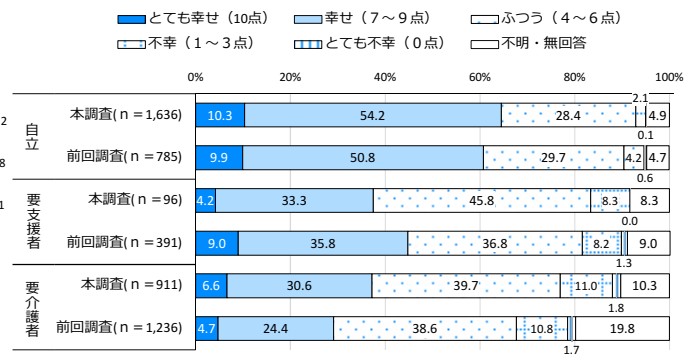
## (12) 健康・介護予防

- 主観的健康感は、自立の人・要支援者・要介護者ともに「まあよい」が最も多くなっていますが、要支援者・要介護者は自立の人より30ポイント以上低くなっています。
- 幸福感は、自立の人は「幸せ」、要支援者・要介護者は「ふつう」が最も多くなっています。自立の人・要介護者は「とても幸せ」「幸せ」が前回調査から若干増えているのに対し、要支援者は減り、「ふつう」が増えています。

①主観的健康感 (単数回答)

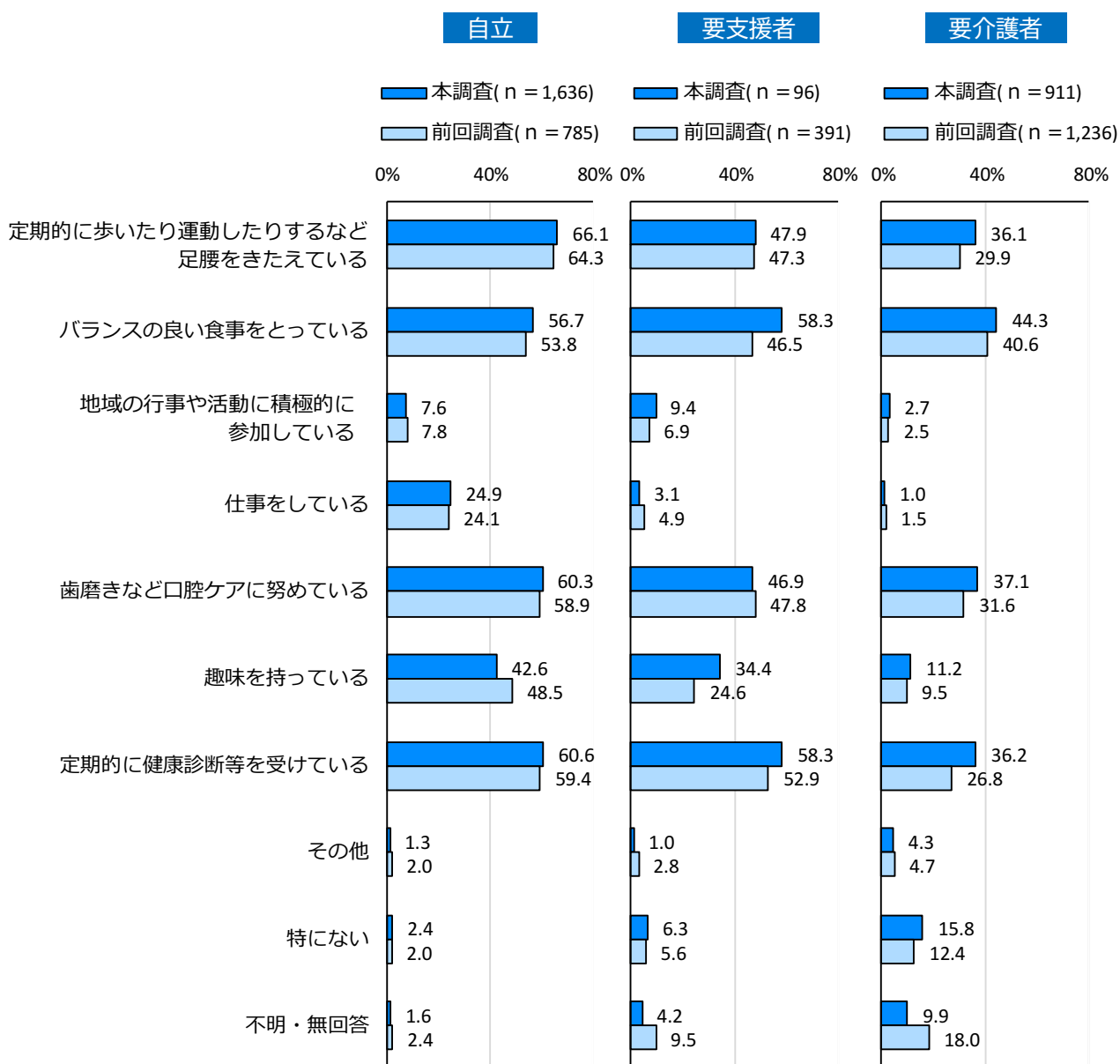


②幸福感 (単数回答)



- 健康の保持・増進や介護予防で心がけていることは、自立の人は「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」、要支援者は「バランスの良い食事をとっている」と「定期的に健康診断等を受けている」、要介護者は「バランスの良い食事をとっている」が最も多くなっています。
- 前回調査と比較すると、要支援者で「バランスの良い食事をとっている」は前回調査から10ポイント以上増加しています。

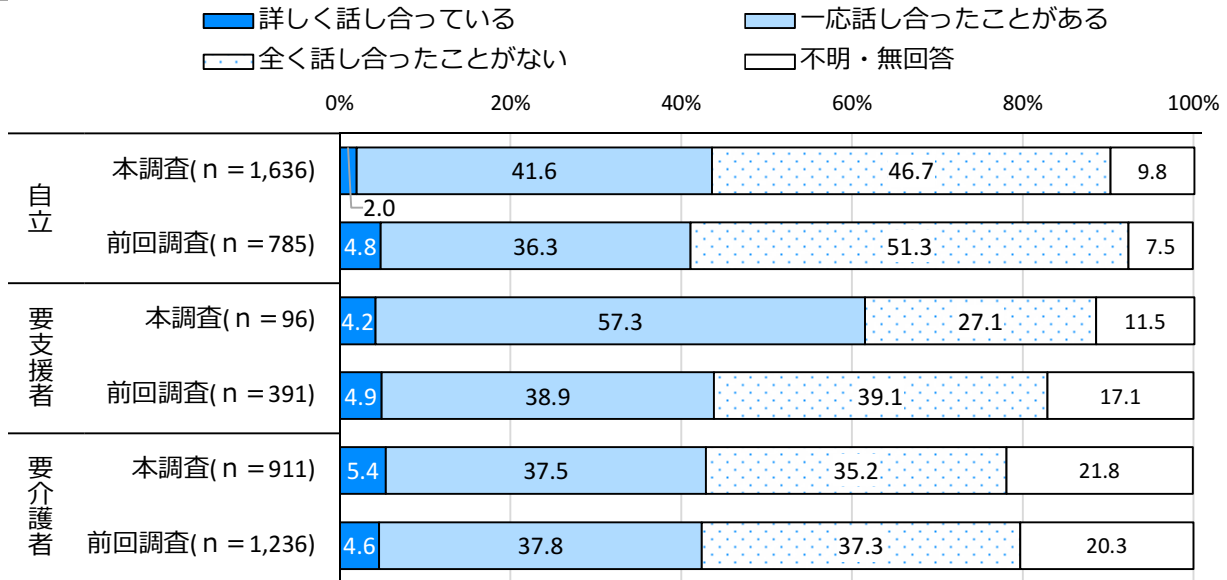
③健康の保持・増進や介護予防のために心がけていること（複数回答）



### (13) 在宅医療

● 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことの有無について、自立の人は「全く話し合ったことがない」、要支援者・要介護者は「一応話し合ったことがある」が最も多くなっています。要支援者は「一応話し合ったことがある」が前回調査から18.4ポイント増加しています。

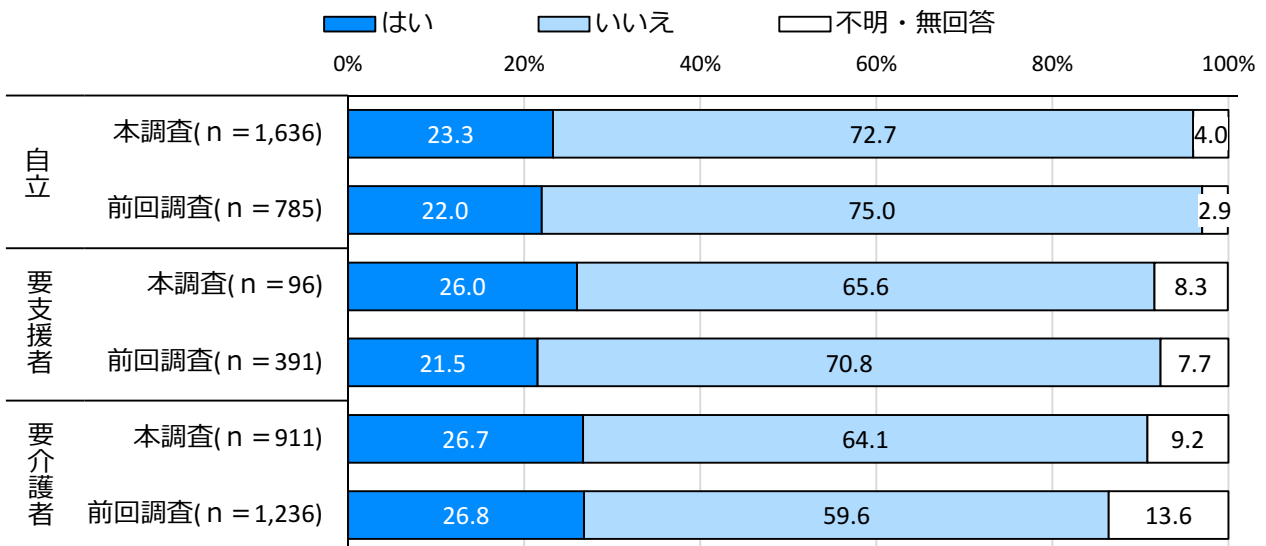
① 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことの有無（単数回答）



### (14) 認知症

● 認知症の相談窓口を知っているか尋ねたところ、「はい」は自立の人で23.3%、要支援者で26.0%、要介護者で26.7%と、前回調査とほぼ同じ結果になっています。

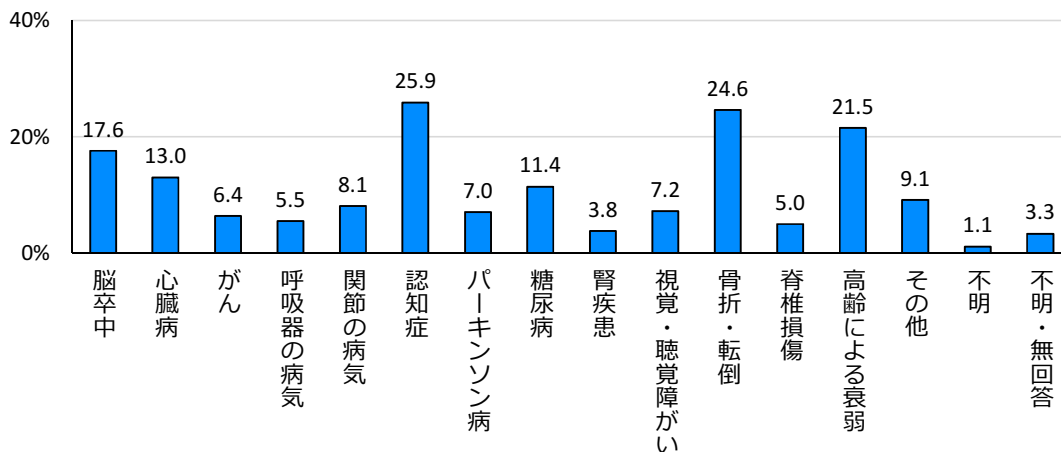
① 認知症の相談窓口の認知度（単数回答）



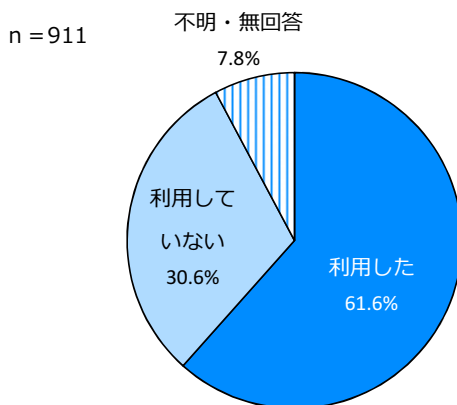
## (15) 介護保険サービス

- 介護・介助が必要になった原因は、「認知症」が25.9%で最も多く、次いで「骨折・転倒」となっています。
- 介護保険サービスの利用状況は、「利用した」が61.6%、「利用していない」が30.6%となっています。
- 利用している介護保険サービス全体を通しての満足度は、「満足」が56.9%、次いで「どちらともいえない」が8.9%、「不満」が2.8%となっています。

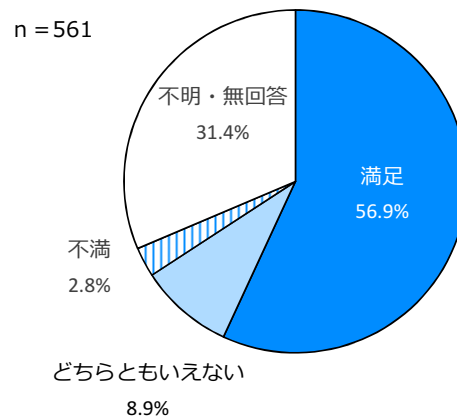
### ①介護・介助が必要になった原因（複数回答）【要介護認定者調査】



### ②介護保険サービスの利用状況（単数回答）【要介護認定者調査】



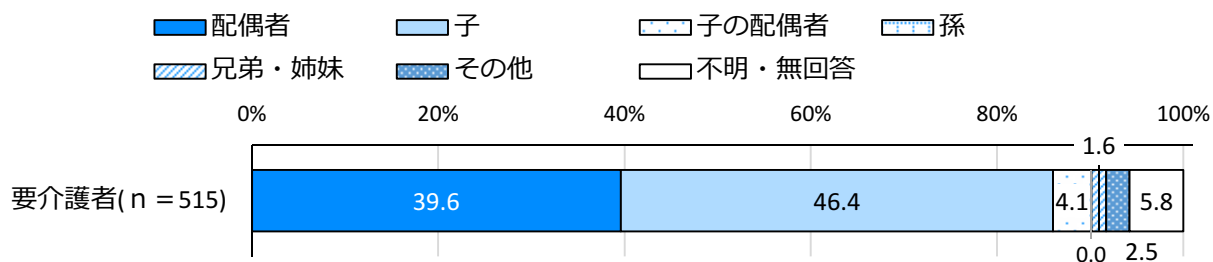
### ③サービス全体の満足度（単数回答）【要介護認定者調査】



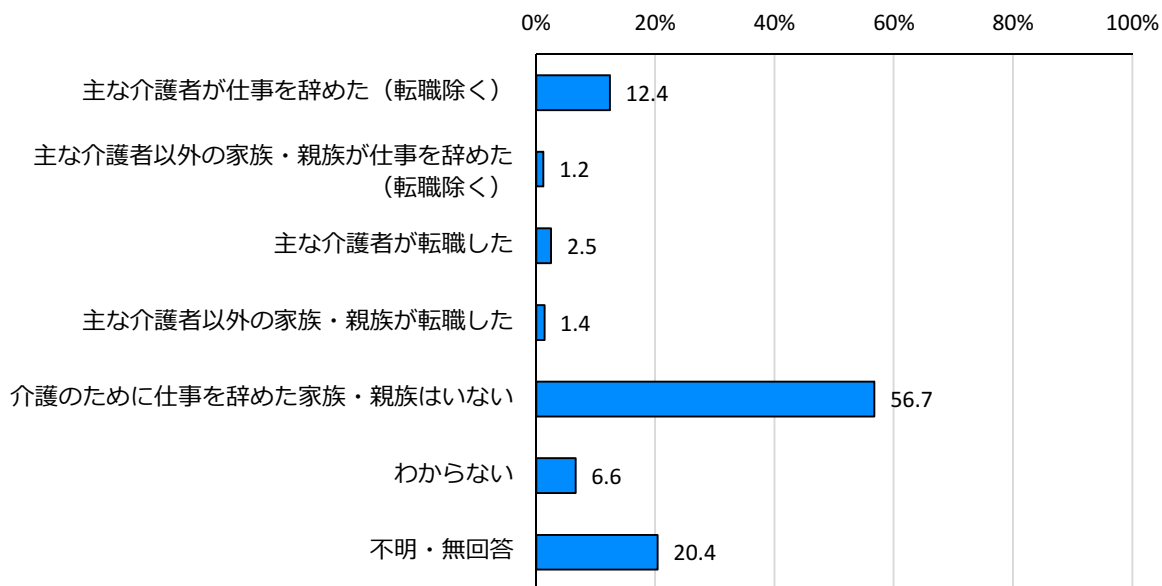
## (16) 介護者の状況

- 主な介護者は、「子」が46.4%で最も多く、次いで「配偶者」が39.6%となっています。
- 介護を理由とした離職状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が56.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が12.4%となっています。

① 主な介護者（単数回答）【要介護認定者調査】

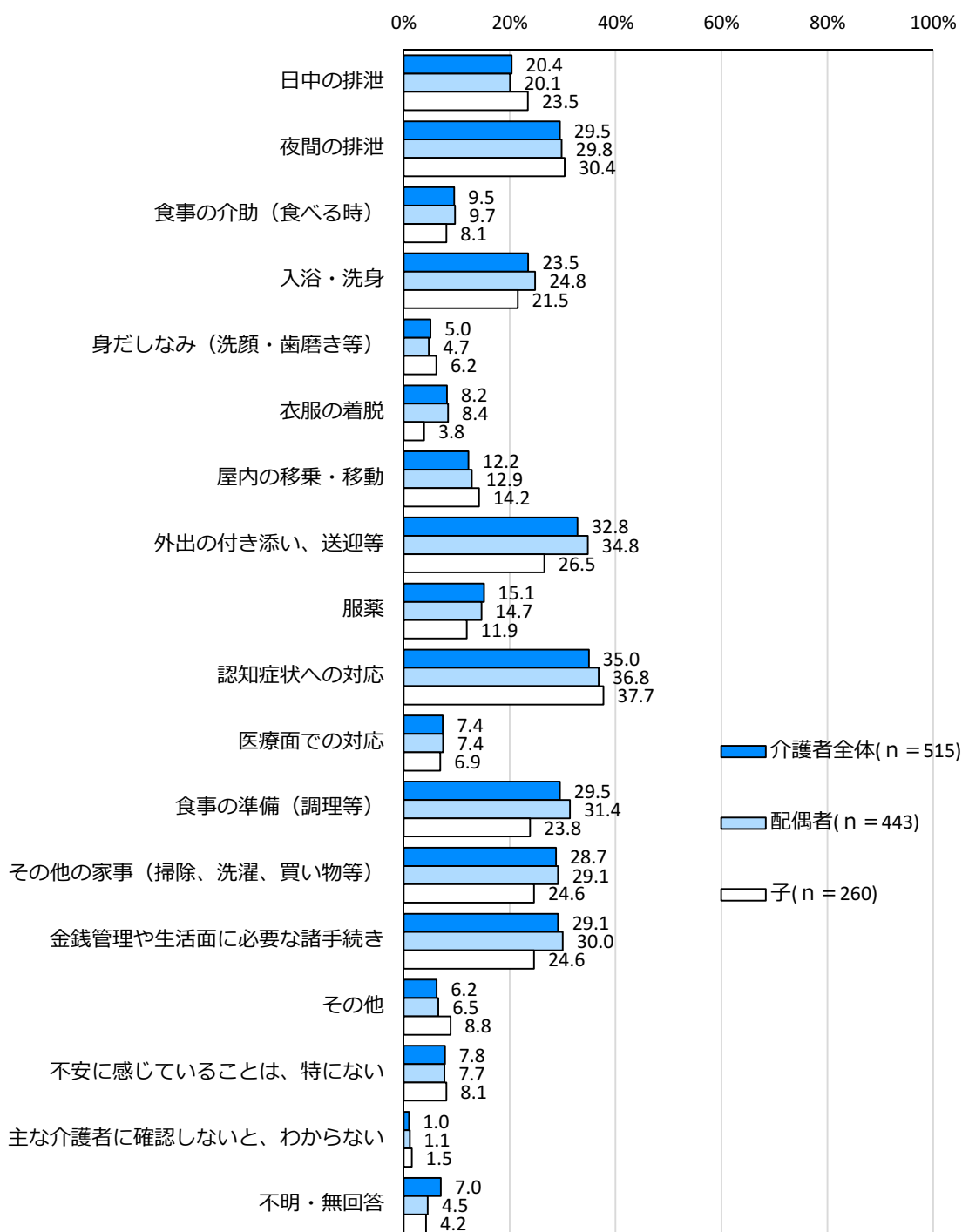


② 介護を理由とした離職状況（複数回答）【要介護認定者調査】



- 主な介護者が不安に感じる介護の内容は、「認知症状への対応」が35.0%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が32.8%、「夜間の排泄」「食事の準備（調理等）」がともに29.5%となっています。
- 主な介護者別にみると、配偶者・子ともに「認知症状への対応」が最も多く、次いで配偶者は「外出の付き添い、送迎等」、子は「夜間の排泄」となっています。

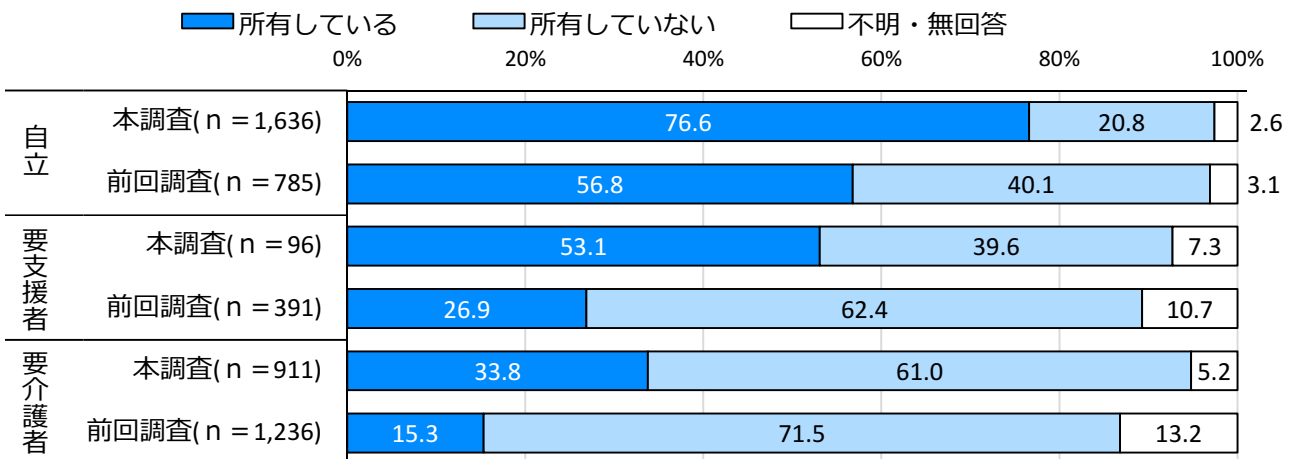
③ 主な介護者が不安に感じる介護の内容（複数回答）【要介護認定者調査】



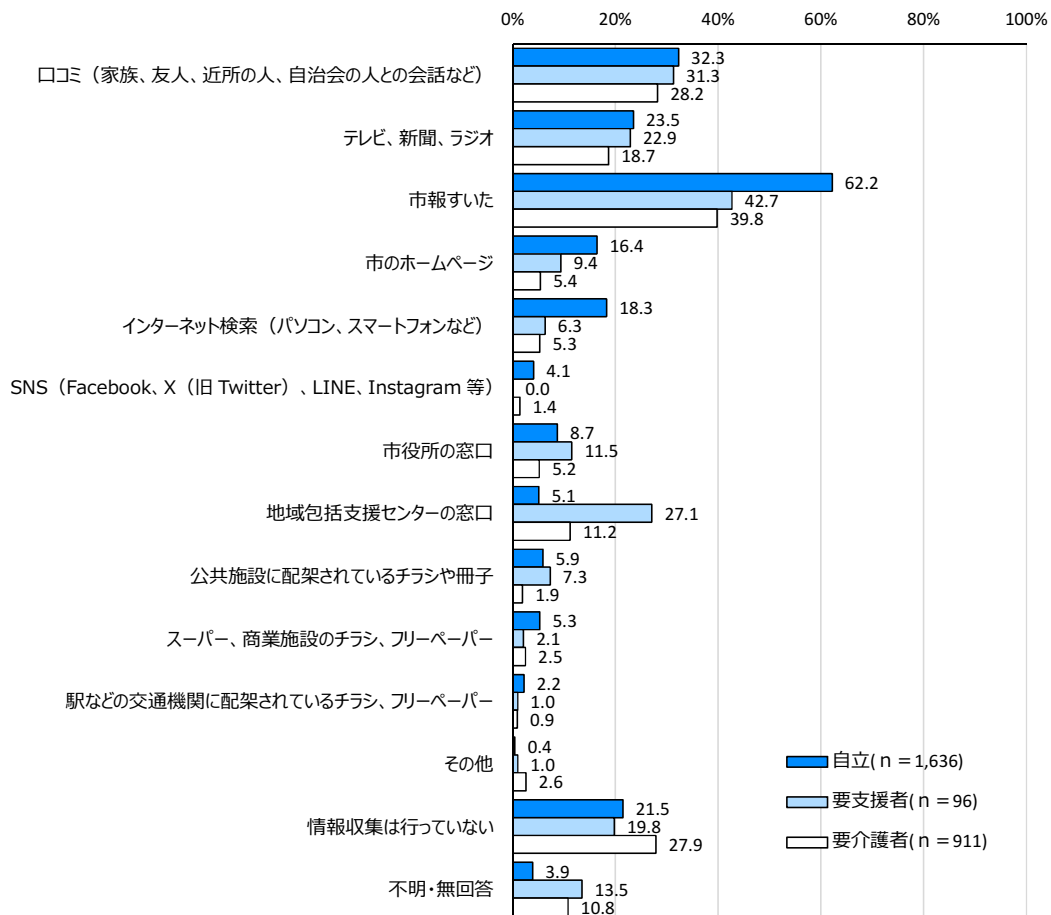
## (17) 情報収集

- スマートフォンの所有状況は、自立の人・要支援者は「所有している」、要介護者は「所有していない」が最も多くなっています。「所有している」は大きく増加しています。
- 介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段は、介護状態に関わらず「市報すいた」が最も多く、自立の人は6割を超えています。「地域包括支援センターの窓口」は要支援で27.1%と、自立の人・要介護者より10ポイント以上多くなっています。

### ①スマートフォンの所有状況（単数回答）



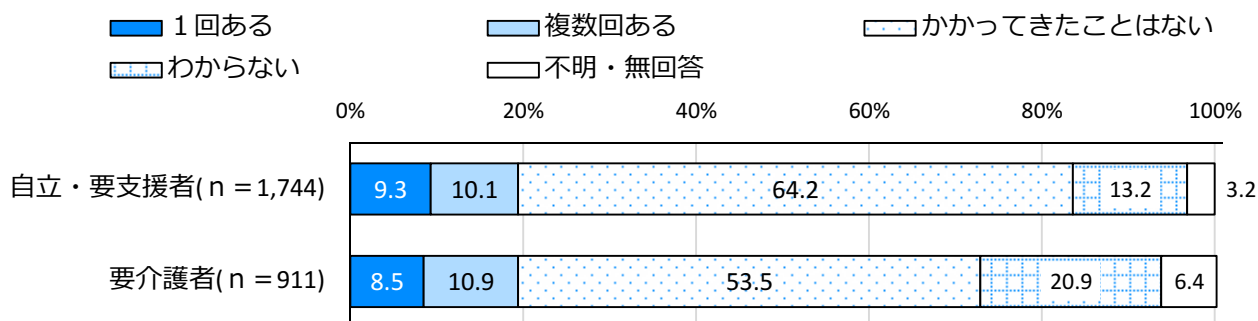
### ②介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段（複数回答）



## (18) 防犯・防災

- 過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきたことは、自立・要支援者、要介護者ともに「1回ある」「複数回ある」を合わせた“ある”が約2割となっています。地域別にみると、JR以南地域が21.9%で最も多く、山田・千里丘地域が17.6%で最も低くなっています。
- 災害に備えた対策は、自立・要支援者、要介護者ともに「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」が最も多く、次いで「食料や飲料水、日用品などを準備している」となっています。ほとんどの項目で自立・要支援者より要介護者の割合が少なくなっています。

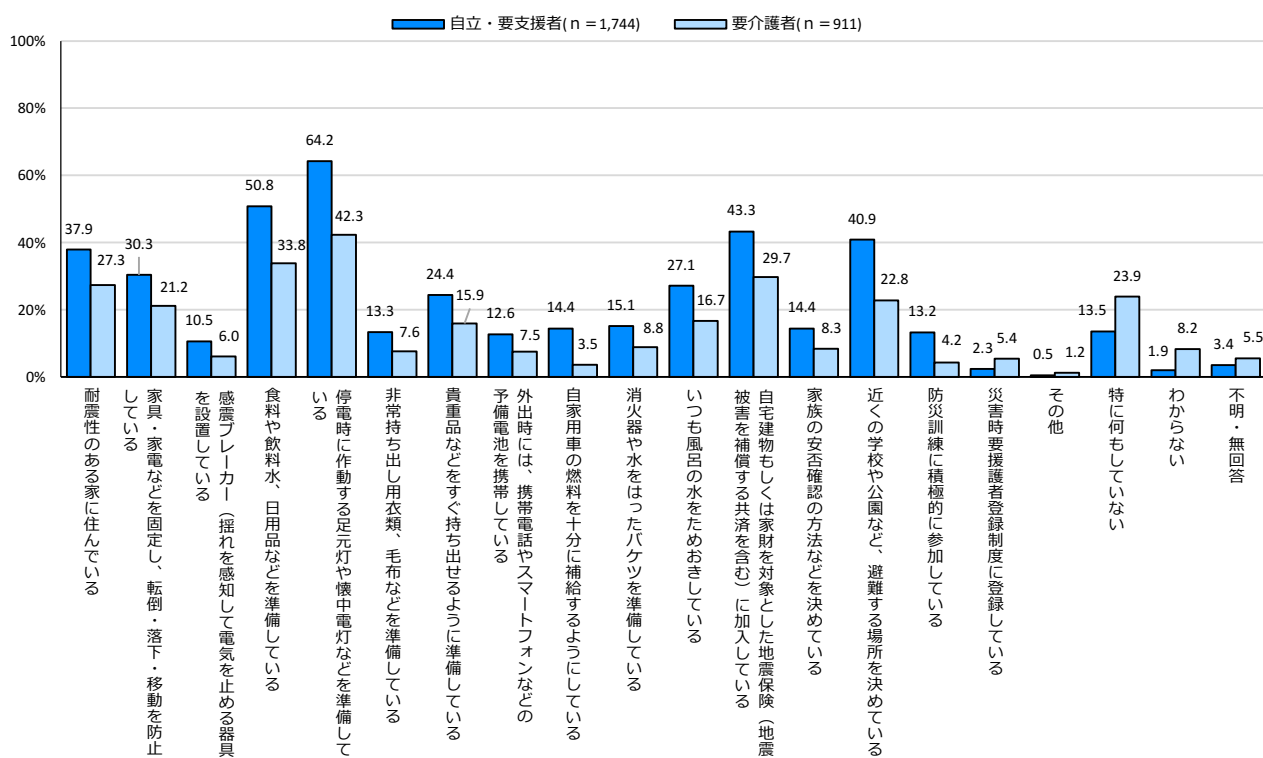
### ①過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきた回数（単数回答）



### 地域別過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきた経験のある人の割合

全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
19.4%	21.9%	18.9%	21.2%	21.1%	17.6%	18.7%

### ②災害に備えた対策（複数回答）

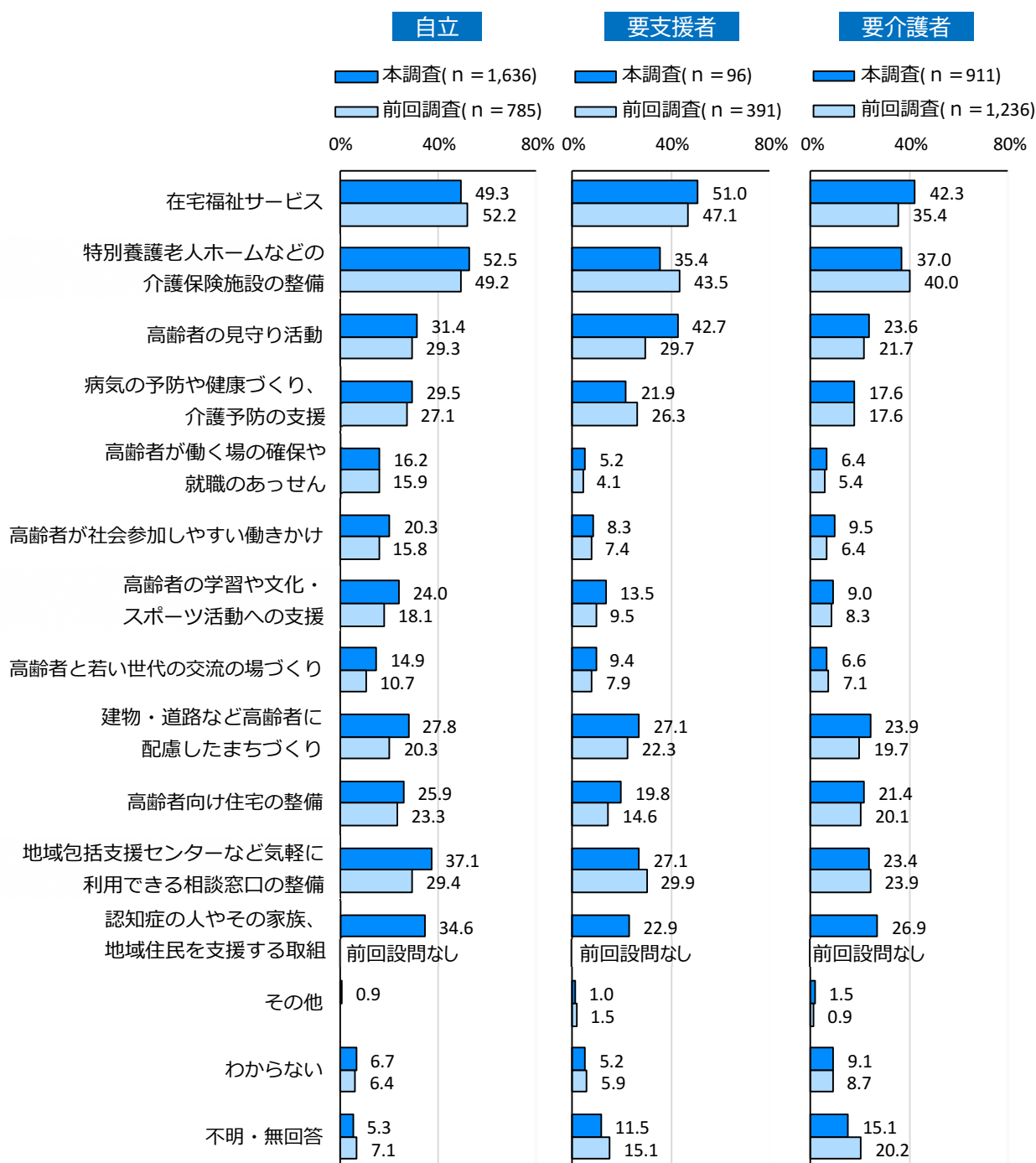




## (19) 望む高齢者保健福祉施策

- 望む高齢者保健福祉施策は、自立の人は「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」、要支援者・要介護者は「在宅福祉サービス」が最も多く、前回調査もこの2項目は多い回答となっています。
- 「高齢者の見守り活動」は要支援者で42.7%と、前回調査から10ポイント以上増加しています。

### ①望む高齢者保健福祉施策（複数回答）



## (20) めざすまちの姿に対する評価

- 吹田健やか年輪プランで掲げる8つの基本目標に対する評価（「そう思う」と「どちらかというと思う」と答えた人）で最も高い評価は、自立の人で「生きがいを持って暮らすことができる」、要支援者・要介護者で「吹田市内で、必要な介護保険サービスを受けることができる」となっています。
- 2番目に評価が高いのは、自立の人で「吹田市内で、必要な介護保険サービスを受けることができる」、要支援者・要介護者で「困ったときに相談できる窓口が身近にある」となっています。
- 3番目に評価が高いのは、介護状態に関わらず「健康や介護予防に関心を持ち、取り組むことができる」となっています。

### ①めざすまちの姿に対する評価（複数回答）

※下表は選択肢のうち「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した値を表記

